

2) 調査の結果

現地調査結果の概要は、表 11-11-6 に示すとおりです。

表 11-11-6 現地調査結果の概要

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	6 目 15 科 21 種	コキクガシラコウモリ(ニホンコキクガシラコウモリ)、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、カヤネズミ、アナグマ、カモシカの 8 種
鳥類	15 目 38 科 117 種	オシドリ、トモエガモ、ミコアイサ、ゴイサギ、ササゴイ、チュウサギ、ヒクイナ、バン、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、ヤマシギ、タカブシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメ、ノビタキ、ビンズイ、ホオアカの 30 種
両生類・爬虫類	両生類 1 目 5 科 10 種	アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ネバタゴガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ツチガエルの 6 種
	爬虫類 2 目 8 科 14 種	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、シロマダラ、ヤマカガシの 7 種
魚類	11 目 21 科 45 種	ニホンウナギ、カワムツ、タモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ、ウツセミカジカ(淡水性両側回遊型)、イドミミズハゼ注1)、トビハゼ、マサゴハゼ、カワヨシノボリ、ビリンゴ、エドハゼの 12 種
底生動物	41 目 138 科 282 種	マルタニシ、ウミニナ、イボウミニナ、タケノコカワニナ、フトヘナタリガイ、ヘナタリガイ、カワグチツボ、クリイロカワザンショウガイ、ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ、ヨシダカワザンショウガイ、エドガワミズゴマツボ、ヒガタヨコイトカケギリガイ、シゲヤスイトカケギリガイ、ヌカルミクチキレガイ、オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、ナガオカモノアラガイ、ヌマガイ、ウネナシトマヤガイ、ヤマトシジミ、ハマグリ、ユウシオガイ、クチバガイ、ソトオリガイ、オヤイツオキナガイ、イトメ、ウモレベンケイガニ、クシテガニ、ベンケイガニ、ハマガニ、エサキアメンボ、コオイムシ、ヒメタイコウチ、オオマルケシゲンゴロウ、コガムシの 37 種
昆虫類	21 目 249 科 1192 種	マイコアカネ、オオゴキブリ、オオアメンボ、コオイムシ、ヒメタイコウチ、ヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲ、コガムシ、ヘイケボタル、トゲアリ、ヤマトアシナガバチ、モンズメバチの 12 種
陸産貝類	3 目 17 科 47 種	オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ、ナガオカモノアラガイ、ヒラドマルナタネガイ、ミカワギセル、イボイボナメクジ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ウラウズタカキビ、ヒメカサキビの 10 種
クモ類	1 目 29 科 130 種	キノボリトタテグモ、オニグモ、コガネグモ、シロオビトリノフンダマシ、ツシマトリノフンダマシ、カコウコモリグモの 6 種

注1) イドミミズハゼは、動物(両生・爬虫類)の専門家による技術的助言に従い、魚類調査として実施・整理した。

① 哺乳類

(a) 哺乳類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-7 に示すとおり、6 目 15 科 21 種の哺乳類が確認されました。

表 11-11-7 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期														重要な種
				R2 調査			R3 調査			R4 調査			R6 調査			R7 調査		
				秋季	冬季	早春	春季	初夏	夏季	春季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季		
1	モグラ目	トガリネズミ科	ジネズミ	○	○		○	○	○					○				
2		モグラ科	コウベモグラ※5	○	○		○	○	○				○	○	○	○		
3	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ (ニホンコキガシラコウモリ)		○					○							○	
4			キクガシラコウモリ		○		○		○		○							○
5		ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ							○								○
6			アブラコウモリ							○								
—			※1				○		○				○	○		○		
7	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	○	○		○										○	
8	ネズミ目	リス科	ニホンリス ※2 ※5				○											○
9		ネズミ科	アカネズミ	○			○		○									
10			カヤネズミ		○	○	○		○						○			○
11		ヌートリア科	ヌートリア	○	○			○	○									
12	ネコ目	アライグマ科	アライグマ		○									○	○	○		
13		イヌ科	タヌキ	○	○		○		○				○	○	○	○		
14			キツネ		○		○		○					○	○	○		
15		イタチ科	シベリアイタチ※3	○														
16			ニホンイタチ※4					○										
—			イタチ属	○	○		○		○					○	○	○	○	
17			アナグマ						○									○
18	ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○		○		○				○	○	○	○			
19	ウシ目	イノシシ科	イノシシ	○	○				○									
20		シカ科	ニホンジカ	○	○													
21		ウシ科	カモシカ ※5	○			○											○
	6 目	15 科	21 種	11 種	13 種	1 種	12 種	4 種	12 種	4 種	0 種	1 種	5 種	8 種	7 種	7 種	8 種	

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024)に準拠した。
 注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)
 ※1 ヒナコウモリ科の1種は、モモジロコウモリ(レッドリストあいち2020: 絶滅危惧Ⅱ類)、ヒナコウモリ(レッドリストあいち2020: 絶滅危惧ⅠB類)、ヤマコウモリ(環境省レッドリスト2020: 絶滅危惧Ⅱ類)の可能性があるが、種までの同定に至っていないことから重要種から除外した。
 ※2 ニホンリス: 腹面の体毛が白色であり、耳の形状が大きいことなどからクリハラリスと区別し同定した。
 ※3 環境省レッド2020で、チョウセンイタチの和名がシベリアイタチに変更され、ENとなっているが、自然分布域は対島であるためランクを付けない。
 ※4 ニホンイタチ: 目視により明らかに体のサイズが小型であったことからシベリアイタチと区別し同定した。
 ※5 両爬哺乳 DB では、ニホンリスとカモシカが環境省 LP、コウベモグラが愛知 LP だが、このうちコウベモグラは本地域は該当しないため除外した。

(b) 重要な哺乳類

現地調査で確認された種のうち、重要な哺乳類はキクガシラコウモリやカモシカ等の 8 種でした。

現地調査で確認された重要な哺乳類を表 11-11-8 に示します。

表 11-11-8 現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ (ニホンコキクガシラコウモリ)						NT	NT
2			キクガシラコウモリ						NT	NT
3		ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ						VU	NT
4	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ						NT	
5	ネズミ目	リス科	ニホンリス						NT	N-III
6		ネズミ科	カヤネズミ						VU	NT
7	ネコ目	イタチ科	アナグマ						NT	
8	ウシ目	ウシ科	カモシカ	国特						
	5 目	7 科	8 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	7 種	5 種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
 国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
 指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
 指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類
 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類
 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
 N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自のカテゴリー)

(b) 重要な鳥類

現地調査で確認された種のうち、重要な鳥類はチュウサギ、ケリ、サンショウクイ等の 30 種でした。動物(鳥類・猛禽類)の技術的助言で指摘されたチュウヒ、ミゾゴイのうち、チュウヒが確認されました。

現地調査で確認された重要な鳥類を表 11-11-10 に示します。

表 11-11-10 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準									
				①	②	③	④	⑤	⑥			⑦	
									繁殖	越冬	通過		
1	カモ目	カモ科	オシドリ					DD	VU	NT			
2			トモエガモ					VU		VU		VU	
3			ミコアイサ										NT
4	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ						NT	NT		N-III	
5			ササゴイ									EN	
6			チュウサギ					NT	NT		NT		
7	ツル目	クイナ科	ヒクイナ					NT	VU		NT	VU	
8			バン						VU	NT			
9	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ						VU		NT		
10	チドリ目	チドリ科	ケリ					DD	NT	VU			
11			イカルチドリ						VU	NT		NT	
12		シギ科	ヤマシギ							NT		DD	
13			タカブシギ					VU			EN	VU	
14			タカ目	ミサゴ科	ミサゴ					NT	VU		N-III
15	タカ科	タカ科	ハチクマ					NT	VU			VU	
16			チュウヒ		国内			EN	CR	VU		EN	
17			ハイロチュウヒ								VU		N-II
18			ツミ							NT			
19			ハイタカ						NT		NT		VU
20			オオタカ						NT	VU	VU		NT
21			サシバ						VU	EN		NT	VU
22			クマタカ		国内				EN	EN	EN		VU
23	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ						NT	NT		NT	
24	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内			VU	VU	NT		VU	
25	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ					VU				EN	
26		カササギヒタキ科	サンコウチョウ									NT	
27		ツバメ科	コシアカツバメ									VU	
28		ヒタキ科	ノビタキ									N-II	
29		セキレイ科	ビンズイ						EX	VU			
30		ホオジロ科	ホオアカ						EX	NT			
	9 目	16 科	30 種	0 種	3 種	0 種	0 種	15 種	19 種	16 種	5 種	22 種	

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
 国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
 指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
 指定：指定希少野生動植物種

- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
 N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自のカテゴリー)

③ 両生類

(a) 両生類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-11 に示すとおり、1 目 5 科 10 種の両生類が確認されました。

表 11-11-11 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2 調査		R3 調査			R6 調査			R7 調査			
				秋季	早春季	春季	初夏季	夏季	秋季	夏季	秋季	早春季	春季		
1	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		○					○					○
2		アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○	○	○			○	○	○		○	
3		アカガエル科	ニホンアカガエル		○						○	○		○	○
4			ネバタゴガエル					○			○			○	○
5			トノサマガエル			○	○			○	○	○		○	○
6			ナゴヤダルマガエル			○	○			○					○
-			トノサマガエル属の一種				○				○				
7			ウシガエル	○	○	○	○				○	○		○	
8			ツチガエル				○								○
9			ヌマガエル科	ヌマガエル	○		○	○			○	○	○		○
10	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	○	○	○	○							○		
	1 目	5 科	10 種	4 種	5 種	6 種	7 種	1 種	5 種	7 種	5 種	0 種	7 種	6 種	

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024) に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

(b) 重要な両生類

現地調査で確認された種のうち、重要な両生類はトノサマガエル、ナゴヤダルマガエル等の 6 種でした。動物(両生・爬虫類)の技術的助言で指摘されたアカハライモリ、ネバタゴガエルのうち、ネバタゴガエルが確認されました。

現地調査で確認された重要な両生類を表 11-11-12 に示します。

表 11-11-12 現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル							N-III
2		アカガエル科	ニホンアカガエル							VU
3			ネバタゴガエル							N-III
4			トノサマガエル					NT		NT
5			ナゴヤダルマガエル					EN	VU	CR
6			ツチガエル							NT
	1 目	2 科	6 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種	1 種	6 種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自のカテゴリー)

④ 爬虫類

(a) 爬虫類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-13 に示すとおり、2 目 8 科 14 種の爬虫類が確認されました。

表 11-11-13 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期											重要な種
				R2 調査		R3 調査				R6 調査			R7 調査		
				秋季	早春季	春季	初夏	夏季	秋季	夏季	秋季	早春季	春季		
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	○		○	○					○		○	○
2			クサガメ	○	○	○	○	○			○	○		○	○
3		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	○		○	○				○	○		○	
4			スッポン科	ニホンスッポン			○	○			○			○	○
—		—	—	カメ目の一種							○				
5	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	○		○	○		○		○			○	
6		トカゲ科	ヒガシニホントカゲ				○	○			○	○			○
7		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○		○	○	○			○	○		○	
8			ナミヘビ科	シマヘビ			○	○				○			
9				アオダイショウ			○	○	○	○					
10				ジムグリ				○							
11				シロマダラ	○					○					○
12				ヒバカリ	○		○	○		○					
13				ヤマカガシ	○			○		○		○			○
14			クサリヘビ科	ニホンマムシ	○			○		○		○		○	
	2 目	8 科	14 種	9 種	1 種	9 種	13 種	4 種	6	5 種	9 種	0 種	6 種	7 種	

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024) に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

(b) 重要な爬虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な爬虫類はニホンイシガメ等の 7 種でした。

現地調査で確認された重要な爬虫類を表 11-11-14 に示します。

表 11-11-14 現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ					NT	NT	NT
2			クサガメ							N-III
3		スッポン科	ニホンスッポン					DD	DD	DD
4	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ							N-III
5		トカゲ科	ヒガシニホントカゲ							N-II
6		ナミヘビ科	シロマダラ						DD	DD
7			ヤマカガシ						DD	DD
	2 目	5 科	7 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種	4 種	6 種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 I B 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自の 카테고리)

⑤ 魚類

(a) 魚類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-15(1)～(2)に示すとおり、11目21科45種の魚類が確認されました。

表 11-11-15(1) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期							重要な種				
				R2調査	R3調査		R4調査		R5調査	R6調査		R7調査			
				秋季	春季	夏季	春季	秋季	秋季	夏季		秋季	春季		
1	トビエイ目	アカエイ科	アカエイ	○							○	○			
2	カライワシ目	カライワシ科	カライワシ		○					○					
3	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	○	○	○				○		○	○		
4	コイ目	コイ科	コイ(飼育型)		○	○						○			
5			ゲンゴロウブナ※1			○								※1	
6			フナ類	○											
—			フナ属		○	○						○	○		
7			タイリクバラタナゴ	○	○	○									
8			オイカワ	○	○	○									
9			カワムツ	○	○	○								○	
10			ウグイ		○										
11			モツゴ	○	○	○									
12			タモロコ	○		○								○	
13				ドジョウ科	ドジョウ	○	○	○							○
14			ナマズ目	ナマズ科	ナマズ		○	○							
15	サケ目	アユ科	アユ		○							○			
16	タウナギ目	タウナギ科	タウナギ(本土産)			○									
17	ボラ目	ボラ科	ボラ	○	○	○				○	○	○			
18			メナダ								○				
19	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○	○	○				○					
20	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	○	○								○		
21			メダカ(飼育品種)			○									
22		サンマ科	サンマ		○										
23	スズキ目	メバル科	メバル類		○										
24		コチ科	マゴチ	○											
25		スズキ科	スズキ		○	○				○	○	○			
26		サンフィッシュ科	ブルーギル	○	○	○									
27			オオクチバス		○	○									
28		タイ科	クロダイ		○					○					
29		シマイサキ科	コトヒキ								○				
30		カジカ科	ウツセミカジカ(淡水性両側回遊型)		○								○		
31		イソギンボ科	トサカギンボ							○	○	○			

表 11-11-15(2) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期							重要な種				
				R2 調査	R3 調査		R4 調査		R5 調査	R6 調査		R7 調査			
				秋季	春季	夏季	春季	秋季	秋季	夏季		秋季	春季		
32	スズキ目	ハゼ科	イドミミズハゼ※ 2				○	○	○	○	○		○		
—			イドミミズハゼ種 群 ※3		○									○ ※3	
33			トビハゼ	○	○	○							○	○	
34			マハゼ	○	○	○					○	○	○		
35			アシシロハゼ		○								○		
36			アベハゼ	○	○	○					○	○	○		
37			マサゴハゼ	○	○	○					○	○	○	○	
38			ヌマチチブ		○	○									
39			チチブ		○	○					○				
—			チチブ属	○											
40			カワヨシノボリ	○	○	○									○
—			トウヨシノボリ類	○	○	○									
41			ウロハゼ		○	○					○	○	○		
42			スミウキゴリ	○					○						
43			ウキゴリ		○	○									
44			ビリンゴ	○	○	○					○		○	○	○
45			エドハゼ		○										○
			11 目	21 科	45 種	22 種	35 種	27 種	1 種	2 種	1 種	14 種	12 種	15 種	12 種

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024)に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

※1 ゲンゴロウブナは、環境省レッドリストでは本来 EN と分類されるが、愛知県では外来種に選定されていることから、重要種としては扱わないこととした。

※2 イドミミズハゼは、動物(両生・爬虫類)の技術的助言において指摘があり、魚類調査として実施・整理した。

※3 イドミミズハゼ種群、イドミミズは、環境省レッドリスト 2020 : 準絶滅危惧 (イドミミズハゼとして)、絶滅危惧 IA 類 (CR) (イドミミズハゼ類の 1 種として)である。

(b) 重要な魚類

現地調査で確認された種のうち、重要な魚類はニホンウナギやカワヨシノボリ等の 12 種でした。

現地調査で確認された重要な魚類を表 11-11-16 に示します。

表 11-11-16 現地調査により確認された重要な魚類

No.	目名	科名	種名	選定基準									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ					EN	EN	EN			
2	コイ目	コイ科	カワムツ								N-II		
3			タモロコ								N-II		
4		ドジョウ科	ドジョウ					NT	VU	DD			
5	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ					VU	VU	VU			
6	スズキ目	カジカ科	ウツセミカジカ (淡水性両側回遊型)					EN	VU	VU			
7		ハゼ科	イドミミズハゼ					NT			CR		
-			イドミミズハゼ種群 ※					NT ※			CR		
8			トビハゼ					NT	VU	CR			
9			マサゴハゼ					VU	VU				
10			カワヨシノボリ								N-II		
11			ピリンゴ								N-II		
12			エドハゼ						VU	NT	NT		
			4 目	6 科	12 種	0 種	0 種	0 種	0 種	8 種	7 種	12 種	0 種

注 1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

※ イドミミズハゼ種群、イドミミズは、環境省レッドリスト 2020：準絶滅危惧（イドミミズハゼとして）、絶滅危惧 I A 類（CR）（イドミミズハゼ類の 1 種として）である。

① 「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）

国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物

② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）

国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種

③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）

指定：指定希少野生動植物種

④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年愛知県条例第 3 号）

指定：指定希少野生動植物種

⑤ 「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省報道発表資料）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥ 「レッドリストあいち 2025」（令和 7 年 3 月、愛知県）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群

⑦ 「静岡県レッドリスト 2020」（令和 2 年 3 月、静岡県）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種（静岡県独自の 카테고리）

⑧ 「環境省海洋生物レッドリスト」（平成 29 年 3 月 環境省）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥ 底生動物

(a) 底生動物の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-17(1)～(8)に示すとおり、41 目 138 科 282 種の底生動物が確認されました。

※底生動物の現地調査で確認された昆虫類を含む

表 11-11-17(1) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査		
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季		
1	イソギンチャク目	ムシロキギンチャク科	ムシロキギンチャク科			○			△	○					
2		タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク			○		○	△	○		○	○		
3	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカナミウズムシ		○	○			△						
—			サンカクアタマウズムシ科			○		○	△						
—			三岐腸目		○	○			△						
4	多岐腸目	—	多岐腸目			○			△						
5	単針目	—	単針目			○		○	△						
6	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	○	○	○		○	△	○	○	○	○		
7	新生腹足目	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	○	○	○		○	△						
8		タニシ科	マルタニシ		○				△					○	
9			ヒメタニシ		○	○	○		○	△					
10		ウミナ科	ホソウミナ		○	○	○		△	○		○			
11			ウミナ		○	○	○		△	○	○	○	○	○	
12			イボウミナ						△		○			○	
13		トゲカワニナ科	タケノコカワニナ						△			○		○	
14		カワニナ科	カワニナ		○	○	○		○	△					
15			チリメンカワニナ				○		△						
16		キバウミナ科	フトヘナタリガイ		○		○		○	△	○	○	○	○	
17			ヘナタリガイ		○	○	○		○	△	○	○	○	○	
18		タマキビ科	タマキビガイ			○	○			△	○	○	○	○	
19		ワカウラツボ科	カワグチツボ				○		○	△	○	○	○	○	
20		カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウガイ			○	○		○	△		○	○	○	○
—				Angustassiminea 属						△			○	○	
21				ヒラドカワザンショウガイ			○		○	△		○	○	○	
22				カワザンショウガイ		○	○	○		○	△	○	○	○	
23				ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ		○	○	○		○	△		○	○	○
24				ヨシダカワザンショウガイ						△			○	○	○
—				Assiminea 属			○			△					
25	ミズゴマツボ科		エドガワミズゴマツボ			○		○	△	○	○	○	○	○	
26	ムシロガイ科	アラムシロガイ			○		○	△	○						
27	汎有肺目	トウガタガイ科	ヒガタヨイトカケギリガイ			○			△	○	○	○	○	○	
28			シガヤスイトカケギリガイ			○	○		○	△	○	○	○	○	
29			ヌカルミクチキレガイ							△	○			○	

表 11-11-17(2) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査			
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季			
30	汎有肺目	オカミミガイ科	オカミミガイ											○	○	
31			キヌカサヤマイノミガイ										○	○	○	
32		モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ					○								
33			ハブタエモノアラガイ		○	○		○								
—			モノアラガイ科		○	○		○								
34		サカマキガイ科	サカマキガイ	○	○	○		○								
35		ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ				○	○						○	○	
36			ヒラマキガイモドキ					○							○	
—			ヒラマキガイ科	○	○	○		○								
37		柄眼目	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					○							○
38	イガイ目	イガイ科	ホトトギスガイ			○		○			○		○	○		
39			クログチガイ			○						○				
40			コウロエンカワヒバリガイ		○	○		○			○	○	○	○		
41	ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ		○			○			○	○	○	○		
42	イシガイ目	イシガイ科	マルドブガイ							○						
43			ヌマガイ							○					○	
—			カラスガイ族 (ドブガイ類) ※	○	○	○		○							○	※
44	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ			○		○			○	○	○	○	○	
45		シジミ科	ヤマトシジミ		○							○	○	○	○	
—			<i>Corbicula</i> 属	○	○	○		○								
46		ドブシジミ科	ドブシジミ	○		○		○								
47		マルスダレガイ科	オキシジミ	○	○	○		○			○	○	○	○		
48			ハマグリ								○	○			○	
49			アサリ								○	○				
50		ニッコウガイ科	ユウシオガイ					○			○	○		○	○	
51			ヒメシラトリガイ								○					
52		バカガイ科	シオフキガイ		○	○										
53		チドリマスオ科	クチバガイ								○	○	○		○	
54		カワホトトギス科	イガイダマシ									○				
55		異靱帯目	オキナガイ科	ソトオリガイ		○	○		○						○	○
56				オヤイツオキナガイ	○	○	○		○			○	○	○	○	○
57	サシバゴカイ目	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	○	○	○					○	○	○	○		
58		チロリ科	マキントシチロリ					○			○					
59		ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ			○		○								
60			ヤマトカワゴカイ			○		○			○	○	○	○		
—			<i>Hediste</i> 属	○	○	○		○			○					
61		アシナガゴカイ			○		○				○			○		
62		オウギゴカイ									○		○	○		
63		<i>Perinereis</i> 属						○								
64		イトメ	○	○				○				○	○	○	○	
65		スピオ目	スピオ科	<i>Paraprionospio</i> 属		○										
66	<i>Polydora</i> 属					○		○				○		○		
67	ヤマトスピオ			○	○	○		○			○	○	○	○		
68	<i>Pseudopolydora</i> 属				○							○	○	○		
69	ホソエリタテスピオ					○						○	○	○	○	
70	ミズヒキゴカイ科			ミズヒキゴカイ科	○				○			○	○	○	○	

表 11-11-17(3) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査		
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季		
71	イトゴカイ目	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	○					△		○		○		
72			<i>Heteromastus</i> 属		○				△		○		○		
73			<i>Notomastus</i> 属	○	○	○		○	△					○	
—			イトゴカイ科					○	△		○		○	○	
74	ケヤリムシ目	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ						△		○	○	○	○	
75	ナガミミズ目	ナガミミズ科	ナガミミズ		○				△						
76	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科		○	○		○	△						
77	ヒメミミズ目	ヒメミミズ科	ヒメミミズ科		○				△						
78	イトミミズ目	ミズミミズ科	エラオイミズミミズ					○	△						
79			エラミミズ		○	○		○	△						
80			ユリミミズ		○	○		○	△						
81			ミツゲミズミミズ		○	○			△						
82			ナミズミミズ	○	○	○		○	△						
83			ミズミミズ			○			△						
84			クロオビミズミミズ			○		○	△						
85			<i>Paranaïs</i> 属		○	○		○	△						
—			ミズミミズ科		○	○		○	△						
86			厚環帯目	フトミミズ科	イソミミズ					○	△		○		
—	フトミミズ科							○	△						
87	吻蛭目	ヒラタビル科	ハバヒロビル	○				○	△				○		
88			ヌマビル	○	○	○		○	△						
—		ヒラタビル科		○				△							
89		ウオビル科	ウオビル科			○			△						
90	吻無蛭目	ヘモビル科	セスジビル					○	△						
91			ウマビル					○	△						
92		イシビル科	シマイシビル	○	○	○		○	△				○		
—			イシビル科			○			△						
93		ナガレビル科	ヌマイシビル			○		○	△					○	
94			キバビル					○	△						
—	ナガレビル科		○	○				△							
95	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ						△		○	○	○	○	
96			アメリカフジツボ					○	△		○	○	○	○	
97			ヨーロッパフジツボ			○			△		○		○		
98			シロスジフジツボ			○		○	△		○	○	○		
99	カイエビ目	トゲカイエビ科	トゲカイエビ					○	△						
100	タナイス目	タナイス科	クスイタナイス			○			△						
101	ヨコエビ目	ハマトビムシ科	<i>Platorchestia</i> 属		○				△						
102		ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ			○		○	△		○		○		
103		ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属			○			△						
104		ドロクダムシ科	トンガリドロクダムシ					○	△						
105		メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ			○			△				○		
106			シミズメリタヨコエビ			○		○	△		○		○		
107		マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	○	○	○		○	△						
108		キタヨコエビ科	<i>Jesogammarus</i> 属		○				△						

表 11-11-17(4) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査			
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季			
109	ワラジムシ目	ミズムシ科 (甲)	ミズムシ (甲)	○	○	○		○	△					○		
110		コツブムシ科	ハバヒロコツブムシ						△				○	○		
111			<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	○	○				○	△	○	○	○	○		
112		フナムシ科	トライフナムシ			○			○	△	○	○	○	○		
113		アミ目	アミ科	クロイサザアミ						△				○	○	
114				ニホンイサザアミ		○	○				△		○			
115	エビ目	ヌマエビ科	ミゾヌマエビ	○	○	○			○	△						
116			<i>Neocaridina</i> 属	○	○	○				○	△					
117		テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○				○	△	○	○	○	○	
118			ユビナガスジエビ			○			○	△		○				
119			シラタエビ	○	○	○				△	○	○			○	
120			スジエビ	○	○	○				○	△					
121		エビジャコ科	<i>Crangon</i> 属			○				△					○	
122		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○	○	○				○	△					
123		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	○		○				○	△	○	○	○	○	
124		ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	○	○	○				○	△	○	○	○	○	
125		アナジャコ科	<i>Upogebia</i> 属			○				○	△					
126		コブシガニ科	マメコブシガニ			○				○	△					
127		サワガニ科	サワガニ	○	○	○				○	△					
128		ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ		○	○				○	△					○
129			クシテガニ	○	○	○				○	△	○	○	○	○	○
130			クロベンケイガニ	○		○				○	△	○	○	○	○	
131			ベンケイガニ		○					○	△	○			○	○
132		モクズガニ科	ハマガニ							△		○		○	○	
133			モクズガニ	○	○	○				○	△					
134			アシハラガニ	○		○				○	△	○			○	
135			ケフサイソガニ			○				○	△	○	○			
136	タカノケフサイソガニ		○	○	○				○	△	○	○	○	○		
137	ムツハリアケガニ科	アリアケモドキ	○	○	○				○	△						
138	コメツキガニ科	チゴガニ	○	○	○				○	△	○	○	○	○		
139		コメツキガニ								△	○					
140	オサガニ科	ヤマトオサガニ	○		○				△							
141	カクレガニ科	カクレガニ科							△					○		
142	カゲロウ目 (蜉蝣目)	トビイロカゲロウ科	ナミトビイロカゲロウ			○				△						
—		モンカゲロウ科	<i>Paraleptophlebia</i> 属		○					△						
143			フタスジモンカゲロウ	○	○	○				△						
144			トウヨウモンカゲロウ		○	○				△						
145			モンカゲロウ	○	○					△						
146		ヒメシロカゲロウ科	<i>Caenis</i> 属			○				△						
147		マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ		○	○				△						
—			<i>Cincticostella</i> 属		○					△						
148			シリナガマダラカゲロウ		○					△						
149			アカマダラカゲロウ			○				△						

表 11-11-17(5) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査			
				秋季	早春季	春季	初夏季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季			
150	カゲロウ目 (蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	<i>Ameletus</i> 属			○										
151		コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ			○										
152			フタバコカゲロウ			○										
153			サホコカゲロウ	○	○	○		○								
154			フタモンコカゲロウ		○	○		○								
155			シロハラコカゲロウ		○	○		○								
156			Jコカゲロウ			○										
157			Cloeon 属	ウスイロフトヒゲコカゲロウ			○		○							
158				Dコカゲロウ			○									
159				ウデマガリコカゲロウ			○									
160				ヒラタカゲロウ科	クロタニガワカゲロウ	○	○									
161		トンボ目 (蜻蛉目)		イトトンボ科	アジアイトンボ			○								
162					<i>Ischnura</i> 属	○	○	○		○						
163			モノサシトンボ科	モノサシトンボ			○									
164			カワトンボ科	ハグロトンボ			○		○							
165				アサヒナカワトンボ	○	○										
166	<i>Mnais</i> 属				○											
167	カワトンボ科			○	○											
168	ヤンマ科		ギンヤンマ	○												
169			<i>Anax</i> 属	○												
170			コンボソヤンマ	○	○			○								
171			ミルンヤンマ	○	○											
172	サナエトンボ科		ヤマサナエ		○											
173			タイワンウチワヤンマ			○		○								
174			オナガサナエ	○												
175			コオニヤンマ	○				○								
176			オジロサナエ	○				○								
177	オニヤンマ科		オニヤンマ	○	○			○								
178	エゾトンボ科		コヤマトンボ			○		○								
179	カワゲラ目 (セキ翅目)	ホソカワゲラ科	ホソカワゲラ科		○											
180			<i>Amphinemura</i> 属		○	○										
181		カワゲラ科	<i>Nemoura</i> 属		○	○		○								
182			<i>Neoperla</i> 属	○	○	○										
183			ヤマトカワゲラ	○	○											
184			<i>Togoperla</i> 属	○	○	○										

表 11-11-17(6) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査			
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季			
185	カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	アメンボ			○		○	△							
186			エサキアメンボ	○					△							○
187			ヒメアメンボ			○		○	△							
188			コセアカアメンボ			○		○	△							
189			シマアメンボ	○		○			△							
—			アメンボ科	○					△							
190		ミズムシ科 (昆)	クロチビミズムシ		○				○	△						
191			ハイロチビミズムシ	○						△						
—			Micronecta 属	○	○					△						
192			エサキコミズムシ	○	○				○	△						
193			コミズムシ	○						△						
—			Sigara 属	○	○	○			○	△						
194		コオイムシ科	コオイムシ						○	△						○
195		タイコウチ科	ヒメタイコウチ						○	△						○
196		マツモムシ科	コマツモムシ	○	○				○	△						
197			マツモムシ	○	○				○	△						
198		ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	○	○				△						
199	アミメカゲロウ目 (脈翅目)	ミズカゲロウ科	ミズカゲロウ						○	△						
200	トビケラ目 (毛翅目)	ムネカクトビケラ科	Ecnomus 属						○	△						
201		シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	○	○	○			○	△						
202			ナミコガタシマトビケラ	○	○	○			○	△						
—			Cheumatopsyche 属		○					△						
203			Diplectrona 属	○	○	○			○	△						
204		カワトビケラ科	ツダコタニカワトビケラ						○	△						
205		ナガレトビケラ科	シコツナガレトビケラ						○	△						
—			Rhyacophila 属			○				△						
206		コエグリトビケラ科	Apatania 属			○				△						
207		アシエダトビケラ科	コバントビケラ	○						△						
208		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○		○				△						
209		カタツムリトビケラ科	カタツムリトビケラ			○				△						
210		カクツツトビケラ科	Lepidostoma 属	○	○	○			○	△						
211		ヒゲナガトビケラ科	Oecetis 属			○				△						
212		エグリトビケラ科	Limnephilus 属		○					△						
213			ホタルトビケラ			○				△						
214	ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ			○				△							
215	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ	○	○				○	△							
216	ケトビケラ科	トウヨウグマガトビケラ		○	○				△							

表 11-11-17(7) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査		
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季		
217	ハエ目 (双翅目)	ヒメガガンボ科	<i>Antocha</i> 属		○			○	△						
218			<i>Hexatoma</i> 属	○	○	○			△						
219		ガガンボ科	<i>Tipula</i> 属	○	○	○		○	△					○	
220		チョウバエ科	チョウバエ科		○					△					
221		ヌカカ科	ヌカカ科		○	○				△					
222		ユスリカ科	<i>Ablabesmyia</i> 属					○	△						
223			<i>Benthalia</i> 属		○					△					
224			<i>Brillia</i> 属				○			△					
225			<i>Cardiocladius</i> 属	○	○	○				△					
226			<i>Chironomus</i> 属		○	○			○	△					○
227			<i>Cladotanytarsus</i> 属	○							△				
228			<i>Conchapelopia</i> 属		○	○					△				
229			<i>Corynoneura</i> 属						○	△					
230			<i>Cricotopus</i> 属	○	○	○			○	△					
231			<i>Cryptochironomus</i> 属		○	○					△				
232			<i>Cryptotendipes</i> 属			○					△				
233			<i>Dicrotendipes</i> 属	○	○	○			○	△					
234			<i>Diplocladius</i> 属		○						△				
235			<i>Eukiefferiella</i> 属	○	○	○					△				
236			<i>Glyptotendipes</i> 属		○	○					△				
237			<i>Hydrobaenus</i> 属		○						△				
238			<i>Macropelopia</i> 属		○	○					△				
239			<i>Microtendipes</i> 属			○			○	△					
240			<i>Natarsia</i> 属		○				○	△					
241			<i>Neozavrelia</i> 属	○	○						△				
242			<i>Orthocladius</i> 属		○	○					△				
243			<i>Parametricnemus</i> 属		○	○			○	△					
244	<i>Paratendipes</i> 属			○				○	△						
245	<i>Polypedilum</i> 属		○	○	○			○	△						
246	<i>Potthastia</i> 属			○					△						
247	<i>Procladius</i> 属		○	○					△						
248	アカムシユスリカ		○	○					△						
249	<i>Psectrotanypus</i> 属		○				○	△							
250	<i>Rheocricotopus</i> 属	○		○			○	△							
251	<i>Rheopelopia</i> 属		○	○			○	△							
252	<i>Rheotanytarsus</i> 属	○	○	○			○	△							
253	<i>Stictochironomus</i> 属		○	○			○	△							
254	<i>Tanypus</i> 属						○	△							
255	<i>Tanytarsus</i> 属			○			○	△							
256	<i>Thienemanniella</i> 属	○	○	○					△						
257	<i>Ivetenia</i> 属			○					△						
—		ユスリカ科		○	○	○			△						
258		カ科	<i>Culex</i> 属					○	△						
259		ブユ科	<i>Eusimulium</i> 属		○	○			△						
260			<i>Simulium</i> 属	○	○	○		○	△						
261		ミズアブ科	<i>Odontomyia</i> 属					○	△						
262		アシナガバエ科	アシナガバエ科					○	△		○				

表 11-11-17(8) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2 調査		R3 調査			R4 調査	R6 調査			R7 調査	
				秋季	早春季	春季	初夏 季	夏季	秋季	夏季	秋季	冬季	春季	
263	コウチュウ目 (鞘翅目)	ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ					○	△					
264			ハイイロゲンゴロウ	○					△					
265			コシマゲンゴロウ			○		○	△					
266			オオマルケシゲンゴロウ					○	△					○
267			ヒメゲンゴロウ	○	○	○		○	△					
268			コツブゲンゴロウ科	コツブゲンゴロウ					○	△				
269		ガムシ科	キベリヒラタガムシ					○	△					
270			キイロヒラタガムシ	○	○			○	△					
271			コガムシ			○			△					○
272			ヒメガムシ	○		○		○	△					
273		マルハナノミ科	<i>Contacyphon</i> 属			○			△					
274			<i>Elodes</i> 属					○	△					
275		ヒメドロムシ科	ハバビドロムシ			○			△					
276			<i>Zaitzevia</i> 属		○	○			△					
277			<i>Zaitzeviaria</i> 属			○			△					
278		ヒラタドロムシ科	ヒメマルヒラタドロムシ	○					△					
279			マルヒラタドロムシ					○	△					
280		ホタル科	ゲンジボタル		○	○		○	△					
281		イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ			○		○	△					
282		唇口目	ヒラコケムシ科	ヒラコケムシ科			○		△					
	41 目	138 科	282 種	102 種	136 種	178 種	1 種	160 種	2 種	58 種	56 種	52 種	68 種	37 種

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024)に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)
 ※ カラスガイ族(ドブガイ類)について、近年の研究においてドブガイ類を外部形態により同定することは困難であることが報告されている。当該調査地区では DNA 分析による同定でヌマガイ(*Sinanodonta lauta*)とマルドブガイ(*Sinanodonta calipygos*)が確認されている他、文献調査によりヤハズヌマガイ(*Buldowski shadini*)の生息も確認されている。調査地区で確認されたドブガイ類は、カラスガイ族(*Cristariini*)ドブガイ類として扱うこととした。なお、ドブガイ類のヌマガイ(ドブガイとして)はレッドリストあいち 2025 において DD、マルドブガイは環境省レッドリスト 2020 で VU に該当する。ただし、マルドブガイは愛知県では国内外来種に該当するため重要種として扱わないこととした。

(b) 重要な底生動物

現地調査で確認された種のうち、重要な底生動物はマルタニシ、ヒラマキミズマイマイ等の 37 種でした。

現地調査で確認された重要な底生動物を表 11-11-18 に示します。

表 11-11-18 現地調査により確認された重要な底生動物

No.	目名	科名	種名	選定基準								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
1	新生腹足目	タニシ科	マルタニシ					VU	NT	NT		
2		ウミナシ科	ウミナシ					NT	NT			
3			イボウミナシ					VU	EN			
4		トゲカワニシ科	タケノコカワニシ					VU	EX	CR		
5		キバウミナシ科	フトヘナタリガイ					NT	NT			
6			ヘナタリガイ					NT	NT			
7		ワカウラツボ科	カワグチツボ					NT	NT			
8		カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウガイ					NT	NT			
9			ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ					NT	NT	NT		
10			ヨシダカワザンショウガイ					NT	VU	NT		
11		ミズゴマツボ科	エドガワミズゴマツボ					NT	NT			
12	汎有肺目	トウガタガイ科	ヒガタヨコイトカケギリガイ					DD	NT			
13			シグヤスイトカケギリガイ					NT	DD			
14			ヌカルミクチキレガイ					NT	VU			
15		オカミミガイ科	オカミミガイ					VU	EN			
16			キヌカツギハマシノミガイ					VU	CR			
17		ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ					DD	NT	NT		
18			ヒラマキガイモドキ					NT	NT	NT		
19		柄眼目	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT	
20	イシガイ目	イシガイ科	ヌマガイ						DD			
—			カラスガイ族 (ドブガイ類) ※							DD		
21	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ					NT				
22		シジミ科	ヤマトシジミ					NT		NT		
23		マルスダレガイ科	ハマグリ					VU	NT			
24		ニッコウガイ科	ユウシオガイ					NT	NT			
25		チドリマスオ科	クチバガイ					NT				
26	異靱帯目	オキナガイ科	ソトオリガイ						NT			
27			オヤイツオキナガイ					VU	VU			
28	サンバゴカイ目	ゴカイ科	イトメ								NT	
29	エビ目	ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ								VU	
30			クシテガニ									NT
31			ベンケイガニ									NT
32		モクスガニ科	ハマガニ								NT	
33	カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	エサキアメンボ					NT	NT	N-III		
34		コオイムシ科	コオイムシ					NT		N-III		
35		タイコウチ科	ヒメタイコウチ						NT	DD		
36	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	オオマルケシゲンゴロウ					NT				
37	(鞘翅目)	ガムシ科	コガムシ					DD		NT		
	10 目	26 科	37 種	0 種	0 種	0 種	0 種	29 種	26 種	12 種	5 種	

注 1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

- ※ カラスガイ族（ドブガイ類）について、近年の研究においてドブガイ類を外部形態により同定することは困難であることが報告されている。当該調査地区では DNA 分析による同定でヌマガイ (*Sinanodonta lauta*) が確認されている他、文献調査によりヤハズヌマガイ (*Buldowski shadini*) の生息も確認されている。調査地区で確認されたドブガイ類は、カラスガイ族 (Cristariini) ドブガイ類として扱うこととした。なお、ドブガイ類のヌマガイ（ドブガイとして）はレッドリストあいち2025において DD に該当する。
- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
 国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成23年4月1日静岡県条例第37号）
 指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和48年愛知県条例第3号）
 指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月27日、環境省報道発表資料）
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 I B 類
 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」（令和7年3月、愛知県）
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類
 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」（令和2年3月、静岡県）
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
 N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種（静岡県独自の 카테고리）
- ⑧ 「環境省海洋生物レッドリスト」（平成29年3月 環境省）
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑦ 昆虫類

(a) 昆虫類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-19(1)～(28)に示すとおり、21 目 249 科 1192 種の昆虫類が確認されました。

表 11-11-19(1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2 調査	R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季		
1	トビムシ目 (粘管目)	イボトビムシ科	イボトビムシ科	○										
2		ツチトビムシ科	ツチトビムシ科	○										
3		アヤトビムシ科	アヤトビムシ科	○										
4		マルトビムシ科	マルトビムシ科	○										
5	カゲロウ目 (蜻蛉目)	モンカゲロウ科	トウヨウモンカゲロウ		○									
6		コカゲロウ科	コカゲロウ科		○								○	
7	トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	アジアイトトンボ		○						○			
8		カワトンボ科	ハグロトンボ				○							
9			アサヒナカワトンボ		○									
10		ヤンマ科	ギンヤンマ				○				○	○		
11			サラサヤンマ				○							
12		サナエトンボ科	ウチワヤンマ				○							
13		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ		○									
14		オニヤンマ科	オニヤンマ				○							
15		エゾトンボ科	オオヤマトンボ				○							
16		トンボ科	ショウジョウトンボ				○							
17			ハラビロトンボ				○							
18			シオカラトンボ		○			○			○	○	○	
19			オオシオカラトンボ					○						
20			ウスバキトンボ	○	○			○			○	○		
21			コシアキトンボ					○			○			
22			チョウトンボ					○						
23			マユタテアカネ					○						
24	アキアカネ		○							○	○			
25	マイコアカネ		○								○		○	
26	ゴキブリ目 (網翅目)	オオゴキブリ科	オオゴキブリ	○	○		○						○	
27		ゴキブリ科	クロゴキブリ							○				
28			ウルシゴキブリ				○							
29		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○		○				○	○		
30			ウスヒラタゴキブリ 本土亜種		○									
31			ヒメクロゴキブリ				○							
32	シロアリ目 (等翅目)	ミゾガシラシロアリ 科	ヤマトシロアリ		○		○							

表 11-11-19(2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種
				R2	R3		R4		R6		R7		
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季	
33	カマキリ目 (蟷螂目)	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	○		△							
34		カマキリ科	ハラビロカマキリ	○		△	○			○	○		
35			コカマキリ	○		△					○		
36			チョウセンカマキリ	○		△					○		
37			オオカマキリ	○		△					○	○	
38	ハサミムシ目 (革翅目)	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	○	○	△	○					○	
39			コバネハサミムシ	○	○	△	○				○	○	
40			コヒゲジロハサミムシ		○	△	○						
41			ハマベハサミムシ		○	△					○		
42		テブクロハサミムシ科	スジハサミムシ		○	△							
43	カワゲラ目 (セキ翅目)	オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ		○	△							
-			<i>Nemoura</i> 属		○	△							
44		カワゲラ科	<i>Neoperla</i> 属		○	△							
45	バッタ目 (直翅目)	コロギス科	コバネコロギス		○	△							
46			ハネナシコロギス		○	△							
47		カマドウマ科	マダラカマドウマ	○		△							
-			<i>Diestrammena</i> 属	○		△							
-			カマドウマ科		○	△				○			
48		ツユムシ科	セスジツユムシ	○		△						○	
49			ツユムシ	○		△	○					○	
50			ヒメクダマキモドキ	○		△						○	
51		キリギリス科	ウスイロササキリ	○		△	○				○	○	
52			オナガササキリ	○		△					○	○	
53			ホシササキリ	○		△						○	
54			クビキリギス	○	○	△	○						○
55			ヒガシキリギリス			△	○				○		
56	ヤブキリ				△						○		
-	<i>Tettigonia</i> 属				△	○							
57	ケラ科		ケラ		○	△							○
58	マツムシ科	クチキコオロギ	○		△	○							
59		ヒロバネカンタン			△					○			
60		カンタン	○		△								
61		アオマツムシ	○		△	○				○	○		
62	コオロギ科	ハラオカメコオロギ			△						○		
63		ミツカドコオロギ			△						○		
64		タンボコオロギ			△							○	
65		エンマコオロギ	○		△						○		
66		ツツレサセコオロギ			△						○		
-		コオロギ科			△					○			
67	カネタタキ科	カネタタキ	○		△					○	○		
68	ヒバリモドキ科	ウスグモスズ			△					○	○		
69		マダラスズ	○		△	○					○		
70		ヤマトヒバリ			△	○							
71		キンヒバリ	○		△	○							
72		シバズズ	○		△	○				○			
73		ヤチズズ	○		△								
74		クサヒバリ			△						○		

表 11-11-19(3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査	R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査					
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
75	バッタ目 (直翅目)	バッタ科	ショウリョウバッタ	○		△	○				○					
76			マダラバッタ			△	○						○			
77			クルマバッタ			△								○		
78			ヒナバッタ	○		△	○									
79			トノサマバッタ	○		△	○							○		
80			ナキイナゴ		○	△										
81			ツماغロバッタ			△	○									
82			イボバッタ			△	○						○	○		
83			イナゴ科	コバネイナゴ	○		△							○		
84				メスアカフキバッタ			△	○								
85		ヤマトフキバッタ		○		△	○									
86		ツチイナゴ		○	○	△	○						○	○		
87		オンブバッタ科	オンブバッタ	○		△	○						○	○		
88		ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ		○	△	○									
89			ハネナガヒシバッタ			△								○		
90			コバネヒシバッタ	○	○	△	○									
91			ハラヒシバッタ		○	△	○							○	○	
92		ノミバッタ科	ノミバッタ		○	△										
93		カジリムシ目 (咀嚼目)	ケブカチャタテ科	ウスベニチャタテ			△							○	○	
94			ケチャタテ科	ケチャタテ科	○		△									
95			チャタテ科	クロミヤクチャタテ	○		△									
-				チャタテ科	○	○	△									
96	アザミウマ目 (総翅目)	クダアザミウマ科	<i>Bactrothrips</i> 属		○	△										
-			クダアザミウマ科			△	○									
97	カメムシ目 (半翅目)	コガシラウンカ科	アカフコガシラウンカ			△							○			
98		ヒシウンカ科	ハスオビヒシウンカ		○	△										
99			キガシラヒシウンカ		○	△										
100			ヒシウンカ		○	△									○	
101			ヨスジヒシウンカ			○	△	○								
-			ヒシウンカ科			○	△									
102			ウンカ科	ゴマフウンカ	○		△	○							○	
103		ヒメトビウンカ				△									○	
104		セジロウンカ				△								○		
105		エゾナガウンカ		○		△										
106		テラウチウンカ				△	○									
107		コブウンカ				△	○									
108		ハネナガウンカ科		アカメガシワハネビロウンカ	○		△									
109			ウスマエグロハネナガウンカ			△	○									
110			シリアカハネナガウンカ			△	○									
111		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	○		△	○						○	○		
112			トビイロハゴロモ			△								○	○	
113		シマウンカ科	シマウンカ			△	○									
114	ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ			△	○							○			
115		アミガサハゴロモ			△	○										
116		チュウゴクアミガサハゴロモ			△								○	○		
117	ゲンバイウンカ科	ミドリゲンバイウンカ			△								○			
118		ヒラタゲンバイウンカ			△								○			

表 11-11-19(4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種	
				R2 調査	R3 調査			R4 調査		R6 調査		R7 調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季		
119	カメムシ目 (半翅目)	セミ科	クマゼミ				○				○			
120			アブラゼミ				○				○			
121			ミンミンゼミ								○			
122			ツクツクボウシ				○				○			
123			ニイニイゼミ				○				○			
124			ハルゼミ		○									
125			ツノゼミ科	マルツノゼミ		○								
126	アワフキムシ科	シロオビアワフキ				○				○				
127		ハマベアワフキ	○			○				○	○			
128	コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ				○								
129	ヨコバイ科	カンキツヒメヨコバイ				○				○				
130		モンキズキンヨコバイ	○											
131		アオズキンヨコバイ				○								
132		ツマグロオオヨコバイ	○	○							○	○		
133		オオオナガトガリヨコバイ									○			
134		オナガトガリヨコバイ		○										
135		<i>Empoasca</i> 属					○							
136		ヨツモンコヒメヨコバイ									○			
137		シロヒメヨコバイ	○											
138		クロミヤクイチモンジヨコバイ	○	○			○							
139		ウスイロヒロヨコバイ					○				○			
140		サジヨコバイ		○										
141		ヒシモンヨコバイ	○											
142		マエジロオオヨコバイ					○							
143		コミミズク		○										
144		ホシヒメヨコバイ					○							
145		ムツテンヒメヨコバイ					○							
146		ゴマフハトムネヨコバイ		○										
147		ヤナギハトムネヨコバイ		○										
148		ツマグロヨコバイ									○		○	
149		ハンノヒロズヨコバイ		○										
150		<i>Pagaronia</i> 属		○										○
151		クルミヒロズヨコバイ		○										
152		クロヒラタヨコバイ		○			○				○			
153		ヒトツメヨコバイ	○											
154		マダラヨコバイ									○	○	○	
155		クロスジホソサジヨコバイ	○											
156		イネヒラタヨコバイ					○							
157		オサヨコバイ					○							
158		ホシヨコバイ	○											
-			ヨコバイ科		○			○					○	
159		ヒメキジラミ科	センダンコクロキジラミ		○		○							
160		ヒラズキジラミ科	ヒラズキジラミ		○									
161	キジラミ科	ベニキジラミ		○										
162		グミキジラミ		○									○	
163		ハコネキジラミ	○	○									○	
164		サツマキジラミ		○										
165		ミズキクロスジキジラミ		○										

表 11-11-19(5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種					
				R2 調査	R3 調査			R4 調査		R6 調査		R7 調査						
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季						
166	カメムシ目 (半翅目)	トガリキジラミ科	ニッケイトガリキジラミ		○	△												
167			クロトガリキジラミ		○	△												
168	-	アブラムシ科	ギシギシアブラムシ			△							○					
-			アブラムシ科		○	○	△							○				
169	ワタフキカイガラムシ科	サシガメ科	オオワラジカイガラムシ		○	△												
170			ヨコヅナサシガメ		○	△												
171			ヒメマダラカモドキサシガメ				△	○										
172			アカシマサシガメ			○	△											
173			トビイロサシガメ				△	○										
174			クロモンサシガメ			○	△		○						○			
175			ヒゲナガサシガメ					△				○						
176			シマサシガメ			○	△											
177			グンバイムシ科	ハナカメムシ科	アワダチソウグンバイ	○	○	△	○				○	○	○			
178					ヤブガラシグンバイ		○	△		○						○		
179					ヤナギグンバイ				△						○			
180					タブグンバイ			○	△		○						○	
181					ツツジグンバイ		○	○	△									
182					トサカグンバイ		○		△									
183	ヤサハナカメムシ				○		△											
184	コヒメハナカメムシ				△		○						○					
185	カスミカメムシ科	カスミカメムシ科	ウスイロツヤマルカスミカメ			△		○										
186			ツマグロアオカスミカメ	○		△									○			
187			ツマグロハギカスミカメ		○	△		○										
188			シイノキクロカスミカメ		○	△												
189			ヒメセダカカスミカメ				△		○									
190			ガマカスミカメ				△		○									
191			アカホシカスミカメ				△					○	○					
192			カワヤナギツヤカスミカメ				△						○	○				
193			オオクロトビカスミカメ				△		○			○						
194			シラゲヨモギカスミカメ			○	△											
195			ハギメンガタカスミカメ				△		○									
196			ハナダカカスミカメ				△		○									
197			コブヒゲカスミカメ			○	△											
198			Lygocoris 属			○	△											
199			クスベニヒラタカスミカメ		○		△		○					○				
200			ズアカシダカスミカメ			○	△		○						○			
201			ヒメウスミドリカスミカメ		○		△											
202			コモンミドリカスミカメ		○		△											
203			キアシアカカスミカメ			○	△											
204			ツヤクロカスミカメ			○	△											
205			ヒョウタンカスミカメ				△		○									
206			クロヒョウタンカスミカメ				△		○			○						
207			オオクロセダカカスミカメ				△		○									
208			Pseudophylus esakii				△								○			
209			アカスジカスミカメ		○	○	△		○			○	○	○				
210			グンバイカスミカメ				△		○									
211			ウスモンミドリカスミカメ				△		○			○	○	○				
212			ケブカカスミカメ		○	○	△											

表 11-11-19(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種	
				R2 調査	R3 調査			R4 調査		R6 調査		R7 調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季		
213	カメムシ目 (半翅目)	カスミカメムシ科	イネホソミドリカスミカメ				○				○	○		
214		マキバサシガメ科	ミナミマキバサシガメ				○			○	○	○		
215			ハネナガマキバサシガメ								○	○		
216		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	○	○		○						○	
217			ヒメホシカメムシ		○						○	○	○	
218		ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ	○			○				○			
219			クロホシカメムシ				○					○		
220		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	○	○		○				○	○	○	
221			ホソヘリカメムシ	○	○		○				○	○	○	
222		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ				○				○			
223			ホソハリカメムシ	○	○		○				○	○	○	
224			ハリカメムシ		○									
225			ハラビロヘリカメムシ				○							
226			ホシハラビロヘリカメムシ		○		○				○	○	○	
227			ツマキヘリカメムシ		○		○				○	○	○	
228			ミナミトゲヘリカメムシ				○					○		
229			キバラヘリカメムシ	○	○		○							
230		ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ	○			○					○	○	
231			アカヒメヘリカメムシ	○	○		○					○	○	
232			コブチヒメヘリカメムシ	○	○		○				○			
233		イトカメムシ科	イトカメムシ	○			○							
234		ナガカメムシ科	ヨツボシチビナガカメムシ				○							
235			ウスイロナガカメムシ		○									
236			ヒョウタンナガカメムシ		○									
237			チビヒメヒラタナガカメムシ										○	
238		ヒメヒラタナガカメムシ	○											
239		ホソヒメヒラタナガカメムシ									○			
240		ニッポンコバネナガカメムシ				○								
241		コバネナガカメムシ	○	○		○				○				
242		ヒメオオメナガカメムシ				○				○	○	○		
243		オオメナガカメムシ	○	○						○				
244		ヨツボシヒョウタンナガカメムシ									○			
-		<i>Gyndes</i> 属	○											
245		サビヒョウタンナガカメムシ	○	○							○			
246		キベリヒョウタンナガカメムシ	○			○								
247		ツマジロナガカメムシ				○								
248		<i>Lamproplax</i> 属		○										
249		ヒメチャイロナガカメムシ				○								
250		ホソコバネナガカメムシ		○		○					○	○		
251		オオモンシロナガカメムシ	○	○		○				○				
252		オオチャイロナガカメムシ				○								
253		チャイロナガカメムシ		○		○								
254		ヒサゴナガカメムシ				○								
255		ヘリグロヒメナガカメムシ								○		○		

表 11-11-19(7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2 調査	R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季			
256	カメムシ目 (半翅目)	ナガカメムシ科	ヒメナガカメムシ	○	○	△	○			○	○				
257			ヒゲナガカメムシ		○	△	○			○	○	○			
258			クロスジヒゲナガカメムシ		○	△	○					○			
259			スコットヒョウタンナガカメムシ	○		△									
260			シロヘリナガカメムシ			△						○			
261			ミナミホソナガカメムシ		○	△	○					○			
262			クロアシホソナガカメムシ			△	○						○		
263			イチゴチビナガカメムシ			△	○				○	○			
264			コバネヒョウタンナガカメムシ	○	○	△	○					○	○		
265			ヒメジュウジナガカメムシ	○	○	△						○	○		
266			メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ		○	△	○				○	○	○	
267			ツノカメムシ科	アオモンツノカメムシ	○		△								
268				ヒメツノカメムシ		○	△								
269		ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ			△	○								
270			ヒメツチカメムシ		○	△							○		
271			ツチカメムシ		○	△	○								
272			マルツチカメムシ		○	△	○								
273		カメムシ科	ウズラカメムシ			△	○				○		○		
274			シロヘリカメムシ	○		△									
275			ウシカメムシ	○	○	△					○				
276			シロヘリクチプトカメムシ			△						○	○		
277			ヒラタガリカメムシ ※1			△							○	○	※1
278			ブチヒゲカメムシ			△							○		
279			ハナダカカメムシ		○	△								○	
280			キマダラカメムシ		○	△						○		○	
281			ナガメ			△	○							○	
282			トゲシラホシカメムシ			△	○						○	○	
283			マルシラホシカメムシ	○	○	△	○				○	○	○		
284			オトゲシラホシカメムシ	○		△									
285			シラホシカメムシ	○	○	△	○				○	○	○		
286	ツヤアオカメムシ		○	○	△							○	○		
287	エビイロカメムシ			○	△						○				
288	アカスジカメムシ				△	○									
289	クサギカメムシ			○	△						○				
290	フタテンカメムシ			○	△										
291	アオクサカメムシ		○		△							○			
292	ミナミアオカメムシ		○		△	○					○	○	○		
293	イネカメムシ				△	○						○			
294	イチモンジカメムシ				△	○					○		○		
295	チャバネアオカメムシ		○	○	△	○				○	○	○			
296	イネクロカメムシ			○	△								○		
297	タマカメムシ			○	△										
298	ルリクチプトカメムシ			○	△	○						○			
299	マルカメムシ科		タデマルカメムシ		○	△									
300		マルカメムシ	○	○	△	○				○	○	○			

表 11-11-19(8) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種						
				R2 調査		R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査							
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季							
301	カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	オオアメンボ		○	△											○		
302			アメンボ	○	○	△	○						○	○					
303			ヒメアメンボ		○	△	○											○	
304			コセアカアメンボ		○	△	○												
305			シマアメンボ		○	△													
306		イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ		○	△	○												
307		カタビロアメンボ科	ケシカタビロアメンボ			△	○												
308		ミズムシ科	エサキコミズムシ			△	○												
-			<i>Sigara</i> 属	○		△													
309		メミズムシ科	メミズムシ		○	△													
310		コオイムシ科	コオイムシ		○	△												○	
311		タイコウチ科	ヒメタイコウチ	○	○	△	○											○	
312		マツモムシ科	コマツモムシ			△	○												
313	マツモムシ		○		△	○													
314	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ		○	△													
315	ラクダムシ目	ラクダムシ科	ラクダムシ		○	△													
316	アミメカゲロウ目 (脈翅目)	ヒロバカゲロウ科	カスリヒロバカゲロウ		○	△													
317		カマキリモドキ科	ヒメカマキリモドキ		○	△	○											○	
318		ヒメカゲロウ科	ヤマトヒメカゲロウ		○	△													
319			アシマダラヒメカゲロウ			△	○												
320			ホソバヒメカゲロウ		○	△													
321		クサカゲロウ科	クモンクサカゲロウ			△								○					
322			ヨツボシクサカゲロウ		○	△	○							○	○				
323			ヤマトクサカゲロウ		○	△	○												
324			スズキクサカゲロウ			△								○					
325			カオマダラクサカゲロウ			△	○												
326			インドアカマダラクサカゲロウ		○	△	○							○					
327			セボシクサカゲロウ		○	△													
-		クサカゲロウ科		○		△													
328		ツノトンボ科	ツノトンボ			△	○												
329	シリアゲムシ目 (長翅目)	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ		○	△													
330	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ		○	△	○												
331			ナミコガタシマトビケラ	○		△													
332			ウルマーシマトビケラ	○	○	△													
333			エチゴシマトビケラ			△													○
334		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○	○	△													
335		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ	○	○	△													
336		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ	○		△													
337	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ		○	△														
338	マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ	○		△														

表 11-11-19(9) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2	R3			R4		R6		R7		
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季		
				1回目	2回目									
339	チョウ目 (鱗翅目)	ヒゲナガガ科	ホソオビヒゲナガ		○	△								
340		ヒロズコガ科	マダラシロツマオレガ			△	○							
341		ホソガ科	クヌギカワホソガ			△	○							
342		スカシバガ科	コスカシバ		○	△								
343		カザリバガ科	ギンスジトガリホソガ			△	○							
344		イラガ科	ヒロヘリアオイラガ			△					○			
345		マダラガ科	タケノホソクロバ				△	○						
346			ミノウスバ		○		△							
347		ハマキモドキガ科	イヌビワハマキモドキ		○	△								
348		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ			○	△	○						
349			イチモンジセセリ		○	○	△	○				○	○	
350			チャバネセセリ		○	○	△	○			○	○		
351			コチャバネセセリ				△	○						
352		シジミチョウ科	ヤクシマルリシジミ		○		△	○						
353			ウラゴマダラシジミ			○	△							
354			ムラサキツバメ		○		△							
355			ムラサキシジミ		○		△	○						
356			ルリシジミ			○	△	○			○			
357			ウラギンシジミ		○		△	○				○		
358			ツバメシジミ				△	○						
359			アカシジミ			○	△							
360			ウラナミシジミ		○	○	△	○				○	○	
361			ベニシジミ		○	○	△	○			○	○	○	
362			ミドリシジミ		○		△							
363			ヤマトシジミ本土亜種		○	○	△	○			○	○	○	
364			タテハチョウ科	ツماغロヒョウモン		○	○	△	○				○	
365				アカボシゴマダラ				△	○			○		
366				ゴマダラチョウ本土亜種			○	△	○					
367				ルリタテハ本土亜種		○	○	△						
368				ヒカゲチョウ			○	△	○					
369				テングチョウ日本本土亜種		○		△						
370		アサマイチモンジ				○	△	○						
371		クロコノマチョウ			○	○	△							
372		コジャノメ				○	△	○						
373		ヒメジャノメ				○	△	○			○	○	○	
374		サトキマダラヒカゲ				○	△	○					○	
375		コムスジ本州以南亜種				○	△	○				○		
376		アサギマダラ			○	○	△	○						
377	キタテハ			○	○	△	○				○			
378	ヒメアカタテハ			○		△	○				○			
379	アカタテハ			○		△					○			
380	ヒメウラナミジャノメ			○	△	○								

表 11-11-19(10) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2	R3			R4		R6		R7		
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季		
				1回目	2回目									
381	チョウ目 (鱗翅目)	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種		○	△	○						○	
382			アオスジアゲハ	○	○	△	○			○	○	○		
383			カラスアゲハ本土亜種			△	○							
384			モンキアゲハ		○	△	○			○		○		
385			キアゲハ			△	○			○				
386			ナガサキアゲハ			△	○					○		
387			クロアゲハ本土亜種		○	△	○						○	
388			アゲハ	○	○	△	○				○	○	○	
389		シロチョウ科	モンキチョウ	○	○	△	○			○	○	○		
390			キタキチョウ	○	○	△	○			○	○	○		
391			スジグロシロチョウ			△	○							
392			モンシロチョウ	○	○	△	○			○	○	○		
393		トリバガ科	トリバガ科			△	○					○		
394		ツトガ科	モンウスグロノメイガ			△	○							
395			コブノメイガ			△						○		
396			ツゲノメイガ			△	○							
397			モンキクロノメイガ		○	△								
398			ワモンノメイガ		○	△								
399			アワノメイガ			△							○	
400			オナモミノメイガ本土亜種			△							○	
401			ヨスジノメイガ		○	△								
402			ヒメシロノメイガ		○	△								
403			マエアカスカシノメイガ		○	△							○	
404			コガタシロモンノメイガ		○	△								
405			キムジノメイガ		○	△								
406			シロオビノメイガ	○		△						○		
407	メイガ科		キベリトガリメイガ		○	△	○							
408		コネアオフトメイガ			△	○								
409		アカマダラメイガ			△				○					
410	マドガ科	マドガ		○	△	○								
411	カギバガ科	マエキカギバ		○	△									
412		ウスムラサキトガリバ	○		△									
413	アゲハモドキガ科	キンモンガ		○	△	○								
414	シャクガ科	ユウマダラエダシャク		○	△							○		
415		アシトチズモンアオシャク		○	△									
416		ナカウスエダシャク	○	○	△									
417		ヒメウコンエダシャク			△	○								
418		アトスジグロナミシャク		○	△									
419		セスジナミシャク			△	○								
420		ナミガタエダシャク		○	△									
421		ウラベニエダシャク			△							○		
422		ハミスジエダシャク		○	△									
423		ウスフタスジシロエダシャク			△							○		
424		ウチムラサキヒメエダシャク		○	△									
425		ウススジオオシロヒメシャク	○		△									
426		トガリエダシャク		○	△									
-		シャクガ科			△	○								

表 11-11-19(12) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査	R3 調査			R4 調査		R6 調査		R7 調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
469	ハエ目 (双翅目)	ヒメガガンボ科	<i>Libnotes puella</i>	○		△										
470			カスリヒメガガンボ		○	△										
-			ヒメガガンボ科	○	○	△										
471		ガガンボ科	ミカドガガンボ			△	○									
472			キイロホソガガンボ		○	△	○									
473			ホリカワクシヒゲガガンボ			△	○									
-			ガガンボ科		○	△									○	
474		ガガンボダマシ科	<i>Trichocera</i> 属	○		△										
475		チョウバエ科	チョウバエ科	○		△										
476		ヌカカ科	ヌカカ科	○		△										
477	ケヨソイカ科	<i>Chaoborus pallidus</i>	○		△											
478	ユスリカ科	クロハダカユスリカ	○		△											
479		<i>Chironomus fujitertius</i>	○		△											
480		ウスイロユスリカ	○		△											
481		フタスジツヤユスリカ	○		△											
482		ニセフタモンツヤユスリカ	○		△											
483		<i>Cricotopus tamannulatus</i>	○		△											
484		ナカオビツヤユスリカ	○		△											
-		<i>Cricotopus</i> 属	○		△											
485		ユミナリホソミユスリカ	○		△											
486		コムナトゲユスリカ	○		△											
487		シブタニオオヤマユスリカ	○		△											
488		コガタエリユスリカ	○		△											
489		ミナミユスリカ	○		△											
490		<i>Orthocladus excavatus</i>	○		△											
491		ヒメニセナガレツヤユスリカ	○		△											
492		フタオビハモンユスリカ	○		△											
493		ウスイロハモンユスリカ	○		△											
494		ヒロオビハモンユスリカ	○		△											
-		<i>Polypedilum</i> 属	○		△											
495		ウスイロカユスリカ	○		△											
496		アカムシユスリカ	○		△											
497		カタジロナガレツヤユスリカ	○		△											
498		ピロウドエリユスリカ	○		△											
499		アキヅキユスリカ	○		△											
500		カスリモンユスリカ	○		△											
501		ヒメナガレヒゲユスリカ	○		△											
502		クビレオヒゲユスリカ	○		△											
503		オオヤマヒゲユスリカ	○		△											
-		<i>Tanytarsus</i> 属	○		△											
-		ユスリカ科	○	○	△	○					○	○	○			
504	カ科	アカイエカ			△							○				
-		<i>Culex</i> 属	○		△											
505		ヒトスジシマカ		○	△	○						○	○			
506	ケバエ科	<i>Bibio</i> 属		○	△											
507	トゲナシケバエ科	トゲナシケバエ科			△								○			
508	タマバエ科	エノキトガリタマバエ			△								○			
-		タマバエ科	○	○	△											

表 11-11-19(13) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種		
				R2 調査	R3 調査			R4 調査		R6 調査		R7 調査			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季			
509	ハエ目 (双翅目)	ナミキノコバエ科	ナミキノコバエ科	○	○	△						○			
510		クロバネキノコバエ科	クロバネキノコバエ科	○	○	△	○		○			○	○		
511		シギアブ科	シギアブ科			△							○		
512		ミズアブ科	ネグロミズアブ		○	△									
513			アメリカミズアブ		○		△						○		
514			ハラキンミズアブ			○	△	○						○	
515			キイロコウカアブ				△	○							
516			コウカアブ				△	○					○		
517			ハキナガミズアブ				△	○							
518			ルリミズアブ			○		△							
519			アブ科	アカウシアブ			△	○							
520			ムシヒキアブ科	アオメアブ			△	○					○		
521				オオイシアブ			○	△							
522		ヤマトイシアブ					△	○							
523		ナミマガリケムシヒキ					○	△							
524		シオヤアブ					△	○							
525		アシナガバエ科		アシナガバエ科			△						○	○	○
526		オドリバエ科	オドリバエ科			△								○	
527		アタマアブ科	アタマアブ科			△							○		
528		ハナアブ科	オオヒメヒラタアブ		○		△								
529			クロヒラタアブ		○		△								
530			ホソヒラタアブ		○	○	△	○					○	○	
531			キゴシハナアブ		○		△						○		
532			ホシメハナアブ		○		△								
533			シマハナアブ		○	○	△							○	
534			ナミハナアブ		○	○	△						○	○	
535			<i>Eumerus</i> 属		○		△								○
536			ナミホシヒラタアブ			○	△						○	○	
537			フタホシヒラタアブ		○		△							○	
538			アシプトハナアブ		○	○	△								
539			カクモンハラプトハナアブ			○	△								
540			ホソツヤヒラタアブ				△								○
541			ツヤヒラタアブ			○	△	○							
542	ホシツヤヒラタアブ			○		△									
-			<i>Melanostoma</i> 属			△							○		
543	アリノスアブ				○	△									
544	ハチモドキハナアブ				○	△	○								
545	シママメヒラタアブ					△						○			
546	キアシママヒラタアブ			○		△	○								
547	オオハナアブ			○	○	△	○								
548	ミナミヒメヒラタアブ			○	○	△									
549	ホソヒメヒラタアブ				○	△	○				○	○	○		
550	マガイヒラタアブ			○		△									
551	オオフタホシヒラタアブ			○		△									
552	キイロナミホシヒラタアブ				○	△								○	
553	ヨツボシヒラタアブ		○		△										
554	キベリヒラタアブ		○		△										
555		ナミルリイロハラナガハナアブ		○	△										

表 11-11-19(14) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7			
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査			
秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季						
556	ハエ目 (双翅目)	ノミバエ科	ノミバエ科	○	○	△	○	○	○					
557		キモグリバエ科	ニセヒゲトキモグリバエ			△							○	
558			ヒゲトキモグリバエ			△								○
-			キモグリバエ科		○		△							
559		クチキバエ科	クチキバエ科		○		△							
560		ショウジョウバエ科	<i>Drosophila</i> 属		○		△							
-			ショウジョウバエ科			○	△							○
561		ミギワバエ科	ニノミヤトビクチミギワバエ				△							○
562			カサネトビクチミギワバエ		○		△							
563			ミナミカマバエ				△	○						
564		シマバエ科	シモフリシマバエ				△	○						
565			<i>Homoneura tridentata</i>				△					○		
-			<i>Homoneura</i> 属		○		△							
-			シマバエ科				△	○					○	
566		ヒロクチバエ科	<i>Rivellia cestoventirs</i>				△					○		
567		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ		○	○	△	○					○	○
568			ヒガシヒゲナガヤチバエ		○		△							
569			キイロキタヤチバエ			○	△							
570		フンコバエ科	<i>Copromyza</i> 属		○		△							
-			フンコバエ科		○		△							
571		ナガズヤセバエ科	モンキアシナガヤセバエ				△	○						
572			ホシアシナガヤセバエ				△	○						
573		ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ			○	△	○						○
574			オスアカツヤホソバエ			○	△							
-			<i>Sepsis</i> 属			○	△							
575			マエキツヤホソバエ				△							○
576		ミバエ科	ミスジミバエ		○	○	△							
577			センダングサケブカミバエ			○	△	○						
578			ネットタイヒメクロミバエ		○		△							
579			ヤツデハマダラミバエ		○		△							
-			ミバエ科			○	△							
580		ハナバエ科	ハナバエ科			○	△							○
581		クロバエ科	オオクロバエ		○		△							
582		ミドリキンバエ				△							○	
583		ミヤマキンバエ				△					○			
584		コチビクロバエ		○		△								
585		ツマグロキンバエ		○	○	△	○					○	○	
-		クロバエ科				△			○	○				
586	イエバエ科	<i>Atherigona</i> 属				△						○	○	
587		カガハナゲバエ				△							○	
588		ヒメセマダライエバエ		○		△						○		
589		シナホソカトリバエ		○		△							○	
590		イエバエ				△	○							
591		ヘリグロハナレメイエバエ		○		△								
592		<i>Phaonia</i> 属			○	△								
593		シリモチハナレメイエバエ		○		△								

表 11-11-19(15) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種				
				R2 調査		R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査						
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季						
594	ハエ目 (双翅目)	ニクバエ科	ホンシュウホソクニクバエ												○			
595			トリオニクバエ								○	○	○					
596			モトミセラニクバエ										○					
597			シリグロニクバエ				○						○					
598			ヒメニクバエ													○		
599			ツシマニクバエ				○									○		
-			<i>Sarcophaga</i> 属	○														
-			ニクバエ科									○						
600			フンバエ科	ヒメフンバエ	○	○											○	
601		ヤドリバエ科	<i>Euthera tuckeri</i>												○			
602			<i>Gonia</i> 属	○														
603			ヒメマルボシヒラタヤドリバエ													○		
604			マルボシヒラタヤドリバエ				○									○		
605			セスジハリバエ		○													
-	ヤドリバエ科		○												○	○		
606	コウチュウ目 (鞘翅目)	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ		○													
607	オサムシ科	キイロチビゴモクムシ		○			○											
608		アオグロヒラタゴミムシ		○														
609		マルガタゴミムシ		○														
610		ニセマルガタゴミムシ		○														
611		オオマルガタゴミムシ	○															
-		<i>Amara</i> 属														○		
612		ホシボシゴミムシ		○														
613		オオホシボシゴミムシ		○				○								○		
614		ゴミムシ	○	○			○											
615		ヒメゴミムシ		○			○									○		
616		キベリゴモクムシ		○			○									○		
617		キアシヌレチゴミムシ	○															
618		ミカワオサムシ		○				○										
619		オオアトボシアオゴミムシ						○										
620		アトボシアオゴミムシ		○														
621		アオゴミムシ		○														
622		キボシアオゴミムシ		○				○										
623		ムナビロアトボシアオゴミムシ						○										
624		コガシラアオゴミムシ		○				○										
625		アトワアオゴミムシ		○				○										
626		クロモリヒラタゴミムシ	○	○														
627		オオスナハラゴミムシ		○				○										
628		ヤセアトキリゴミムシ						○										
629		コヨツボシアトキリゴミムシ		○														
630		セアカヒラタゴミムシ	○	○														
631		セダカコムズギワゴミムシ							○									
632		クビボソゴミムシ		○														
633		スジアオゴミムシ		○				○										
634		マルガタゴモクムシ	○															

表 11-11-19(16) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査	R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査					
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
635	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	ツヤアオゴモクムシ		○	△										
636			ハコダテゴモクムシ		○	△	○									
637			オオズケゴモクムシ	○		△	○									
638			ヒメケゴモクムシ	○		△	○								○	
639			ウスアカクロゴモクムシ	○	○	△							○			
640			アカアシマルガタゴモクムシ		○	△	○								○	
641			コゴモクムシ	○	○	△							○			
642			キクピアオアトキリゴミムシ	○		△										
643			フタホシアトキリゴミムシ			△	○									
644			ホシハネピロアトキリゴミムシ		○	△										
645			コルリアトキリゴミムシ			△	○								○	
646			オオゴミムシ		○	△	○									
647			クビナガゴモクムシ			△	○									
648			ヒラタアトキリゴミムシ		○	△										
649			オオヒラタアトキリゴミムシ			△	○									
650			クロヘリアトキリゴミムシ			△	○									
651			クロツブゴミムシ			△	○									
652			フタホシスジバネゴミムシ		○	△										
653			オオヒラタゴミムシ		○	△										
654			ヤマトクロヒラタゴミムシ		○	△										
655			トックリナガゴミムシ		○	△	○									
656			コガシラナガゴミムシ		○	△										
657			キンナガゴミムシ			△	○									
658			ニッコウヒメナガゴミムシ		○	△										
659			アシミゾナガゴミムシ		○	△	○									
660			ヨリトモナガゴミムシ	○	○	△										
661			ミドリマメゴモクムシ		○	△	○									
662			マメゴモクムシ		○	△										
663			ムネアカマメゴモクムシ			△									○	
664			イツホシマメゴモクムシ			△	○									
665			マルガタツヤヒラタゴミムシ	○		△					○					
666			クロツヤヒラタゴミムシ	○	○	△										
667			ヒメツヤヒラタゴミムシ	○	○	△					○					
668			オオクロツヤヒラタゴミムシ	○	○	△				○						
669			ヒラタコミズギワゴミムシ		○	△	○									
670			ヨツモンコミズギワゴミムシ			△	○									
671			シロウマホソヒラタゴミムシ	○		△										
-					<i>Trephionus</i> 属			△		○						
672					ヒメツヤゴモクムシ		○	△								
673					ルイスオオゴミムシ		○	△								
-					チビゴミムシ亜科			△	○							
674				ハンミョウ科	コハンミョウ			△	○							
675				ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ			△	○							
676					ハイイロゲンゴロウ			△	○				○			
677					コシマゲンゴロウ		○	△	○							
678					チビゲンゴロウ			△	○							

表 11-11-19(17) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2	R3			R4		R6		R7		
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季						
679	コウチュウ目 (鞘翅目)	ヒゲトオサムシ科	エグリゴミムシ			△							○	
680		ガムシ科	セマルガムシ		○	△	○							
681			キベリヒラタガムシ		○	△	○							
682			キイロヒラタガムシ		○	△	○							
683			コガムシ		○	△	○							○
684			マグソガムシ	○		△								
685			ヒメガムシ		○	△	○				○		○	
686		エンマムシ科	コエンマムシ		○	△								
687			キノコアカマルエンマムシ			△	○							
688		タマキノコムシ科	Agathidium 属			△	○							
689			Colon 属		○	△								
-			タマキノコムシ科		○	△	○							
690		シデムシ科	オオヒラタシデムシ		○	△	○							
691			クロシデムシ	○	○	△	○							
692			ヨツボシモンシデムシ	○	○	△								
693		ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ	○	○	△								
694			コバネアシセシジハネカクシ			△			○					
695			ルイスツヤセシジハネカクシ	○		△	○							
696			シワバネセシジハネカクシ			△	○							
697			ヒメシリグロハネカクシ		○	△	○							
698			ズグロアカヒメハネカクシ			△	○							
699			カタモンニセキノコハネカクシ		○	△	○							
700			ニセヒメユミセミゾハネカクシ		○	△	○							
701			コヤマトヒゲトアリヅカムシ		○	△								
702			マルズハネカクシ		○	△								
703			アカニセセミゾハネカクシ		○	△								
704			Lordithon 属	○		△								
705			ウスアカバホソハネカクシ		○	△			○					
706			アカバホソハネカクシ		○	△								
707			アオバアリガタハネカクシ	○	○	△	○					○	○	
708			Petaloscapus 属			△	○							
709			オオアカバコガシラハネカクシ			△	○							
710			ニセヒゲコガシラハネカクシ		○	△								
-			Philonthus 属		○	△	○							
711			クビボソハネカクシ		○	△								
712			ニセツマキケシデオキノコムシ		○	△								
-			Scaphisoma 属	○	○	△	○							
713			チビヒメクビボソハネカクシ		○	△								
714			クロゲヒメキノコハネカクシ			△	○							
715			ムクゲヒメキノコハネカクシ		○	△								
-			Sepedophilus 属		○	△								
716			Stenus 属		○	△								
-			ハネカクシ科		○	○	△	○		○				
717		マルハナノミ科	ウスチャチビマルハナノミ		○	△								
718			トビイロマルハナノミ	○	○	△	○						○	
-			マルハナノミ科		○	△								
719	センチコガネ科	センチコガネ	○	○	△	○								

表 11-11-19(18) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7				
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査					
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季			
				1回目	2回目										
720	コウチュウ目 (鞘翅目)	クワガタムシ科	コクワガタ		○	△							○		
721			ノコギリクワガタ			△	○								
722		コガネムシ科	コイチャコガネ		○	△									
723			アオドウガネ			△	○			○	○				
724			ヒメコガネ				△	○							
725			ナミハナムグリ		○	△									
726			ヒメアシナガコガネ		○	△									
727			セマダラコガネ				△	○							
728			コアオハナムグリ		○	△							○	○	
729			クロハナムグリ		○	△									
730			クロコガネ		○	△									
731			オオクロコガネ				△	○							
732			アカビロウドコガネ				△	○							
733			ビロウドコガネ				△	○							
734			ヒメビロウドコガネ		○	△									
735			マルガタビロウドコガネ				△	○							
736			コフキコガネ				△	○							
737			オオスジコガネ				△	○							
738			コケシマグソコガネ				△	○							
739			ヒラタハナムグリ		○	△									
740			コブマルエンマコガネ				△	○							
741			マメダルマコガネ		○	△		○							
742			ツヤエンマコガネ				△	○							
743			マメコガネ				△	○			○				
744			シロテンハナムグリ		○	△		○							
745			セマルケシマグソコガネ				△	○							
746			カナブン				△	○							
747			カブトムシ		○	△		○			○				
748		チビドロムシ科	チビドロムシ			△	○								
749		ナガハナノミ科	ヒゲナガハナノミ		○	△									
750		タマムシ科	クロナガタマムシ		○	△									
751			ヒシモンナガタマムシ	○	○	△						○	○		
752			アオグロナガタマムシ		○	△									
753			フチトリヒメヒラタタマムシ		○	△									
754			タマムシ				△	○			○				
755			ムネアカチビチカボソタマムシ				△	○							
756			クズノチビタマムシ		○	△		○						○	
757			コウゾチビタマムシ		○	△									
758			ナミガタチビタマムシ		○	△		○			○			○	
759			マルガタチビタマムシ		○	△		○						○	
760			マメチビタマムシ				△	○				○			
761			サシグチビタマムシ		○	△		○							
762			ズミチビタマムシ		○	△									
763			ヤノナミガタチビタマムシ		○	△									

表 11-11-19(19) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
764	コウチュウ目 (鞘翅目)	コメツキムシ科	サビキコリ	○	○	△	○					○				
765			ムナビロサビキコリ			△								○		
766			ホソサビキコリ		○	△									○	
767			コガタヒメサビキコリ		○	△										
768			ヒメサビキコリ			○	△	○								
769			アカハラクロコメツキ			○	△									
770			キバネホソコメツキ			○	△									
771			ミズギワコメツキ				△	○								
772			クロツヤクシコメツキ				△								○	
773			コガタクシコメツキ				△								○	
774			クシコメツキ			○	△								○	
775			クロクシコメツキ			○	△								○	
776			ヒゲナガコメツキ			○	△									
777			オオナガコメツキ				△	○								
778			コハナコメツキ				△								○	
779			ヒゲコメツキ			○	△									
780			マダラチビコメツキ			○	○	△	○			○	○			
781			オオクシヒゲコメツキ				△	○								
-					コメツキムシ科			△	○							
782			ヒゲプトコメツキ科		ナガヒゲプトコメツキ		○	△	○							
783			ジョウカイボン科		クロヒメクビボソジョウカイ		○	△								
-					<i>Asiopodabrus</i> 属			△							○	
784					クビボソジョウカイ			△							○	
785					ジョウカイボン		○	△								
786					セボソジョウカイ		○	△							○	
787					キアツツマキジョウカイ		○	△								
788			クロスジツマキジョウカイ		○	△										
789	ホタル科		オバボタル		○		○									
790			ゲンジボタル			○										
791			ヘイケボタル			○								○		
792	ベニボタル科		ミヤマクシヒゲベニボタル		○	△										
793			クロハナボタル			△	○						○			
-			<i>Plateros</i> 属			△	○									
794	カツオブシムシ科		ヒメマルカツオブシムシ		○	△							○			
795			ヨツモンチビカツオブシムシ			△	○									
796			クロヒゲプトカツオブシムシ		○	△										
797			カマキリタマゴカツオブシムシ		○	△							○			
798	シバンムシ科		ヒメトサカシバンムシ		○	△							○			
799			ヒメホリタケシバンムシ			△	○									
800			<i>Dorcatoma</i> 属			△	○									
801			マツザイシバンムシ			△							○			
802			セスジタワラシバンムシ		○	△										
-			シバンムシ科			△	○									
803	カッコウムシ科		ヤマトヒメメダカカッコウムシ		○	△							○			
804	ジョウカイモドキ科		ヒロオビジョウカイモドキ			△	○									
805			キアシオビジョウカイモドキ			△			○				○			
806			ツマキアオジョウカイモドキ		○	△							○			

表 11-11-19 (20) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2	R3		R4		R6		R7			
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季		
				1回目	2回目									
807	コウチュウ目 (鞘翅目)	ムクゲクスイムシ科	ハスモンムクゲクスイ		○	△								
808		ツツキノコムシ科	ツツキノコムシ科			△	○							
809		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ			△	○							
810			ムーアシロホシテントウ	○	○	△	○			○				
811			ナナホシテントウ	○	○	△	○				○	○		
812			トホシテントウ			△							○	
813			ナミテントウ		○	△	○						○	
814			オオコジュウヤホシテントウ			△	○							
815			コジュウヤホシテントウ			△					○			
816			ジュウサンホシテントウ			△							○	
817			フタホシテントウ			△				○				
818			キイロテントウ		○	△								
819			ダンダラテントウ		○	△					○			
820			ムナグロチャイロテントウ			△	○							
821			セスジヒメテントウ			△	○			○	○			
822			シコクフタホシヒメテントウ		○	△							○	
823			ヨツボシテントウ	○		△								
824			モンクチビルテントウ		○	△	○			○	○	○		
825			ヒメカメノコテントウ	○	○	△	○			○	○	○		
826			ベダリアテントウ		○	△								
827			ハレヤヒメテントウ		○	△								
828			ババヒメテントウ		○	△	○			○	○	○		
829			クロヘリヒメテントウ			△	○			○	○			
830			カワムラヒメテントウ		○	△	○							
831			クロスジヒメテントウ			△					○			
832			コクロヒメテントウ		○	△	○			○	○	○		
833			ヤマトヒメテントウ		○	△	○						○	
834			クロツヤテントウ		○	△	○						○	
835			クロテントウ			△							○	
836			クスイムシ科	ケナガセマルクスイ	○	○	△							
837				ナガマルクスイ		○	△							
838				ヨツモンクスイ	○		△							
839				ウスバクスイ		○	△							
840				クロモンクスイ	○	○	△	○					○	
841				ウスイロクスイ			△			○			○	
842			マルガタクスイ		○	△	○							
843		ヒラタムシ科	オオキバチビヒラタムシ		○	△								
844		ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ		○	△						○		
845		テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ		○	△	○							
846		オオキノコムシ科	ホソチビオオキノコムシ		○	△								
847			ミツボシチビオオキノコムシ		○	△								
848		オオクスイムシ科	ヨツボシオオクスイ			△	○							
849		コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ			△				○				
850			ケシコメツキモドキ	○		△						○		
851		ヒメマキムシ科	クロオビケシマキムシ		○	△								
852			ウスチャケシマキムシ		○	△	○			○				

表 11-11-19 (21) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7				
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季			
				1回目	2回目										
853	コウチュウ目 (鞘翅目)	ケシキスイ科	アカムクゲケシキスイ			△					○				
854			クロハナケシキスイ	○	○	△	○								
855			クリイロデオキシイ		○	△									
856			クロマルケシキスイ		○	△									
857			ツヤチビヒラタケシキスイ				△	○							
858			ヒメヒラタケシキスイ			○	△								
859			ホソキヒラタケシキスイ			○	△							○	
860			モンチビヒラタケシキスイ		○	○	△	○							
-					<i>Haptoncus</i> 亜属	○		△							
-					<i>Epuraea</i> 属	○	○	△	○						○
861					ヨツボシケシキスイ	○	○	△	○						
862					アカハラケシキスイ		○	△							
863					オドリコソウチビケシキスイ			△							○
864					アカマダラケシキスイ	○	○	△	○						
865					ウスオビカケシキスイ		○	△							
866					マルキマダラケシキスイ	○	○	△	○						
-					ケシキスイ科	○		△							
867				ヒメハナムシ科	ヒメハナムシ科	○		△							
868				ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ	○		△							
869					マルムネホソヒラタムシ			△				○			
870					アタマホソヒラタムシ		○	△							
871					ホソミツカドホソヒラタムシ		○	△	○						
872				アリモドキ科	ケオビアリモドキ	○		△	○						
873					ホソクビアリモドキ		○	△	○			○	○		
874					キアシクビボソムシ			△					○		
875					アカクビボソムシ			△	○						
876					アカホソアリモドキ		○	△							
877					ヨツボシホソアリモドキ	○	○	△	○			○	○	○	
878				ニセクビボソムシ科	アカバニセクビボソムシ		○	△							
879		ナガクチキムシ科	ヨツボシヒメナガクチキ		○	△									
880			フタモンヒメナガクチキ		○	△									
881		ハナノミ科	ナミアカヒメハナノミ			△	○								
882			オカモトヒメハナノミ			△	○								
883			アヤオビハナノミ			△	○								
884			クリイロヒゲハナノミ			△	○								
885			クロヒメハナノミ		○	△						○			
886			アカヒメハナノミ			△	○								
-				ハナノミ科			△	○							
887			カミキリモドキ科	モモブトカミキリモドキ		○	△								
888		キアシカミキリモドキ			○	△									
889		ハナノミダマシ科	キイロフナガタハナノミ		○	△									
890			クロフナガタハナノミ		○	△						○			
891		ゴミムシダマシ科	ナミウスイロクチキムシ		○	△									
892			ホソクロクチキムシ			△						○			
893			ホンドホソアカクチキムシ		○	△									
894			アカガネアオハムシダマシ		○	△									
895				クリイロクチキムシ			△	○							

表 11-11-19(22) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種				
				R2	R3			R4		R6		R7						
				調査	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	調査						
秋季	春季	初夏	夏季	1回目	2回目	夏季	秋季	春季										
896	コウチュウ目 (鞘翅目)	ゴミムシダマシ科	ヒメナガニゴミムシダマシ		○	△	○							○				
897			モンキゴミムシダマシ			△	○											
898			コスナゴミムシダマシ		○	△	○				○							
899			スジコガシラゴミムシダマシ		○	△	○											
900			アカツヤバネクチキムシ		○	△												
901			ヒゲブトゴミムシダマシ		○	△								○	○			
902			フジナガハムシダマシ		○	△												
903			アオツヤキノゴミムシダマシ		○	△	○											
904			ペニモンキノゴミムシダマシ			△	○											
905			ニホンキマワリ本土亜種		○	△	○											
906			サトユミアシゴミムシダマシ		○	○	△	○								○		
907			モトヨツコブエグリゴミムシダマシ			○	△											
908			マルセルエグリゴミムシダマシ本土亜種			○	△	○										
909			ホンドクロオオクチキムシ			△	○											
910			ナミクチキムシ			○	△								○			
911			カミキリムシ科	カミキリムシ科	キマダラミヤマカミキリ		○	△	○									
912					ゴマダラカミキリ			△	○									
913					コブスジサビカミキリ			○	△									
914					ルリカミキリ			○	△									
915					ヒメスギカミキリ			○	△									
916	エグリトラカミキリ					○	△											
917	フタオビミドリトラカミキリ						△	○										
918	ニイジマチビカミキリ						△	○										
919	ホシベニカミキリ						△	○										
920	キイロトラカミキリ					○	△											
921	ミヤマルリハナカミキリ					○	△											
922	オオヨツスジハナカミキリ						△	○										
923	ナガゴマフカミキリ						△	○										
924	ハイロヤハズカミキリ					○	△											
925	リンゴカミキリ					○	△											
926	ニセシラホシカミキリ					○	△	○										
927	キクスイカミキリ					○	△									○		
928	キボシカミキリ						△								○			
929	アトジロサビカミキリ					○	△											
930	ベニカミキリ					○	△											
931	ヒメクロトラカミキリ			○	△													
932	アカハナカミキリ				△	○												
933	クビアカトラカミキリ				△	○												
934	ハムシ科	ハムシ科	ハンノキハムシ		○	△												
935			ヒメカミナリハムシ			△	○				○	○	○					
936			カミナリハムシ				△					○						
937			アカバナカミナリハムシ			○	△											
938			ツブノミハムシ			○	△											
939			サメハダツブノミハムシ		○	○	△	○						○	○			
940			テントウノミハムシ			○	△											
941			ヘリグロテントウノミハムシ			○	△							○	○			

表 11-11-19 (23) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種
				R2	R3			R4		R6		R7		
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季		
				1回目	2回目									
942	コウチュウ目 (鞘翅目)	ハムシ科	オオアカマルノミハムシ		○	△								
943			ウリハムシモドキ		○	△	○							
944			ウリハムシ	○	○	△	○			○	○			
945			クロウリハムシ	○	○	△	○			○	○	○		
946			アオバネサルハムシ			△	○			○				
947			チャバラマメゾウムシ		○	△								
948			ヒメジンガサハムシ		○	△	○							
949			イノコヅチカメノコハムシ				△					○		
950			ヒメドウガネトビハムシ		○	△	○			○			○	
951			ツバキムシクソハムシ		○	△								
952			ムシクソハムシ		○	△								
953			ヨモギハムシ	○	○	△	○						○	
954			ヒトミヒメサルハムシ			△	○							
955			クロアシヒメツツハムシ			△	○							
956			バラリリツツハムシ		○	△								
957			クロボシツツハムシ		○	△								
958			ジュウシホシツツハムシ			△	○							
959			ヤクカサハラハムシ		○	△	○							
960			マダラカサハラハムシ		○	△								
961			カサハラハムシ		○	△	○							
962			クワハムシ		○	△							○	
963			イチゴハムシ		○	△								
964			コガタルリハムシ			△							○	
965			ヤツボシハムシ		○	△								
966			フジハムシ		○	△								
967			ヒメトビハムシ			△							○	
968			ヒゲナガルリマルノミハムシ		○	△								
969			ドウガネサルハムシ	○	○	△	○			○	○	○		
970			クロオビカサハラハムシ		○	△								
971			ヨツモンカメノコハムシ	○	○	△	○			○	○	○		
972			キベリクビボソハムシ		○	△								
973			キバラリクビボソハムシ			△							○	
974			トゲアシクビボソハムシ		○	△								
975			トホシクビボソハムシ		○	△								
976			コルリクビボソハムシ		○	△								
977			アカクビボソハムシ		○	△	○			○	○	○		
978			ヤマイモハムシ		○	△	○			○		○		
979			クビアカトビハムシ			△	○							
980			キアシノミハムシ		○	△								
981			ルイスケブカサルハムシ		○	△								
982			フタスジヒメハムシ		○	△				○				
983			キイロクワハムシ			△	○							
984			アカガネチビサルハムシ			△	○							
985			ドウガネツヤハムシ		○	△								
986			セスジクビボソハムシ			△				○				
987			ムネアカキバネサルハムシ			△	○							
988			マルキバネサルハムシ			△	○			○				

表 11-11-19 (24) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7				
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季			
				1回目	2回目										
989	コウチュウ目 (鞘翅目)	ハムシ科	ダイコンサルハムシ			△							○		
990			チャバネツヤハムシ		○	△								○	
991			ヤナギルリハムシ				△				○	○		○	
992			ナトビハムシ		○		△		○					○	
993			ダイコンナガスネトビハムシ				△		○						
-			<i>Psylliodes</i> 属			○	△								
994			ニレハムシ			○	△							○	
995			キイロナガツツハムシ					△							○
996			ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ		○		△							
997				キノコヒゲナガゾウムシ		○		△							
998		ウスモンツツヒゲナガゾウムシ						△							
999		ホソクチゾウムシ科	ケブカホソクチゾウムシ		○		△		○						
1000			オトシブミ科	エゴツルクビオトシブミ		○		△							
1001		コナライクビチョッキリ			○		△								
1002		ヒメケブカチョッキリ			○		△								
1003		クチナガチョッキリ						△			○	○			
1004		アシナガオトシブミ				○		△							
1005		ゾウムシ科	ウスモンカレキゾウムシ		○		△								
1006			イチゴハナゾウムシ		○		△								
1007			ケブカヒメカタゾウムシ		○		△							○	
1008			ツヤツチゾウムシ			○		△							
1009			エゾヒメゾウムシ			○		△						○	
1010			カナムグラサルゾウムシ					△						○	
1011			ダイコンサルゾウムシ					△						○	
1012			アオバネサルゾウムシ					△						○	
1013			セダカシギゾウムシ					△		○					
1014			アキグミシギゾウムシ		○			△							
1015			イヌビワシギゾウムシ			○		△							
1016			エゴシギゾウムシ			○		△							
1017			ヤノシギゾウムシ			○		△							
1018			ハマベキタイゾウムシ					△						○	
1019			コフキゾウムシ		○	○		△		○		○	○	○	
1020			ムシクサコバンゾウムシ					△						○	
1021	タデトゲサルゾウムシ						△		○				○		
1022	アルファルファタコゾウムシ				○		△		○			○	○		
1023	ケブカクチプトゾウムシ				○		△								
1024	ウスアオクチプトゾウムシ				○		△								
1025	ハスジカツオゾウムシ						△		○				○		
1026	カツオゾウムシ						△		○						
1027	ホホジロアシナガゾウムシ				○		△								
1028	トゲハラヒラセクモゾウムシ				○		△								
1029	クワヒメゾウムシ				○		△								
1030	チビヒョウタンゾウムシ				○		△								
1031	カシワクチプトゾウムシ				○		△								
1032	モンアシプトゾウムシ						△						○		
1033	ムネスジノミゾウムシ						△		○				○		
1034	ヒラセノミゾウムシ					△		○		○					

表 11-11-19 (25) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7				
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査				
秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季							
1035	コウチュウ目 (鞘翅目)	ゾウムシ科	ガロアノミゾウムシ		○	△									
1036			エノキノミゾウムシ		○	△	○								
1037			アカアシノミゾウムシ		○	△									
1038			オジロアシナガゾウムシ		○	△	○								
1039			タカオマルクチカクシゾウムシ		○	△									
1040			オビデオゾウムシ				△	○							
1041			オオミスジマルゾウムシ			○	△	○							
1042			ミスジマルゾウムシ			○	△								
1043			オオクチプトゾウムシ				△	○							
1044			スグリゾウムシ			○	△	○			○	○	○		
1045			ヒレルクチプトゾウムシ				△	○							
1046			マアアラハダクチカクシゾウムシ			○	△								
1047			コブナシクチプトサルゾウムシ			○	△								
1048			タデノクチプトサルゾウムシ				△	○						○	
1049			サビヒョウタンゾウムシ				△	○							
1050			ケチビコフキゾウムシ				△	○						○	
1051			チビコフキゾウムシ			○	△							○	
1052			ハイイロタマゾウムシ			○	△								
1053			ワモンヒョウタンゾウムシ			○	△								
1054			ヒメクチカクシゾウムシ				△	○							
1055			ホソゲチビツチゾウムシ			○	△	○							
1056			フトゲチビツチゾウムシ				△	○							
-					クチカクシゾウムシ亜科			△	○						
1057				オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ		○	△							
1058				イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ			△	○					○	
1059				チビゾウムシ科	モンチビゾウムシ	○	○	△	○						
1060				キクイムシ科	カナクギノキクイムシ		○	△							
1061		ミカドキクイムシ			○	△	○								
1062		クワノキクイムシ			○	△									
-		Xyleborus 属				○	△								
1063		ハネミジカキクイムシ				○	△								
1064		サクキクイムシ				○	△								
-		キクイムシ科			○	○	△	○					○		
1065	ハチ目 (膜翅目)	ミフシハバチ科	ニレチュウレンジ			○	△								
1066			アカスジチュウレンジ		○	△	○								
1067			ルリチュウレンジ	○	○	△	○								
1068			サクラクワガタハバチ		○	△									
1069		ハバチ科	ハグロハバチ			△	○			○					
1070			セグロカブラハバチ	○	○	△	○								
1071			イヌノフグリハバチ			△	○								
1072			カブラハバチ		○	△	○								
1073			クシヒゲハバチ			△	○								
1074			オスグロハバチ		○	△					○	○			
1075			マルクロハバチ		○	△									
1076			マライセクロハバチ		○	△									
1077			キイロハバチ			△	○								
-				ハバチ科			△							○	

表 11-11-19 (26) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期									重要な種	
				R2	R3		R4		R6		R7			
				調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	秋季	夏季	秋季	春季		
				1回目	2回目									
1078	ハチ目 (膜翅目)	ヤドリタマバチ科	ヤドリタマバチ科										○	
1079		コマユバチ科	<i>Ascogaster</i> 属										○	
1080			<i>Chelonus</i> 属									○		
1081			ヒメウマノオバチ				○							
-			コマユバチ科		○	○					○	○	○	
1082		ヒメバチ科	アオムシヒラタヒメバチ		○									
1083			ムラサキウスアメバチ					○						
-			ヒメバチ科		○								○	○
1084		シリボソクロバチ科	シリボソクロバチ科						○					
1085		ハエヤドリクロバチ科	ハエヤドリクロバチ科			○		○	○					
1086		ハラビロクロバチ科	タマゴクロバチ亜科			○		○						
1087		ヒゲナガクロバチ科	ヒゲナガクロバチ科			○								
1088		アシプトコバチ科	ヒメアシプトコバチ								○			
1089			キアシプトコバチ		○	○							○	
1090			コマユバチヤドリアシプトコバチ											○
1091		コガネコバチ科	コガネコバチ科								○			
1092		アリガタバチ科	クシヒゲアリガタバチ					○						
-			アリガタバチ科		○			○						○
1093		アリ科	ヤマトアシナガアリ		○	○		○	○					
1094			オオハリアリ		○	○		○	○					
1095			クロオオアリ		○	○		○						
1096		ナワヨツボシオオアリ								○			○	
1097		ヒラズオオアリ			○		○					○		
1098		ヨツボシオオアリ		○	○									
1099		ウメマツオオアリ			○		○			○	○	○		
1100		ヤマヨツボシオオアリ		○	○		○							
1101		コツノアリ		○				○						
1102		ハリプトシリアゲアリ			○		○			○	○	○		
1103		キイロシリアゲアリ		○	○		○	○						
1104		クボミシリアゲアリ		○	○		○						○	
1105		トゲズネハリアリ					○							
1106		ダルマアリ			○									
1107		シベリアカタアリ					○							
1108		ケブカハリアリ						○						
1109		ハヤシクロヤマアリ		○	○									
1110		クロヤマアリ		○	○		○			○	○	○		
1111		ベッピンニセハリアリ			○									
1112		ニセハリアリ					○							
1113		キイロケアリ								○				
1114		クロクサアリ			○									
1115		トビイロケアリ		○	○		○			○	○	○		
1116		フシボソクサアリ										○		
1117		カワラケアリ			○		○							
1118		ヒラアシクサアリ			○									
1119		アメイロケアリ						○						
1120		クロナガアリ		○										
1121		クロヒメアリ		○										

表 11-11-19 (27) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査				
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
1122	ハチ目 (膜翅目)	アリ科	ヒメアリ	○	○	△	○				○		○			
1123			キイロヒメアリ		○	△	○									
1124			カドフシアリ				△		○							
1125			アメイロアリ	○	○	△	○						○			
1126			ルリアリ	○		△	○						○			
1127			サクラアリ			△						○				
1128			オオズアリ	○	○	△	○			○	○	○				
1129			トゲアリ			△	○								○	
1130			チクシトゲアリ		○	△										
1131			アミメアリ	○	○	△	○					○	○	○		
1132			イトウカギバラアリ		○	△	○									
1133			トフシアリ	○		△				○						
1134			イガウロコアリ			△	○									
1135			ヒラタウロコアリ		○	△	○									
1136			ウロコアリ	○	○	△	○									
1137			ムネボソアリ	○	○	△	○					○	○			
1138			ハリナガムネボソアリ	○	○	△	○						○	○		
1139			トビイロシワアリ	○	○	△	○						○			
1140			ウメマツアリ	○	○	△	○									
-					ヤマアリ亜科		○	△	○							
1141			スズメバチ科		オオフタオビドロバチ 本土亜種			△	○				○			
1142					キボシトックリバチ			△						○		
1143					ミカドトックリバチ			△						○		
1144					キアシトックリバチ			△							○	
1145					ミカドドロバチ本土亜種			△	○					○		
1146	エントツドロバチ					△	○									
1147	スズバチ				○	△	○									
1148	ナミカバフドロバチ					△	○									
1149	フタモンアシナガバチ 本土亜種	○			○	△								○		
1150	ヤマトアシナガバチ	○				△	○					○			○	
1151	セグロアシナガバチ 本土亜種	○			○	△	○					○		○		
1152	キアシナガバチ本土亜種	○			○	△						○	○	○		
1153	カタグロチビドロバチ					△	○									
1154	フトカギチビドロバチ					△	○							○		
1155	コガタスズメバチ	○			○	△	○						○			
1156	モンズズメバチ					△						○	○		○	
1157	ヒメズズメバチ					△	○									
1158	オオズズメバチ	○			○	△								○		
1159	キイロスズメバチ	○				△										
1160	クモバチ科				オオモンクロクモバチ			△	○							
1161					ベッコウクモバチ			△	○							
1162					ツマアカクモバチ			△	○							
1163	アリバチ科				トゲムネアリバチ			△	○							
1164					フタホシアリバチ		○	△								
1165					セヅノアリバチ			△	○							

表 11-11-19 (28) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期										重要な種		
				R2 調査		R3 調査		R4 調査		R6 調査		R7 調査				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季 1回目	秋季 2回目	夏季	秋季	春季				
1166	ハチ目 (膜翅目)	コツチバチ科	ヤマコツチバチ	○												
-			<i>Tiphia</i> 属	○	○							○				
1167		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ 本土亜種				○									
1168			シロオビハラナガツチバチ	○												
1169			アカスジツチバチ本土 亜種				○									
1170			キオビツチバチ				○									
1171			ギングチバチ科	オオハヤバチ本土亜種								○				
1172		フシダカバチ科	マルモンツチスガリ				○									
1173		アナバチ科	ヤマトリジガバチ				○									
1174			ミカドジガバチ				○									
1175			コクロアナバチ				○									
1176			アメリカジガバチ				○				○					
1177		ヒメハナバチ科	トゲアシヒメハナバチ											○		
1178		ミツバチ科	ニホンミツバチ	○	○								○			
1179			セイヨウミツバチ	○	○		○				○	○	○			
1180			コマルハナバチ本土亜種		○											
1181			セイヨウオオマルハナバチ		○										○	
1182			シロスジヒゲナガハナバチ		○										○	
1183			キムネクマバチ		○			○				○			○	
1184			タイワンタケクマバチ		○			○				○				
1185			ムカシハナバチ科	ババムカシハナバチ		○										
1186	スミスメンハナバチ			○												
1187	コハナバチ科	アカガネコハナバチ	○			○						○				
1188		ズマルコハナバチ	○													
1189		エブメルツヤコハナバチ	○													
-			<i>Lasioglossum</i> 属		○		○						○			
1190	ハキリバチ科	バラハキリバチ本土亜種				○					○	○				
1191		オオハキリバチ				○										
1192		ツルガハキリバチ		○												
	21 目	249 科	1192 種	331 種	610 種	2 種	551 種	17 種	10 種	174 種	221 種	258 種	12 種			

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024) に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

注 3) 令和 4 年秋季調査では専門家の技術的助言に従い、地中トラップを実施した。

※1 ヒラタトガリカメムシは、環境省レッドリストでは本来準絶滅危惧 (NT) と分類されるが、愛知県では外来種に選定されていることから、重要種としては扱わないこととした。

(b) 重要な昆虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な昆虫類はマイコアカネ、ヤマトアシナガバチ等の 12 種でした。

現地調査で確認された重要な昆虫類を表 11-11-20 に示します。

表 11-11-20 現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	トンボ目	トンボ科	マイコアカネ						NT	NT
2	ゴキブリ目	オオゴキブリ科	オオゴキブリ						NT	
3	カメムシ目	アメンボ科	オオアメンボ						NT	
4		コオイムシ科	コオイムシ					NT		N-III
5		タイコウチ科	ヒメタイコウチ						NT	DD
6	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメジャノメ							N-III
7			サトキマダラヒカゲ							N-III
8	コウチュウ目	ガムシ科	コガムシ					DD		NT
9		ホタル科	ヘイケボタル						DD	N-III
10	ハチ目	アリ科	トゲアリ					VU		
11		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ					DD		
12			モンズズメバチ					DD		
	6 目	10 科	12 種	0 種	0 種	0 種	0 種	6 種	5 種	7 種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 I B 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自の 카테고리)

⑧ 陸産貝類

(a) 陸産貝類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-21(1)～(2)に示すとおり、3目17科47種の陸産貝類が確認されました。

表 11-11-21(1) 陸産貝類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種
				R3 調査			R6 調査		R7 調査	
				春季	初夏	秋季	夏季	秋季	春季	
1	中腹足	ヤマタニシ	ミジンヤマタニシ		○	○		○	○	
2		ゴマガイ	イブキゴマガイ		○	○				
3			ヒダリマキゴマガイ	○	○	○	○	○	○	
4		カワザンショウガイ	ウスイロオカチグサ	○			○			
5	原始有肺	ケシガイ	ニホンケシガイ						○	
6		オカミミガイ	オカミミガイ	○	○		○			○
7			キヌカツギハマシイノミガイ	○	○		○			○
8	柄眼	オカモノアラガイ	ヒメオカモノアラガイ	○					○	
9			ナガオカモノアラガイ	○	○		○			○
10	マキゾメガイ	マルナタネガイ		○		○		○	○	
11			ヒラドマルナタネガイ			○		○		○
12	ミジンマイマイ	ミジンマイマイ		○				○		
13	キセルガイ	ナミコギセル		○	○	○	○	○	○	
14		ミカワギセル		○	○	○		○	○	○
15		ツムガタギセル		○	○	○	○	○	○	
16	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ		○	○	○	○	○	○	
17		トクサオカチョウジガイ		○	○	○	○	○	○	
18		ホソオカチョウジガイ		○	○			○	○	
19	コハクガイ	ヒメコハクガイ		○	○			○	○	
20		コハクガイ			○	○		○	○	
21	イシノシタ	ノハライシノシタ						○		
22	ナメクジ	イボイボナメクジ		○	○				○	○
23		ナメクジ		○	○		○			
24		ヤマナメクジ		○						
—		ナメクジ属の一種								○
25	コウラナメクジ	ノハラナメクジ		○			○			
26		チャコウラナメクジ		○	○		○	○		
27	ベッコウマイマイ	ヒメベッコウガイ		○	○	○	○	○	○	
28		ヤクシマヒメベッコウ			○					
29		キビガイ		○	○	○		○	○	
30		ハリマキビ		○				○		
31		マルシタラガイ		○	○	○	○		○	
32		コシタカシタラガイ		○	○	○			○	
33		ウメムラシタラガイ		○	○	○		○	○	○
34		カサキビ		○	○	○				
35		オオウエキビ		○	○	○				○
36		ウラウズタカキビ			○	○				○
37		ヒメカサキビ		○	○					○
38		ウラジロベッコウ		○	○	○	○	○		
39		オオクラヒメベッコウ		○						

表 11-11-21(2) 陸産貝類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種
				R3 調査			R6 調査		R7 調査	
				春季	初夏	秋季	夏季	秋季	春季	
40	柄眼	ニッポンマイマイ	ニッポンマイマイ	○	○	○	○		○	
41		オナジマイマイ	ウスカワマイマイ	○	○	○	○	○	○	
42			コオオベソマイマイ	○						
43			オオケマイマイ	○	○	○	○	○	○	
44			コハクオナジマイマイ	○	○	○	○	○	○	
45			オナジマイマイ	○	○			○		
46			ヒラマイマイ	○	○	○	○	○	○	
47			マメマイマイ	○	○	○	○			
	3 目	17 科	47 種	38 種	36 種	26 種	21 種	25 種	25 種	10 種

注) 種の配列及び種名等は、原則として「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状- 無脊椎動物Ⅲ」(環境庁編, 1998. 12) に準拠した。

(b) 重要な陸産貝類

現地調査で確認された種のうち、重要な陸産貝類はナガオカモノアラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ等の 10 種でした。

現地調査で確認された重要な陸産貝類を表 11-11-22 に示します。

表 11-11-22 現地調査により確認された重要な陸産貝類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	原始有肺	オカミミガイ	オカミミガイ					VU	EN	
2			キヌカツギハマシイノミガイ					VU	CR	
3	柄眼	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT
4		マキゾメガイ	ヒラドマルナタネガイ						NT	
5		キセルガイ	ミカワギセル					NT	NT	
6		ナメクジ	イボイボナメクジ					NT	NT	DD
7		ベッコウマイマイ	ウメムラシタラガイ					NT	NT	
8			オオウエキビ					DD		
9			ウラウズタカキビ						NT	
10			ヒメカサキビ					NT	NT	
	2目	6科	10種	0種	0種	0種	0種	8種	9種	2種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自の 카테고리)

⑨ クモ類

(a) クモ類の生息状況

現地調査の結果、表 11-11-23(1)～(4)に示すとおり、1 目 29 科 130 種のクモ類が確認されました。

表 11-11-23(1) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種
				R2	R3		R6		R7	
				調査 秋季	調査 春季	調査 夏季	調査 夏季	調査 秋季	調査 春季	
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ	○						
2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ	○						○
3		ユウレイグモ科	ユウレイグモ	○						
4		エンマグモ科	ミヤグモ	○						
5		センショウグモ科	センショウグモ	○						
-			<i>Ero</i> 属	○						
6		チリグモ科	ヒラタグモ	○						
7		ウズグモ科	マネキグモ	○	○					○
8			<i>Octonoba</i> 属	○						
9		ホラヒメグモ科	ブンゴホラヒメグモ							
10		ヒメグモ科	アシプトヒメグモ	○	○					
11			シロカネイソウロウグモ	○	○					
12			オナガグモ	○			○			
13			ホシミドリヒメグモ	○						
14			<i>Dipoena</i> 属	○						
15			ムラクモヒシガタグモ				○			
-			<i>Episinus</i> 属	○						
16			ムナボシヒメグモ	○						
17			フタオイソウロウグモ	○						
18			ニホンヒメグモ			○				
19			キヨヒメグモ				○			
20			オオツリガネヒメグモ	○						
21			オオヒメグモ	○						
-			<i>Parasteatoda</i> 属	○						
22			カニミジグモ	○						
23			<i>Rhomphaea</i> 属	○						
24			ハンゲツオスナキグモ		○					
25			スネグロオチバヒメグモ	○						
26		サラグモ科	ヒゲナガヒザグモ	○						
27			ニセアカムネグモ	○						
28			クロナンキングモ	○						
29		チビアカサラグモ		○						
30		コテングヌカグモ			○					
31		セスジアカムネグモ	○		○					
-		サラグモ科	○							

表 11-11-23(2) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種	
				R2 調査	R3 調査		R6 調査		R7 調査		
				秋季	春季	夏季	夏季	秋季	春季		
32	クモ目	アシナガグモ科	チュウガタシロカネグモ	○	○	○	○	○	○		
33			コシロカネグモ		○						
-			<i>Leucauge</i> 属	○							
34			<i>Metleucauge</i> 属	○							
35			ジョロウグモ	○							
36			ヒメアシナガグモ		○						
37			トガリアシナガグモ	○					○		
38			ヤサガタアシナガグモ		○	○					
39			ヒカリアシナガグモ			○	○				
40			アシナガグモ		○	○	○		○		
41			ウロコアシナガグモ		○						
42			シコクアシナガグモ			○					
-			<i>Tetragnatha</i> 属	○	○		○				
43			コガネグモ科	コガネグモ科	ハツリグモ	○		○			
44		ヤエンオニグモ					○				
-		<i>Araneus</i> 属								○	
45		アオオニグモ			○	○					
46		オニグモ			○						○
47		<i>Araniella</i> 属			○						
48		コガネグモ				○	○				○
49		ナガコガネグモ			○		○	○	○		
-		<i>Argiope</i> 属			○						
50		ギンメッキゴミグモ			○						
51		ヤマゴミグモ			○						
52		ゴミグモ			○	○				○	○
53		シマゴミグモ			○						
54		ヨツデゴミグモ			○	○				○	
-		<i>Cyclosa</i> 属			○						
55		シロオビトリノフンダマシ					○				○
56		<i>Eriophora</i> 属			○						
57		トガリオニグモ			○						
58		コガネグモダマシ								○	
59		セキグチコガネグモダマシ			○						
-	<i>Larinia</i> 属	○									
60	ドヨウオニグモ	○			○	○	○	○	○		
61	ワキグロサツマノミダマシ	○									
62	イエオニグモ								○		
63	コゲチャオニグモ	○					○				
64	ヤマシロオニグモ	○		○	○		○				
65	サツマノミダマシ			○	○						
66	ツシマトリノフンダマシ			○				○			

表 11-11-23(3) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種	
				R2 調査	R3 調査		R6 調査		R7 調査		
				秋季	春季	夏季	夏季	秋季	春季		
67	クモ目	コモリグモ科	スジコモリグモ		○						
68			フジコモリグモ		○						
69			ハラクロコモリグモ	○	○	○					
70			ウヅキコモリグモ			○					
71			ハリゲコモリグモ		○	○			○		
72			カコウコモリグモ		○					○	
73			キクヅキコモリグモ	○	○	○			○		
-			<i>Pardosa</i> 属	○					○		
74			チビコモリグモ			○					
-			<i>Pirata</i> 属	○							
75			ヒノマルコモリグモ		○						
76			ナガズキンコモリグモ			○					
77			キシダグモ科	イオウイロハシリグモ	○						
78				スジブトハシリグモ						○	
-				<i>Dolomedes</i> 属	○						
-		キシダグモ科						○			
79		ササグモ科	ササグモ	○	○	○	○	○	○		
-			<i>Oxyopes</i> 属	○							
80		シボグモ科	シボグモ	○	○						
81		タナグモ科	クサグモ	○							
82			コクサグモ	○			○	○			
83		ナミハグモ科	カチドキナミハグモ	○							
-			<i>Cybaeus</i> 属	○							
84		ウシオグモ科	クロガケジグモ	○							
85		ハグモ科	<i>Dictyna</i> 属	○							
86		ガケジグモ科	ムサシヤチグモ		○						
-			<i>Coelotes</i> 属	○							
87		ウエムラグモ科	イタチグモ			○					
88		フクログモ科	アシナガコマチグモ		○				○		
89			ヤマトコマチグモ		○						
-			<i>Chiracanthium</i> 属	○							
90			マダラフクログモ	○					○		
91			ミチノクフクログモ	○							
-	<i>Clubiona</i> 属		○						○		
-	フクログモ科		○								
92	ネコグモ科	ネコグモ	○	○				○			
93	ワシグモ科	<i>Cladotela</i> 属	○								
94		トラフワシグモ		○							
95		メキリグモ		○	○						
96		ヒトオビトンビグモ	○					○			
97		クロチャケムリグモ	○								
-		ワシグモ科						○			
98	アシダカグモ科	アシダカグモ									
99		コアシダカグモ	○	○							
-		<i>Sinopoda</i> 属	○								

表 11-11-23(4) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						重要な種		
				R2	R3		R6		R7			
				調査	調査	調査	調査	調査	調査			
				秋季	春季	夏季	夏季	秋季	春季			
100	クモ目	エビグモ科	キハダエビグモ						○			
101			アサヒエビグモ						○			
-			<i>Philodromus</i> 属	○								
102			<i>Thanatus</i> 属	○								
103			シャコグモ	○						○		
104		カニグモ科	カニグモ科	キハダカニグモ						○		
-				<i>Bassaniana</i> 属	○							
105				コハナグモ		○	○					
-				<i>Diaea</i> 属	○							
106				クマダハナグモ		○						
107				ハナグモ	○	○	○	○	○	○	○	
-				<i>Ebrechtella</i> 属	○							
108				ワカバグモ		○						
109				シロスジグモ					○		○	
110				<i>Synaema</i> 属	○							
111				アズチグモ	○		○	○	○	○		
112				セマルトラフカニグモ		○						
-				<i>Tmarus</i> 属	○							
113				チュウカカニグモ		○	○					
-				<i>Xysticus</i> 属	○				○	○	○	
114		ハエトリグモ科	ハエトリグモ科	ネコハエトリ		○		○	○			
115				<i>Evarcha</i> 属	○							
116				ウデブトハエトリ			○					
117				ヨダンハエトリ	○						○	
118				オスクロハエトリ	○	○	○	○	○	○	○	
119				ヤハズハエトリ	○		○	○			○	
-				<i>Mendoza</i> 属	○							
120				ヤガタアリグモ	○							
121				アリグモ		○	○	○	○	○	○	
122				クワガタアリグモ			○	○				
-	<i>Myrmarachne</i> 属			○								
123	アシプトハエトリ			○						○		
124	デーニツハエトリ			○	○							
125	チャスジハエトリ							○				
126	ミスジハエトリ								○	○		
-	<i>Plexippus</i> 属	○										
127	イナヅマハエトリ							○				
128	ヒメカラスハエトリ			○	○	○						
129	カラスハエトリ	○	○									
130	キレワハエトリ			○								
-	ハエトリグモ科	○										
	1 目	29 科	130 種	86 種	43 種	37 種	23 種	20 種	31 種	6 種		

注 1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和 6 年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024)に準拠した。

注 2) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

(b) 重要なクモ類

現地調査で確認された種のうち、重要なクモ類はキノボリトタテグモ、オニグモ等の 6 種でした。

現地調査で確認された重要な昆虫類を表 11-11-24 に示します。

表 11-11-24 現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	クモ目	トタテグモ科	キノボリトタテグモ					NT	VU	NT
2		コガネグモ科	オニグモ							NT
3			コガネグモ						NT	NT
4			シロオビトリノフンダマシ						NT	
5			ツシマトリノフンダマシ						VU	
6		コモリグモ科	カコウコモリグモ						VU	
	1 目	3 科	6 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	5 種	3 種

- ① 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
 国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年4月1日静岡県条例第37号)
 指定：指定希少野生動植物種
- ④ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)
 指定：指定希少野生動植物種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑥ 「レッドリストあいち2025」(令和7年3月、愛知県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
- ⑦ 「静岡県レッドリスト2020」(令和2年3月、静岡県)
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
 N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種(静岡県独自の 카테고리)

(2) 予測

1) 予測の手法

① 予測手法

動物の重要な種について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、掘削工事、トンネルの実施、道路構造（地表式、嵩上式及び地下式）と重要な種の生息地の分布範囲から、生息環境が消失・縮小する区間及び重要な種の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握しました。なお、移動経路については移動性の高い中大型哺乳類、越冬等に伴う季節移動を行う両生類、爬虫類、渡り等を行う鳥類及び魚類を対象に検討しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事・トンネル工事の実施及び道路の存在による対象種の生態を踏まえた生息環境の質的变化（道路照明、水の濁り、地下水・河川流量の変化）の程度を把握しました。なお、道路照明による影響は夜行性の鳥や猛禽類及び走光性のある昆虫類を対象に、水の濁りによる影響は河川に生息する鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、底生動物及び陸産貝類を対象に、地下水の変化による影響は山地の沢や湿地に生息する魚類及び昆虫類を対象に検討しました。

次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的知見や類似事例を参考に予測しました。

予測手順を図 11-11-10 に示します。

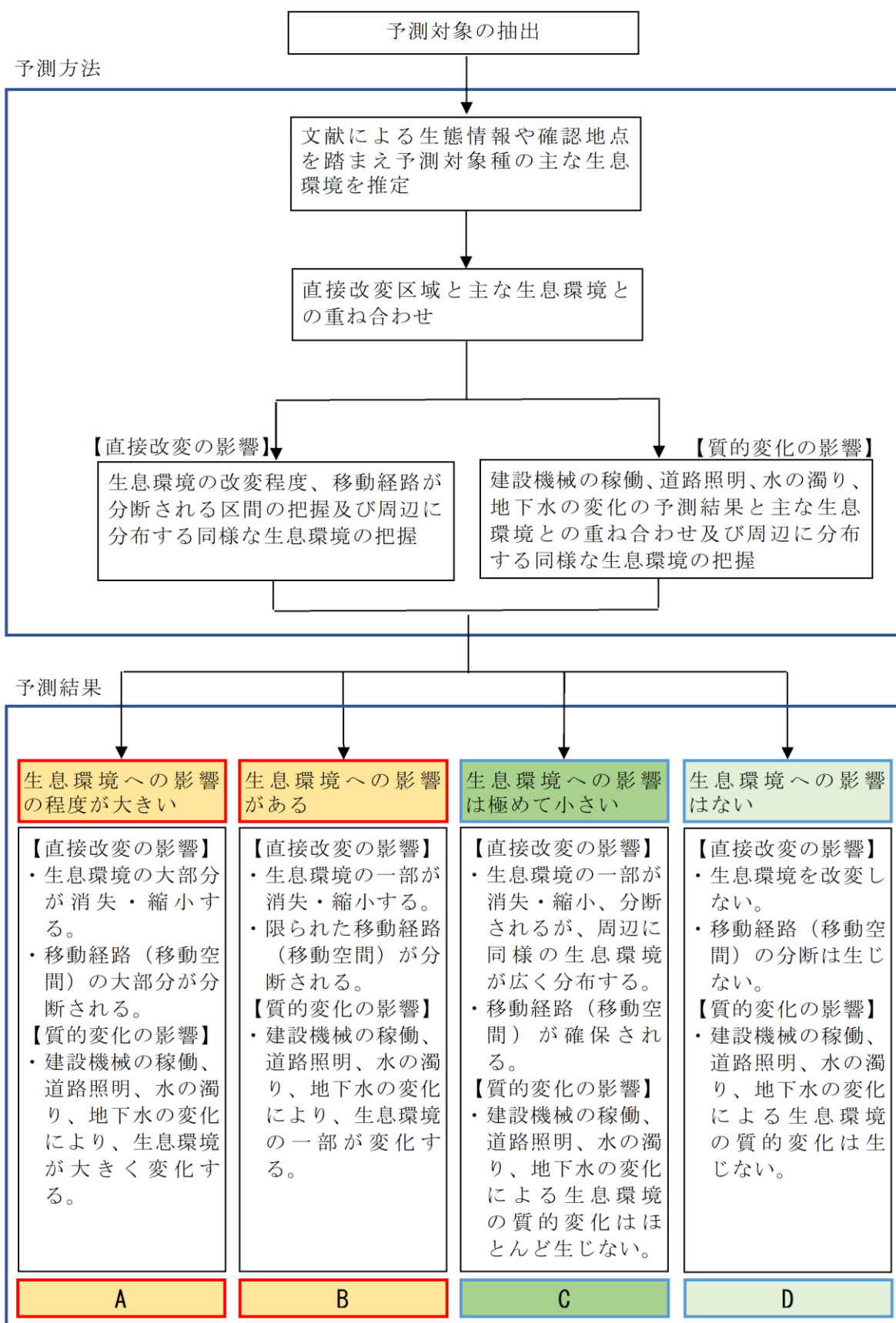


図 11-11-10 動物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、「直接改変区域：地表部が改変され直接的な影響を受ける地域」と、「事業実施区域周辺：工事作業または道路の存在による間接的な影響を受ける地域」として予測を行いました。

● 予測地域

直接改変区域：都市計画対象道路事業実施区域内の直接改変を受ける区域（供用後は法面や側道等を含む道路用地境界まで、工事中は施工ヤード等を含む）

事業実施区域周辺（直接改変区域外）：直接改変区域を除く調査範囲

注）都市計画対象道路事業実施区域については、p3-1～3-2を参照

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び動物の生態的特性を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期等としました。

具体的には、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施）等、現状の土地を改変する段階からの工事実施時期、並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種の選定

予測対象種は、現地調査により事業実施区域及びその周辺で生息が確認された重要な種を選定しました。

予測対象とした重要な種は表 11-11-25(1)～(9)に示すとおりで、哺乳類は8種、鳥類は30種、両生類は6種、爬虫類は7種、魚類は12種、底生動物は31種、昆虫類は14種、陸産貝類は8種、クモ類は6種です。なお、底生動物調査で確認された昆虫類(5種)については全て昆虫類の項目で予測しました。また、底生動物調査と陸産貝類調査で共に確認された3種(オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ、ナガオカモノアラガイ)について、2種(オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ)は底生動物の項目で予測し、1種(ナガオカモノアラガイ)は陸産貝類の項目で予測しました。

なお、表 11-11-25(1)～(9)の「確認種の生息基盤」については、図 11-11-11 動物の生息基盤図(p11-11-100)に示します。

表 11-11-25(1) 予測対象種（哺乳類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺
1	哺乳類	コキクガシラコウモリ	樹林環境		●
2		キクガシラコウモリ	樹林環境		●
3		モモジロコウモリ	樹林環境		●
4		ノウサギ	樹林環境		●
5		ニホンリス	樹林環境		●
6		カヤネズミ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
7		アナグマ	樹林環境		●
8		カモシカ	樹林環境		●

表 11-11-25(2) 予測対象種（鳥類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺
1	鳥類	オシドリ	水辺環境		●
2		トモエガモ	水辺環境		●
3		ミコアイサ	水辺環境		●
4		ゴイサギ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境	●	●
5		ササゴイ	水辺環境		●
6		チュウサギ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
7		ヒクイナ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
8		バン	水辺環境		●
9		ツツドリ	樹林環境		●
10		ケリ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境	●	●
11		イカルチドリ	水辺環境		●
12		ヤマシギ	樹林環境		●
13		タカブシギ	水辺環境		●
14		ミサゴ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
15		ハチクマ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
16		チュウヒ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
17		ハイイロチュウヒ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
18		ツミ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
19		ハイタカ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
20		オオタカ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境	●	●
21		サシバ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
22		クマタカ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
23		フクロウ	樹林環境、 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
24		ハヤブサ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
25		サンショウクイ	樹林環境		●
26		サンコウチョウ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
27		コシアカツバメ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
28		ノビタキ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
29		ビンズイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
30		ホオアカ	水辺環境		●

表 11-11-25(3) 予測対象種（両生類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺
1	両生類	アズマヒキガエル	樹林環境		●
2		ニホンアカガエル	樹林環境		●
3		ネバタゴガエル	樹林環境		●
4		トノサマガエル	耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●
5		ナゴヤダルマガエル	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
6		ツチガエル	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●

表 11-11-25(4) 予測対象種（爬虫類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺
1	爬虫類	ニホンイシガメ	水辺環境		●
2		クサガメ	水辺環境	●	●
3		ニホンスッポン	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
4		ニホンヤモリ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
5		ヒガシニホントカゲ	樹林環境、 耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
6		シロマダラ	樹林環境		●
7		ヤマカガシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境	●	●

表 11-11-25(5) 予測対象種（魚類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接改変区域	事業実施区域周辺
1	魚類	ニホンウナギ	水辺環境		●
2		カワムツ	水辺環境		●
3		タモロコ	水辺環境		●
4		ドジョウ	水辺環境		●
5		ミナミメダカ	水辺環境		●
6		ウツセミカジカ (淡水性両側回遊型)	水辺環境		●
7		イドミミズハゼ	水辺環境		●
-		イドミミズハゼ種群 ^{注1)}	水辺環境		●
8		トビハゼ	水辺環境		●
9		マサゴハゼ	水辺環境	●	●
10		カワヨシノボリ	水辺環境		●
11		ビリンゴ	水辺環境	●	●
12	エドハゼ	水辺環境		●	

注 1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしないこととした。(最左列が「-」の行が該当)

※イドミミズハゼ種群、イドミミズハゼは、環境省レッドリスト 2020：準絶滅危惧（イドミミズハゼとして）、絶滅危惧 I A 類 (CR)（イドミミズハゼ類の 1 種として）である。

表 11-11-25(6) 予測対象種（底生動物）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更区域	事業実施区域周辺
1	底生動物	マルタニシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
2		ウミニナ	水辺環境		●
3		イボウミニナ	水辺環境		●
4		タケノコカワニナ	水辺環境		●
5		フトヘナタリガイ	水辺環境	●	●
6		ヘナタリガイ	水辺環境		●
7		カワグチツボ	水辺環境		●
8		クリイロカワザンショウガイ	水辺環境		●
9		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	水辺環境		●
10		ヨシダカワザンショウガイ	水辺環境		●
11		エドガワミズゴマツボ	水辺環境		●
12		ヒガタヨコイトカケギリガイ	水辺環境		●
13		シゲヤスイトカケギリガイ	水辺環境		●
14		ヌカルミクチキレガイ	水辺環境		●
15		オカミミガイ	水辺環境		●
16		キヌカツギハマシイノミガイ	水辺環境		●
17		ヒラマキミズマイマイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
18		ヒラマキガイモドキ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
▽注2)		ナガオカモノアラガイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
19		ヌマガイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
-		カラスガイ族(ドブガイ類)注1)	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
20		ウネナシトマヤガイ	水辺環境		●
21		ヤマトシジミ	水辺環境		●
22		ハマグリ	水辺環境		●
23		ユウシオガイ	水辺環境		●
24		クチバガイ	水辺環境		●
25		ソトオリガイ	水辺環境		●
26		オヤイツオキナガイ	水辺環境		●
27		イトメ	水辺環境		●
28		ウモレベンケイガニ	水辺環境		●
29		クシテガニ	水辺環境		●
30	ベンケイガニ	水辺環境		●	
31	ハマガニ	水辺環境		●	
※注2)	エサキアメンボ	水辺環境		●	
※	コオイムシ	水辺環境		●	
※	ヒメタイコウチ	水辺環境		●	
※	オオマルケシゲンゴロウ	水辺環境		●	
※	コガムシ	水辺環境		●	

注1) カラスガイ族は、ヌマガイと同一種の可能性があるため種数にカウントしない。

※ カラスガイ族（ドブガイ類）について、近年の研究においてドブガイ類を外部形態により同定することは困難であることが報告されている。当該調査地区では DNA 分析による同定でヌマガイ（*Sinanodonta lauta*）が確認されている他、文献調査によりヤハズヌマガイ（*Buldowski shadini*）の生息も確認されている。調査地区で確認されたドブガイ類は、カラスガイ族（*Cristariini*）ドブガイ類として扱うこととした。なお、ドブガイ類のヌマガイ（ドブガイとして）はレッドリストあいち2025において DD に該当する。

注2) No. の「▽」は陸産貝類で、「※」は昆虫類で予測を実施する種

表 11-11-25(7) 予測対象種（昆虫類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺
1	昆虫類	マイコアカネ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
2		オオゴキブリ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
3		オオアメンボ	樹林環境		●
4		エサキアメンボ (底生動物調査のみで確認)	水辺環境		●
5		コオイムシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
6		ヒメタイコウチ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
7		ヒメジャノメ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
8		サトキマダラヒカゲ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
9		オオマルケシゲンゴロウ (底生動物調査のみで確認)	水辺環境		●
10		コガムシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境		●
11		ヘイケボタル	耕作地及び緑の多い住宅地環境 樹林環境		●
12		トゲアリ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
13		ヤマトアシナガバチ	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
14		モンズズメバチ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●

注) 昆虫類調査で確認された12種に、底生動物調査で確認された2種を加えた計14種を予測対象種とした。

表 11-11-25(8) 予測対象種（陸産貝類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺
▼ ^{注 1)}	陸産貝類	オカミミガイ	水辺環境		●
▼		キヌカツギハマシイノミ ガイ	水辺環境		●
1		ナガオカモノアラガイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
2		ヒラドマルナタネガイ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
3		ミカワギセル	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
4		イボイボナメクジ	樹林環境		●
5		ウメムラシタラガイ	樹林環境		●
6		オオウエキビ	樹林環境		●
7		ウラウズタカキビ	樹林環境		●
8	ヒメカサキビ	樹林環境		●	

注1) No. の「▼」は底生動物で予測を実施する種

表 11-11-25(9) 予測対象種（クモ類）

No.	分類群	種名	確認種の生息基盤	確認地点	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺
1	クモ類	キノボリトタテグモ	樹林環境		●
2		オニグモ	樹林環境		●
3		コガネグモ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
4		シロオビトリノフンダマ シ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●
5		ツシマトリノフンダマシ	樹林環境		●
6		カコウコモリグモ	樹林環境		●

2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は表 11-11-27(1)～(5)に示すとおりです。

生息環境への影響については、図 11-11-10 の手順により、以下のように整理しました。

- A：生息環境への影響の程度が大きい
- B：生息環境への影響がある
- C：生息環境への影響の程度は極めて小さい
- D：生息環境への影響がない

なお、生息基盤の消失の程度は、表 11-11-26 に示すとおりです。

動物の生息基盤図を図 11-11-11 に示します。

表 11-11-26 生息基盤の消失の程度

生息基盤の種類	現況		改変面積	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	改変率(%)
樹林環境	416.90	12.58	5.84	1.40
耕作地及び緑の多い住宅地環境	2325.14	70.16	53.38	2.30
水辺環境	112.11	3.38	1.47	1.31

注1) 表中の「現況の割合」は、調査範囲の全面積に対する各生息基盤の占める割合(%)を示しています。

注2) 表中の「改変率」は、各生息基盤における改変率(%)を示しています。

注3) 改変面積には、トンネル区間(地下部)を含んでいません。

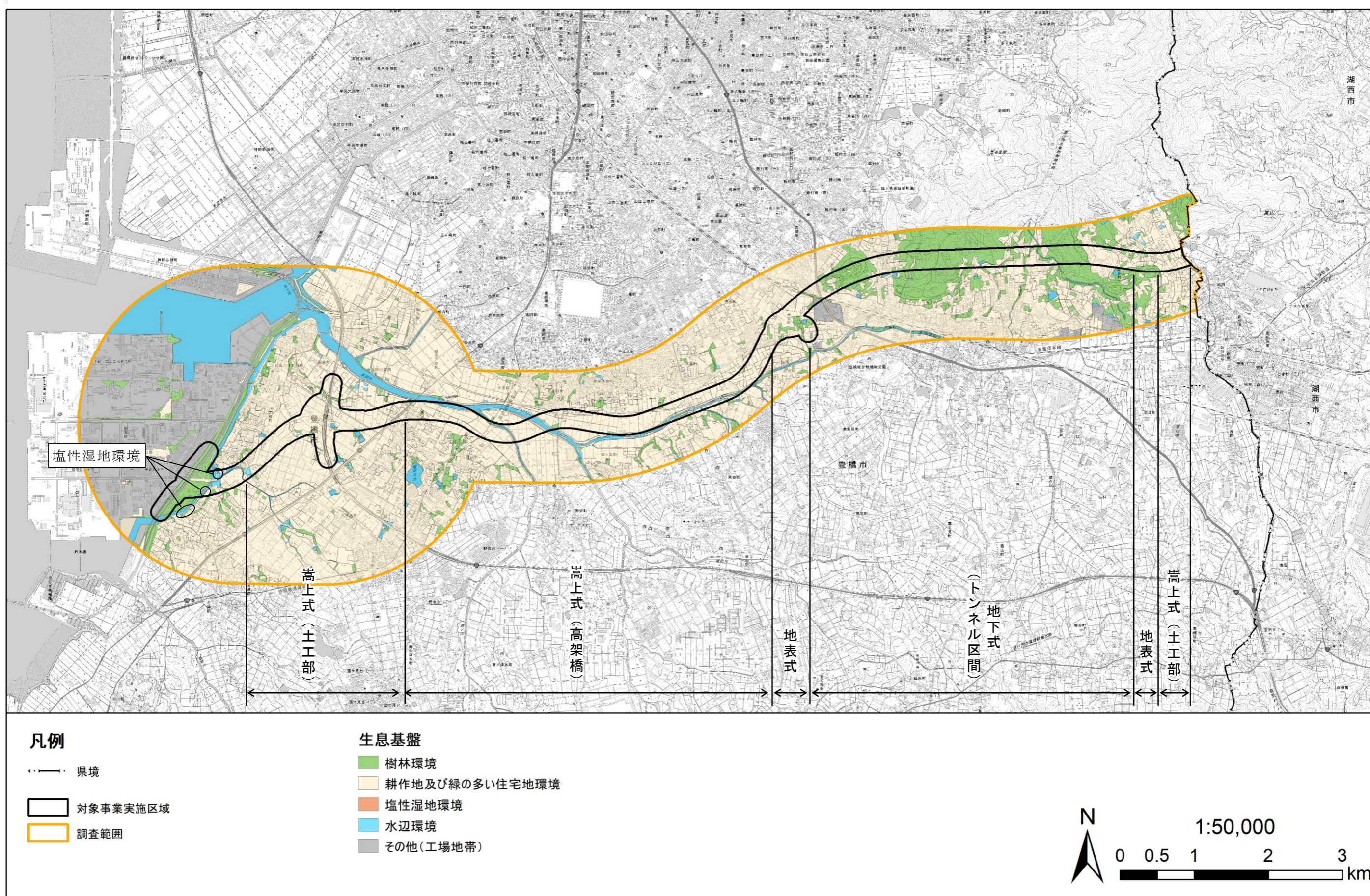


図 11-11-11 動物の生息基盤図

表 11-11-27(1) 動物の重要な種予測結果概要

No.	分類群	種名	主な 生息環境	確認地点		生息環境への 影響	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用
1	哺乳類	コキクガシラコウモリ	樹林環境		●	C	C
2		キクガシラコウモリ	樹林環境		●	C	C
3		モモジロコウモリ	樹林環境		●	C	C
4		ノウサギ	樹林環境		●	C	C
5		ニホンリス	樹林環境		●	C	C
6		カヤネズミ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
7		アナグマ	樹林環境		●	C	C
8		カモシカ	樹林環境		●	C	C
1	鳥類	オシドリ	水辺環境		●	C	C
2		トモエガモ	水辺環境		●	C	C
3		ミコアイサ	水辺環境		●	C	C
4		ゴイサギ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境	●	●	C	C
5		ササゴイ	水辺環境		●	C	C
6		チュウサギ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
7		ヒクイナ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
8		バン	水辺環境		●	C	C
9		ツツドリ	樹林環境		●	C	C
10		ケリ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境	●	●	C	C
11		イカルチドリ	水辺環境		●	C	C
12		ヤマシギ	樹林環境		●	C	C
13		タカブシギ	水辺環境		●	C	C
14		ミサゴ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
15		ハチクマ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
16		チュウヒ	耕作地及び緑の多 い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
17		ハイイロチュウヒ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C

表 11-11-27(2) 動物の重要な種予測結果概要

No.	分類群	種名	確認種の 生息環境	確認地点		生息環境への 影響		
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用	
18	鳥類	ツミ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
19		ハイタカ	樹林環境 耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
20		オオタカ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境 水辺環境	●	●	C	C	
21		サシバ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
22		クマタカ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
23		フクロウ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
24		ハヤブサ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
25		サンショウクイ	樹林環境 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
26		サンコウチョウ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
27		コシアカツバメ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
28		ノビタキ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
29		ビンズイ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
30		ホオアカ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
1		両生類	アズマヒキガエル	樹林環境		●	C	C
2			ニホンアカガエル	樹林環境		●	C	C
3	ネバタゴガエル		樹林環境		●	C	C	
4	トノサマガエル		耕作地及び緑の 多い住宅地環境	●	●	C	C	
5	ナゴヤダルマガエル		耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	
6	ツチガエル		耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C	

表 11-11-27(3) 動物の重要な種予測結果概要

No.	分類群	種名	確認種の 生息環境	確認地点		生息環境への 影響	
				直接変更 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用
1	爬虫類	ニホンイシガメ	水辺環境		●	C	C
2		クサガメ	水辺環境	●	●	C	C
3		ニホンスッポン	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
4		ニホンヤモリ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
5		ヒガシニホントカゲ	樹林環境、 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
6		シロマダラ	樹林環境		●	C	C
7		ヤマカガシ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境	●	●	C	C
1	魚類	ニホンウナギ	水辺環境		●	C	C
2		カワムツ	水辺環境		●	C	C
3		タモロコ	水辺環境		●	C	C
4		ドジョウ	水辺環境		●	C	C
5		ミナミメダカ	水辺環境		●	C	C
6		ウツセミカジカ (淡水性両側回遊型)	水辺環境		●	C	C
7		イドミミズハゼ	水辺環境		●	C	C
8		イドミミズハゼ種群	水辺環境		●	C	C
9		トビハゼ	水辺環境		●	C	C
10		マサゴハゼ	水辺環境	●	●	C	C
11		カワヨシノボリ	水辺環境		●	C	C
12		ビリンゴ	水辺環境	●	●	C	C
13		エドハゼ	水辺環境		●	C	C
1	底生 動物	マルタニシ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
2		ウミニナ	水辺環境		●	C	C
3		イボウミニナ	水辺環境		●	C	C
4		タケノコカワニナ	水辺環境		●	C	C
5		フトヘナタリガイ	水辺環境	●	●	C	C
6		ヘナタリガイ	水辺環境		●	C	C
7		カワグチツボ	水辺環境		●	C	C
8		クリイロカワザンショウガイ	水辺環境		●	C	C
9		ヒナタムシヤドリカワザンシ ョウガイ	水辺環境		●	C	C
10		ヨシダカワザンショウガイ	水辺環境		●	C	C
11		エドガワミズゴマツボ	水辺環境		●	C	C
12		ヒガタヨコイトカケギリガイ	水辺環境		●	C	C

表 11-11-27(4) 動物の重要な種予測結果概要

No.	分類群	種名	確認種の 生息環境	確認地点		生息環境への 影響		
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用	
13	底生 動物	シゲヤサイトカケギリガイ	水辺環境		●	C	C	
14		ヌカルミクチキレガイ	水辺環境		●	C	C	
15		オカミミガイ	水辺環境		●	C	C	
16		キヌカツギハマシノミガイ	水辺環境		●	C	C	
17		ヒラマキミズマイマイ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
18		ヒラマキガイモドキ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
19		ヌマガイ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
20		カラスガイ族(ドブガイ 類) ^{注1)}	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C	
21		ウネナシトマヤガイ	水辺環境		●	C	C	
22		ヤマトシジミ	水辺環境		●	C	C	
23		ハマグリ	水辺環境		●	C	C	
24		ユウシオガイ	水辺環境		●	C	C	
25		クチバガイ	水辺環境		●	C	C	
26		ソトオリガイ	水辺環境		●	C	C	
27		オヤイツオキナガイ	水辺環境		●	C	C	
28		イトメ	水辺環境		●	C	C	
29		ウモレベンケイガニ	水辺環境		●	C	C	
30		クシテガニ	水辺環境		●	C	C	
31		ベンケイガニ	水辺環境		●	C	C	
32		ハマガニ	水辺環境		●	C	C	
1		昆虫類	マイコアカネ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
2			オオゴキブリ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 樹林環境		●	C	C
3			オオアメンボ	樹林環境		●	C	C
4			エサキアメンボ (底生動物調査のみで確 認)	水辺環境		●	C	C
5			コオイムシ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C

注1) カラスガイ族(ドブガイ類)について、近年の研究においてドブガイ類を外部形態により同定することは困難であることが報告されている。当該調査地区では DNA 分析による同定でヌマガイ(*Sinanodonta lauta*)が確認されている他、文献調査によりヤハズヌマガイ(*Buldowski shadini*)の生息も確認されている。調査地区で確認されたドブガイ類は、カラスガイ族(*Cristariini*)ドブガイ類として扱うこととした。なお、ドブガイ類のヌマガイ(ドブガイとして)はレッドリストあいち2025においてDDに該当する。

表 11-11-27(5) 動物の重要な種予測結果概要

No.	分類群	種名	確認種の 生息環境	確認地点		生息環境への 影響	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用
6	昆虫類	ヒメタイコウチ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
7		ヒメジャノメ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
8		サトキマダラヒカゲ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
9		オオマルケシゲンゴロウ (底生動物調査のみで確認)	水辺環境		●	C	C
10		コガムシ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C	C
11		ヘイケボタル	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 樹林環境、 水辺環境		●	C	C
12		トゲアリ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
13		ヤマトアシナガバチ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 樹林環境		●	C	C
14		モンスズメバチ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
1		陸産 貝類	ナガオカモノアラガイ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 水辺環境		●	C
2	ヒラドマルナタネガイ		耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
3	ミカワギセル		耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
4	イボイボナメクジ		耕作地及び緑の 多い住宅地環境、 樹林環境		●	C	C
5	ウメムラシタラガイ		樹林環境		●	C	C
6	オオウエキビ		樹林環境		●	C	C
7	ウラウズタカキビ		樹林環境		●	C	C
8	ヒメカサキビ		樹林環境		●	C	C
1	クモ類	キノボリトタテグモ	樹林環境		●	C	C
2		オニグモ	樹林環境		●	C	C
3		コガネグモ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
4		シロオビトリノフンダマシ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●	C	C
5		ツシマトリノフンダマシ	樹林環境		●	C	C
6		カコウコモリグモ	水辺環境		●	C	C

② 予測結果

(a) 哺乳類

予測地域に生息すると考えられる重要な哺乳類の予測結果は、表 11-11-28(1)～(8)に示すとおりです。

表 11-11-28(1) 重要な哺乳類の予測結果（コキクガシラコウモリ）

項目	内容	
生態	頭胴長 35～50mm、尾長 16～26mm、体重 4.5～9g ¹⁾ 。 昼間は洞穴で休息し、数頭から数十頭の群をつくる。冬期には定まった冬眠洞で群を形成して冬眠する。日没後に出洞して採餌し、夜明け前に戻る。食物は小型の飛翔性昆虫で、森林やその周辺、河畔などで採餌する。森林では樹幹の間や樹冠部で採餌する。仔は生後 25～35 日で飛翔可能になり、生後 16 ヶ月で性成熟に達する。雌は初夏に特定の洞穴で 1 仔を産む。寿命は 6 年以上。 ²⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季、R4 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-28 (2) 重要な哺乳類の予測結果 (キクガシラコウモリ)

項目	内容	
生態	<p>頭胴長 53～82mm、尾長 28～45mm、体重 17～35g¹⁾。 昼間は海食洞、洞穴、トンネル、家屋などに数頭（時に 1 頭）から数百頭の群で休息する。冬期には冬眠洞の天井から懸垂して冬眠する。夜間に単独で飛翔しながら主として昆虫を捕食する。採餌場所は、森林や森林に隣接した小丘陵、河川、草原、平地など。採餌活動は夕暮れと夜明けで、真夜中に特定の休息場所で休息する。交尾は秋におこなわれるが、精子は雌の生殖道内に貯蔵され冬眠から覚めてから受精する。雌は特定の出産洞で出産集団を形成して初夏に 1 仔を生む（子安・織田, 2009 など）。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 11 箇所 31 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季、R3 春季、R3 夏季、R4 春季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11 箇所 31 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小はするが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小はするが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-28 (3) 重要な哺乳類の予測結果 (モモジロコウモリ)

項目	内容						
生態	<p>体重 5.5～11.0g、頭胴長 44～63mm、前腕長 34～41mm、尾長 32～45mm、脛骨長 15.2～17.0mm、後足長 (爪を含む) 10.0～11.8mm、耳介長 14.0～16.8mm、耳珠長 4.5～6.0mm、頭骨最大長 14.2～15.6mm。中型のコウモリで後足が長く、脛骨の半分以上の長さになる。背面の毛色は黒褐色で肛門から足にかけて白い毛がある。耳介と耳珠は細長く、頭骨は比較的細長い。歯式は I2/3, C1/1, P3/3, M3/3=38、脊柱式は C7+T10+L5～6+S5+Cd8～9=35～37 (宮尾, 1974)。</p> <p>昼間は洞穴で休息し、数頭から数十頭の群をつくる。冬期には定まった冬眠洞で群を形成して冬眠する。日没後に出洞して採餌し、夜明け前に戻る。食物は小型の飛翔性昆虫で、森林やその周辺、河畔などで採餌する。森林では樹幹の間や樹冠部で採餌していると考えられる。仔は生後 25～35 日で飛翔可能になり、生後 16 ヶ月で性成熟に達する。雌は初夏に特定の洞穴で 1 仔を産む。寿命は 6 年以上¹⁾。</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="467 804 619 837">確認状況</td> <td data-bbox="619 804 1410 837">樹林環境において 1 箇所 4 個体が確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 837 619 871">確認時期</td> <td data-bbox="619 837 1410 871">R4 春季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 871 619 949">確認位置</td> <td data-bbox="619 871 1410 949">直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 4 個体</td> </tr> </table>	確認状況	樹林環境において 1 箇所 4 個体が確認された。	確認時期	R4 春季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 4 個体
	確認状況	樹林環境において 1 箇所 4 個体が確認された。					
	確認時期	R4 春季					
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 4 個体						
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。						
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-28 (4) 重要な哺乳類の予測結果 (ノウサギ)

項目	内容	
生態	<p>体重 1,300～2,500g、頭胴長 430～540mm、尾長 20～50mm、後足長 130～150mm、耳介長 60～80mm、頭骨最大長 79.3～92.5mm。北海道に生息するユキウサギよりも小型。腹面が白色である以外ほぼ全身が茶褐色であるが、耳の先端は黒い。本州の東北部や日本海側の積雪地帯および佐渡のものは、冬になると耳の先端が黒いのを除き全身白色になる。県内のノウサギは冬季に白化しない。</p> <p>平野部から山地にかけての森林・平原・河川敷などに生息し、夏は緑草、冬は樹皮や枝先も食べる。主に夜行性で巣穴は掘らず、春から夏まで 3～5 回出産する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において 3 箇所 3 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 冬季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：3 箇所 3 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林環境のほとんどはトンネル構造で通過することから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-28 (5) 重要な哺乳類の予測結果（ニホンリス）

項目	内容	
生態	<p>体重 250～310g、頭胴長 160～220mm、尾長 130～170mm、後足長 48～58mm、耳介長 22～31mm、頭骨最大長 46.3～55.5mm。エゾリスよりもやや小型。背面は夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色で、腹面は純白。尾の先が白く、冬毛では耳の先にふさ毛が生じる。平野部から山地にかけての森林がニホンリスの生息地であり、ドングリ、クルミ、マツなどの種子をよく食べるが、花、芽、果実、キノコ類、昆虫なども食べる。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において 1箇所 1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所 1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林環境のほとんどはトンネル構造で通過することから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-28 (6) 重要な哺乳類の予測結果 (カヤネズミ)

項目	内容	
生態	<p>体重 5.3～14.0g、頭胴長 54.0～78.5mm、尾長 47～91mm、後足長 14～17mm、耳介長 7～12mm、頭骨最大長 13.7～16.9mm。体は非常に小さく、背面の毛色は赤褐色から暗褐色まで変異がある。腹面は白色。尾は長く、先端部の上面は裸出する。頭蓋では吻の短いのが特徴的であり、卵形で大きな脳頭蓋に幅の狭い頬骨弓をもつ。鼓室胞は大型で、切歯孔の後縁は第 1 大臼歯の前縁付近かその前方にある。</p> <p>低地から標高 1,200m 付近までの山地に分布するが、低地の草地に多く、森林内にはみられない。春から秋にかけてイネ科草本やススキのような草本の茎の途中に植物の葉を細切したものを編み上げた球巣をつくり、産仔や育仔を球巣中でおこなう。1 回に 2～8 仔を産む。冬期は地下の坑道にすむ。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において 39 箇所 45 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：39 箇所 45 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられ、現地調査においてはこれに隣接する水辺環境でも記録されたと考えられる。	
工事施工ヤード及び工用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-28 (7) 重要な哺乳類の予測結果 (アナグマ)

項目	内容						
生態	<p>頭胴長 440～680mm、尾長 116～180mm、後足長 57～91mm、耳介長 38～47mm、頭骨最大長 109.3～113.0mm。頑丈な体に太く短い四肢を持ち、手の爪は特に強大。耳介は小さく円盤状の鼻鏡をもつ。尾は短い。頭蓋では吻が比較的短く、鼓室胞が小さい。上顎の第 4 小臼歯は発達が悪く、他のイタチ科のように「裂肉歯」としての機能を果たしていない。上顎第 1 大臼歯は四角形をしている。</p> <p>低山帯の森林や低木林に巣穴のトンネルを掘って生活している。巣穴には血縁の家族群ですみ、ミミズ類、昆虫類、両生類、果実類などを食べる。繁殖期は春で、1 回に 1～4 仔を産む。完全な「冬眠」はしないが、厳冬期には穴の中にこもってなかなか外にでないことがある。秋には越冬にそなえて採餌活動の量が増える。¹⁾</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="467 701 619 734">確認状況</td> <td data-bbox="619 701 1410 734">樹林環境において 1 箇所 1 個体が確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 734 619 768">確認時期</td> <td data-bbox="619 734 1410 768">R3 夏季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 768 619 846">確認位置</td> <td data-bbox="619 768 1410 846">直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体</td> </tr> </table>	確認状況	樹林環境において 1 箇所 1 個体が確認された。	確認時期	R3 夏季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
	確認状況	樹林環境において 1 箇所 1 個体が確認された。					
	確認時期	R3 夏季					
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体						
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。						
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小はするが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小はするが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林環境のほとんどはトンネル構造で通過することから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-28 (8) 重要な哺乳類の予測結果 (カモシカ)

項目	内容	
生態	雌雄同型で、ともに 15cm 程度の 2 本の洞角を有する。肩高は約 75cm、体重約 40kg。 主にブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。各種木本類の枝、葉、草本類などを食べる草食性であり、ニホンジカと共通するものも多い。基本的には一夫一婦制で、1 産 1 仔。数 ha～100ha 程度のなわばりを形成する。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林環境のほとんどはトンネル構造で通過することから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「京都府レッドデータブック2015」(京都府環境部自然環境保全課、平成27年7月)

(b) 鳥類

予測地域に生息すると考えられる重要な鳥類の予測結果は、表 11-11-29(1)～(30)に示すとおりです。

表 11-11-29(1) 重要な鳥類の予測結果（オシドリ）

項目	内容	
生態	<p>全長 45cm。繁殖羽の雄は嘴が赤く頭と頬から頸および三列風切は栗色、脇は黄褐色で眉斑は太く長い白色。胸と背および体の後部は紫色に白線がある。</p> <p>大木の樹洞や橋のトラスなどに営巣し、ヒナは孵化するとすぐに地上に飛び降りる。冬期は比較的広い河川や池沼で越冬し、時には海上で見られることもある。開けた水面に出ることも多いが、水面に張り出した樹木の下で生活することを好む。主に植物食で水草などを食べるが、ドングリも好んで食べる。水辺から離れた尾根で採餌することもあれば、潜水して水底の餌を採ることもある。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1箇所 6個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所 6個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(2) 重要な鳥類の予測結果（トモエガモ）

項目	内容	
生態	<p>全長 40cm の小型のカモ。雄は顔に黄白色と光沢のある緑色からなる巴型の模様があり、側胸に白い縦線がある。肩羽は細長く伸び、脇にまで達する。雌は、全身が灰褐色で嘴基部に丸い斑があり、喉から頬にかけて白色部がある。</p> <p>主に大きな河川の下流部や池沼に生息するが、少数が山間部の河川でオシドリの群れに混じることもある。主に植物食でドングリや草の種子を好むが、水棲の小動物なども食べる。飛来数が多い年は大規模な群れになる傾向があるが、大規模な越冬群の渡来地は局所的である。警戒心が強く捕食者や人による攪乱の影響を受けやすいことから、同一シーズンの中でも個体数は安定していない。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R6 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(3) 重要な鳥類の予測結果（ミコアイサ）

項目	内容	
生態	全長約 42cm。オス成鳥は背が黒いほかはほぼ全身が白く、黒い線条が幾本か走る。嘴の基部から目を囲む大きな黒斑はパンダに似た趣きを持つ。メスは頭部の栗色と前頸の白が目立つが、その他の部分は灰褐色をしている。渡来直後のオスのエクリップス個体はメスと同じ羽色をしているが、次第に換羽していく。メスに求愛する時のオスは前頭部の羽毛を立てる。カモの仲間では珍しく、水中にもぐって小魚などを捕食するアイサの仲間属する。冬鳥として少数が渡来する。冬鳥(対象:越冬地)。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1箇所 18 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所 18 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 以上より、工事中でも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(4) 重要な鳥類の予測結果（ゴイサギ）

項目	内容	
生態	全長約 57cm。成鳥は頭から後頸及び背は濃紺色。他の部分は白か薄い灰色。後頭から 12~20cm の白く細長い飾り羽がふつう 1~2 本伸びている。虹彩は赤い。雌雄同色。幼鳥は上面が褐色で白またはバフ色の斑が密にある。下面はバフ色に褐色の縦斑がある。主に夜行性であるが、育雛期には昼間も採餌をする。魚類、甲殻類、両生類、昆虫類などを餌にする。夜間に「コァッ」と聞こえる声でよく鳴くので「夜ガラス」という方言名がある。主に夏鳥として渡来するが留鳥として越冬するものもいる。留鳥・夏鳥(対象:繁殖地)。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 6 箇所 7 個体、水辺環境において 1 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏季
	確認位置	直接改変区域：1 箇所 2 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 箇所 7 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(5) 重要な鳥類の予測結果（ササゴイ）

項目	内容	
生態	<p>全長約 52cm。雌雄同色。頭部は黒く同色の冠羽が後頸まで伸びている。翼を含めて体のほぼ全体が青灰色をしており、雨覆羽から風切羽が細かい白線で縁どられており、笹の葉模様に見えるのが特徴である。虹彩は黄色。採餌は昼間も夜間も行ない、特に夜間には採餌場への往來の飛翔中に「ピョウ」あるいは「キュウ」とよく聞こえる声を一声発する。コロニー以外では群れを作らず、単独で採餌することが多い。主な採餌場は河川で、小魚を主要な餌とするほかカエルなどの両生類や水生昆虫なども餌とする。習性や外見が類似するゴイサギよりやや小さい。成鳥では、ゴイサギは喉から腹が白く、冠羽も白、虹彩が赤いなどの点で区別できる。夏鳥(対象:繁殖地)。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 1 箇所 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(6) 重要な鳥類の予測結果（チュウサギ）

項目	内容	
生態	全長は約 56～72cm。日本では基亜種 <i>E.i.intermedia</i> がおもに本州以南に夏鳥として生息し、冬には南方に渡る。水辺の草むらや水田でおもに昆虫類、そのほか両生・肥虫類、魚類なども食べる。4～8月に樹上に巣を造り、コロニーで繁殖する。かつてはシラサギ類コロニーでは優占種であったが、1970年代以降は全国的に減少した。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 12箇所 28個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：12箇所 28個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「環境省レッドデータブック2014 2鳥類」(環境省、平成26年9月)

表 11-11-29(7) 重要な鳥類の予測結果（ヒクイナ）

項目	内容	
生態	<p>全長 21～23cm、翼開長 37cm。成鳥は、頭部から腹にかけて赤褐色、上面は一様な暗緑褐色で、下尾筒は黒色地に白色の横斑がある。嘴は黒く脚と目は赤色。幼鳥は、全体的に羽色が淡く、喉から腹にかけては白っぽい。</p> <p>沿岸部から山地までの水田や水路、河川や池沼などで周囲にヨシ原のある湿地に生息する。繁殖期は 4 月から 10 月頃で、イネ科の株の中などに営巣する。水生昆虫や軟体動物、水生植物の若葉などを採食する。繁殖期にはキョツ、キョツ、キョツ、キョ、キョ、キョ、キョ…と次第にテンボが速くなる声で鳴く。夜明けや雨上がりに鳴くことが多いが、繁殖前期は昼夜を問わず鳴く。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 6 箇所 8 個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 箇所 8 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(8) 重要な鳥類の予測結果（バン）

項目	内容	
生態	<p>全長 32cm。雌雄同色で頭から下面は青紫味を帯びた黒色、上面は緑色を帯びた褐色で嘴の先は黄色。嘴の基部と額は赤色で、脇の上部および下尾筒に白色部がある。脚は黄色で指が長く、脚の基部には赤色部がある。冬羽は額の赤色部分が小さく、鮮明でない。ヒナの産毛は黒色で、頭の皮膚と嘴の半分が赤い。若鳥は嘴全体が橙色味を帯びて、嘴や額に赤色部がなく、体は褐色味を帯びる。</p> <p>主に平地や沿岸部、丘陵地の池沼、水路、河川のヨシ原や水田などに生息して繁殖する。ヨシやガマなどの水草に、茎や葉などを絡めて巣を作る。食性は昆虫や小魚、両生類などの他に、水草などの植物も食べる雑食である。長い足指を使って水草の上を歩いたり、水面を泳いで移動する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 1 箇所 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(9) 重要な鳥類の予測結果（ツツドリ）

項目	内容	
生態	全長 32cm。夏期に九州以北に飛来して繁殖する。4月中下旬に飛来して8月から10月にかけて飛去する。繁殖期に生息記録があるのは、主に三河山地の頂上付近から山麓近くまでの範囲である。主にセンダイムシクイに託卵して繁殖しており、雄は竹筒を叩くような低い声でポポッ、ポポッ、ポポッと鳴き、雌は早口でピィピィピィ・・・と鳴く。カッコウの仲間でも大きさもカッコウに似るが、カッコウより少し小さく色が濃い。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において1箇所1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所1個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(10) 重要な鳥類の予測結果(ケリ)

項目	内容	
生態	全長約 36cm。黄色く長い脚が特徴的なチドリ類。目は赤く、黄色のアイリングがある。国内では、全国的に観察され、九州以北から本州にかけて繁殖するが局地的。繁殖期は3月から6月。耕作地、休耕地、放棄水田、河川敷、草地を利用して繁殖する。繁殖地として耕作地をよく利用するため、耕作方法や耕作時期の変化などにより、繁殖に影響を受けている可能性がある。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において 31 箇所 92 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 冬季、R3 春季、R3 初夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：2 箇所 9 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：29 箇所 83 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「環境省レッドデータブック2014 2鳥類」(環境省、平成26年9月)

表 11-11-29(11) 重要な鳥類の予測結果（イカルチドリ）

項目	内容						
生態	<p>全長 19～21cm、翼開長 45cm。頭頂と上面、雨覆は灰褐色で、下面は白く胸に黒帯がある。眼先から頬にかけては黒褐色で、眼の回りは細くて黄色の縁取りがある。嘴は、小型のチドリ類としては細くて長めで、脚は淡黄色。飛翔時は、内側の初列風切基部から次列風切にかけて細い白帯が出る。静止時は、尾羽が初列風切の先端から突出する。冬羽や幼羽は、眼先から頬にかけての黒褐色が淡く、頭頂とのコントラストが不明瞭。</p> <p>繁殖期は主に河川中下流域の河原や中洲、および丘陵地の池畔などの砂礫地に生息する。砂礫地やまばらに草の生えた地上に浅いくぼみを作り、小石や枯草などを敷いて営巣する。非繁殖期は、河川中下流域、沿岸部や平野部の水路、丘陵地の調整池畔、水の抜かれた池沼などに、単独または小群で生息する。餌は主に動物質で昆虫類を多く捕食し、ピュイ、ピュイと鳴く。¹⁾</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="467 770 619 808">確認状況</td> <td data-bbox="619 770 1410 808">水辺環境において 4 箇所 14 個体が確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 808 619 846">確認時期</td> <td data-bbox="619 808 1410 846">R2 秋季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 846 619 913">確認位置</td> <td data-bbox="619 846 1410 913">直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 14 個体</td> </tr> </table>	確認状況	水辺環境において 4 箇所 14 個体が確認された。	確認時期	R2 秋季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 14 個体
	確認状況	水辺環境において 4 箇所 14 個体が確認された。					
	確認時期	R2 秋季					
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 14 個体						
<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境における干潟等と考えられる。</p>							
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境における干潟等は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中でも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境における干潟等は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(12) 重要な鳥類の予測結果（ヤマシギ）

項目	内容	
生態	<p>全長 33～35cm、翼開長 56～60cm。額は灰色で後頭に太い黒褐色の横帯が 4 本あり、背面は赤褐色に黒色や灰白色の複雑な斑がある。下面は淡灰褐色で黒褐色の横斑がある。尾羽は黒褐色で赤褐色の横斑があり、先端部は灰色。雄は、雌に比べて尾羽が長く嘴が短い。</p> <p>山地から丘陵地、平野部、沿岸部までの開けた場所にある農耕地や緑地で、周辺に繁った林などのある環境を好む。樹木や繁みの多い公園や河川敷、工業地帯のグリーンベルトなどにも生息するが生息密度は低い。通常単独でいることが多いが、環境の良い場所では数羽が生息することもある。夕方から夜間に餌場へ飛来し、主にミミズなどの小動物を好んで捕食する。チキッ、チキッ、あるいはブーブー、などと飛びながら鳴く。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(13) 重要な鳥類の予測結果（タカブシギ）

項目	内容	
生態	<p>全長 19～21cm、翼開長 56～57cm。頭部および上面が暗褐色で白斑が散在する。眉斑は白く明瞭で眼の後方まで伸びる。夏羽は、顔、頸から胸側にかけての縦斑が明瞭だが、冬羽と幼羽では目立たない。脚は黄色く長い。飛翔時に腰と尾が白く見える。</p> <p>主に4月中旬から5月中旬、7月下旬から10月に、県内の平野部にある水田や水路、池沼などの淡水湿地に飛来するが、特に沿岸部の干拓地で数が多い。1～10数羽の小群で生息することが多く、生息数の多い頃はあちらこちらの水田でこうした群れが普通に見られたとされる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において1箇所1個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所1個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(14) 重要な鳥類の予測結果（ミサゴ）

項目	内容	
生態	<p>雄は全長 56～60cm、雌は全長 57.5～61.5cm。背と翼上面が暗褐色、頭部から腹にかけての下面は白色で、目先から頸側を経て後頸にいたる太くて暗褐色の帯がある。胸に黒色と暗褐色の縦斑からなる帯があることが多い。雄は雌に比べて胸の帯が淡く、幼羽は雨覆の羽縁が明瞭。他のタカ類に比べて翼が長く、飛翔時は尾が短く見える。</p> <p>県内で最もよく見られるのは干潟や河川の下流から河口、沿岸部にある池沼や水路で、こうした場所の獲物は主にボラである。内陸の河川やため池、ダム湖などでよく見られるようになった時期と、移入種のブラックバス釣りが盛んになった時期とは概ね一致している。水面の上空を飛び、停空飛翔の後に急降下して水中に飛び込み魚を獲る。営巣は主に水辺近くの樹木や崖、送電線の鉄塔などで、県外では海岸や島嶼で繁殖する例も多い。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 31 例が確認された。
	確認時期	R2 冬季、R3 初夏、R4 早春季、R4 春季、R4 初夏、R5 早春季、R5 初夏、R6 早春季、R6 初夏、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 早春季、R7 夏季
	確認位置	<p>[営巣地]</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺（直接改変区域外）：—</p> <p>営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(15) 重要な鳥類の予測結果（ハチクマ）

項目	内容	
生態	<p>全長は57～60.5cm、翼開長121～135cm。翼は長くて幅広い。羽色は淡色から暗色までバリエーションがあり、さらに雌雄や年齢で異なる。雄成鳥は尾の黒線が太く、眼の色は暗色。雌成鳥の眼は黄色で、幼鳥の場合は暗褐色であることが多い。幼鳥は、飛翔時に初列風切の先端部が広く黒色に、次列風切が暗色に見える。</p> <p>繁殖期に平地近くから標高1,000mの山地までの環境に生息し、丘陵地や山地で繁殖する。繁殖期の行動範囲は時に巣から30kmと他のタカ類の10倍を大きく超え、営巣地近くへの侵入者を排除する行動も少ない。アカマツやナラ類などの樹上に営巣し、育雛期の餌のほぼ全てがハチ類の幼虫や蛹で、ハチ類の少ない繁殖前期はカエルやカナヘビ、ヘビなどを捕食する。春の内陸では4月中旬から、秋の伊良湖では11月上旬頃まで観察されることもあるが、通常は5月上旬から10月上旬まで県内に生息する夏鳥である。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年～令和7年の鳥類（猛禽類）調査では、合計327例が確認され、1つがいの繁殖（令和2～6年繁殖成功）が確認された。 つがいの営巣地から直接改変区域までの距離は、1.5kmとなっている。
	確認時期	R2 春季、R2 初夏、R2 夏季、R3 初夏、R3 夏季、R4 春季、R4 初夏、R4 夏季、R5 春季、R5 初夏、R5 夏季、R6 春季、R6 夏季、R7 初夏、R7 夏季
	確認位置	<p>[営巣地]</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺（直接改変区域外）：—</p> <p>営巣地から直接改変区域までの距離：約1.5km</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ペアの高利用域・営巣中心域の大規模な改変はなく、ペアの営巣地と対象道路は十分な距離が確保されていることから、工事の実施に伴う繁殖活動に係る営巣地周辺の環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ペアの高利用域・営巣中心域の道路の通過はなく、ペアの営巣地と対象道路は十分な距離が確保されていることから、繁殖活動への影響は生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(16) 重要な鳥類の予測結果（チュウヒ）

項目	内容	
生態	<p>全長 48～58cm、翼開長 113～137cm の中型のタカ。体色は褐色系が基調だが、全身がほぼ暗褐色のものや頭部から胸にかけてクリーム色のものなど、個体差が大きい。中央尾羽の上面が灰色の個体は雄である。雄は体がやや小さく細身であり、雌は大きめで体や翼が太くみえる場合が多い。飛翔形は、翼を V 字型に保ち低空をゆっくり滑翔することが多い。主にネズミ類や鳥類、魚類、両生類、爬虫類などを捕食する。営巣は湿潤なヨシ原の地上で行われ、ヨシを積み重ねて巣を作る。冬期はヨシ原でゆるやかな集団ねぐらを形成し、広いヨシ原の中に点々と散って夜を過ごす、多い時には 1 箇所 of ヨシ原で数十羽が生息するねぐらもある。¹⁾</p> <p>沿岸部のヨシ原を中心に周辺の農耕地や湿地、河川敷の草地などを含む広い行動圏を持ち、北海道で行われた調査では繁殖期における行動圏は、MCP 法を用いると 5,884ha、固定カーネル法を用いると 1,041ha であった。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 1 例が確認された。
	確認時期	R4 早春季
	確認位置	[営巣地] 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「チュウヒ保護の進め方」(環境省 自然環境局 野生生物課、平成28年6月)

表 11-11-29(17) 重要な鳥類の予測結果（ハイイロチュウヒ）

項目	内容	
生態	<p>全長は雄が 43～47cm、雌が 48.5～53.5cm、翼開長は 98.5～123.5cm の雌雄二型。雄は、上面全体と顔から胸および尾羽が淡灰色で、腹が白く外側初列風切が黒い。雌は、上面が全体的に暗灰褐色で、下面は淡褐色または赤褐色で前頸から腹にかけて暗褐色の縦斑があり、風切と尾は灰褐色で太くて明瞭な横斑があり、腰が白い。雄、雌ともに目と脚が黄色。幼鳥は雌に似るが、目の色が暗褐色。</p> <p>沿岸部のヨシ原や干拓地の農地だけでなく、標高 1,000m 以上の山地から山麓の里山まで、チュウヒという名のイメージからは意外な環境にも飛来して狩りを行う。渡りの季節に標高 1,300m の山頂で獲物を探している姿や、冬期に県内にある里山の農地で獲物を探し、林の中へ飛び込んで小鳥を捕らえる姿が観察された例がある。獲物は主にネズミなどの小型哺乳類や、小型の鳥類である。夕方チュウヒと共にねぐらに集合し、同じヨシ原や草叢に散在して夜を過ごす。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 1 例が確認された。
	確認時期	R6 早春季
	確認位置	<p>[営巣地]</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接改変区域外)：—</p> <p>営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(18) 重要な鳥類の予測結果（ツミ）

項目	内容	
生態	<p>全長は雄が25～27.5cm、雌が28.5～31.5cm、翼開長51.5～62cmの雌雄二型。雄は頭部から背と翼上面にかけて暗青灰色、下面は白く胸から脇にかけて淡橙色で、目は暗紅色。雌は上面に暗褐色味を帯び、下面は白く胸から脇、脛にかけて暗褐色の細かい横斑があり、目は黄色く細かい眉斑がある。幼鳥は雌に似るが、胸に縦斑があり脇の横斑は太くて粗い。飛翔時は、他のタカ類に比べて頭が大きめで翼が短かめに見える。</p> <p>丘陵地や山間部の混交林や、平野部の都市公園等に生息して繁殖する。主に小型の鳥類を捕食して、アカマツやヒノキなどで営巣することが多い。都市部での獲物は、スズメなど小鳥の巣立ちビナと思われる。県内では一年を通じて記録があるが、越冬期はその大半が南へ渡るものと思われる。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和7年の鳥類（猛禽類）調査では、合計6例が確認された。
	確認時期	【猛禽類調査】 R2 夏季、R3 早春季、R5 夏季
	確認位置	[営巣地] 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(19) 重要な鳥類の予測結果（ハイタカ）

項目	内容
生態	<p>オオタカと近縁でやや小型のタカである。全長オス約 30cm、メス約 37cm である。翼開長オス 60.5~64cm、メス 71.5~79cm。成鳥は頭部から背面、尾上面が灰色、下面は白っぽく胸から腹にかけてオスはオレンジ色、メスは褐色の横縞がある。幼鳥はメス成鳥に似るが褐色味が強い。営巣地は標高のやや高い山地の林で、中型のタカよりもやや密な林を利用する。採餌には林縁や開放的な環境も利用している。冬期に観察されるものは、茶畑、果樹園やその周囲の林、時には水田や市街地上空などで小鳥を狩る。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 47 例が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R2 冬季、R3 早春季、R4 早春季、R5 早春季、R6 早春季、R7 早春季</p>
	<p>確認位置 [営巣地] 直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし</p>
生息環境の 分布状況	<p>調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。</p>
建設機械の稼働、 工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(20) 重要な鳥類の予測結果（オオタカ）

項目	内容	
生態	<p>全長オス約 50cm、メス約 56cm。繁殖は近畿以北で確認され、留鳥だが幼鳥は分散のため移動する。平野部から低山の里山環境が生息適地だが、海岸林や山間地に生息するものもある。森林性のタカであり、主に林内や林縁部で狩りをする。餌は主に小～中型の鳥類で、ハト類が多い。営巣地では樹齢が高く林内に十分な飛翔空間がある林の大径木に架巢することが多いが、比較的密な林の林縁近くに架巢することもある。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年～令和7年の鳥類（猛禽類）調査では、合計367例が確認され、2つがい（①ペア、②ペア）の繁殖（2つがい共に令和3年のみ繁殖成功）が確認された。 ①ペア、②ペアは令和4年以降繁殖活動を行っていない。
	確認時期	<p>R2 春季、R2 初夏、R2 夏季、R2 秋季、R2 冬季、R3 早春季、R3 春季、R3 初夏、R3 夏季、R4 早春季、R4 春季、R4 初夏、R4 夏季、R5 早春季、R5 春季、R5 初夏、R5 夏季、R6 早春季、R6 春季、R6 初夏、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 早春季、R7 春季、R7 初夏、R7 夏季</p>
	確認位置	<p>[営巣地] 直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2つがい2営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：0.3km（①ペア）、1km（②ペア）</p>
生息環境の分布状況	<p>調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。</p>	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ①ペア、②ペアはR4年以降繁殖を行っていない。①ペアは営巣地から直接改変区域までの距離が0.3kmであり、高利用域の分断が生じるが改変割合は小さく、営巣中心域を構成する樹林環境の直接改変は生じないことから、工事の実施に伴う繁殖活動に係る営巣地周辺の環境の質的な変化は生じない。②ペアの営巣地と対象道路は1kmと十分な距離が確保されており、高利用域の分断が生じるが改変は高利用域の端部で改変割合は小さく、営巣中心域を構成する樹林環境の直接改変は生じないことから、工事の実施に伴う生息環境への質的な変化は生じない。 本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ①ペア、②ペアはR4年以降繁殖を行っていない。各ペアの営巣地と対象道路は十分な距離が確保されていることから、繁殖活動への影響は生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(21) 重要な鳥類の予測結果（サシバ）

項目	内容	
生態	<p>全長オス約 47cm、メス約 51cm。国内では主として東北地方以南に夏鳥として渡来する。樹林と水辺や湿地、草地がある谷戸環境を有する里山が生息適地である。営巣地は、生息地の中でも比較的樹齢の高い林で、林縁部に近い場所に架巢することが多い。採餌環境としては林縁または農耕地、山林内のギャップも利用される。¹⁾</p> <p>秋の渡りでは季節風が強い日は山を吹き上がる上昇気流を利用して山伝いに移動し、風が弱い日には、地表が温められてできる上昇気流を利用して移動する。渥美半島には山塊が続いており、西三河南東部にも山塊が続いているが、近年は渡りの季節に強い季節風が吹く日数が減少している。渥美半島コースでは多少雨が降っても、夕方近くでも渡りの移動が見られるのに対し、西三河南部を通り知多半島を経由するコースでは、空が曇ったり、晴天でも午後になると渡りの移動が止まる。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 44 例が確認された。
	確認時期	R2 春季、R2 初夏、R2 夏季、R3 初夏、R3 夏季、R4 春季、R4 夏季、R5 初夏、R5 夏季、R6 秋季、R7 初夏、R7 夏季
	確認位置	<p>[営巣地]</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺（直接改変区域外）：—</p> <p>営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境の消失・縮小は一部分で、事業実施区域周辺には同様の環境が残る。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(22) 重要な鳥類の予測結果（クマタカ）

項目	内容
生態	<p>全長は雄が 70～74.5cm、雌が 77～83cm、翼開長は 140～165cm。上面は全体的に灰褐色、下面は淡褐色で胸に褐色の縦斑、腹には不明瞭な横斑がある。頭上には短い冠羽があり、成鳥の顔は黒褐色で目の色は黄色。飛翔時は、翼が幅広く後縁が膨らんで見える。尾は長めで、太くて明瞭な横帯が 4～5 本ある。幼鳥は、全体的に著しく白っぽく、尾の横帯は細くて数が多い。目の色は黒っぽく見える。</p> <p>県内では標高およそ 400m 程度以上の山地で繁殖し、急峻な谷を中心に生活する。繁殖には営巣と育雛に必要な大径木を含む営巣林が必要であり、行動圏には餌となるヤマドリやノウサギなどが生息する多様な環境が必要である。大型のタカであるが、通常は山の尾根筋や斜面から離れた場所を飛行することが少なく、開けた上空でディスプレイを行う繁殖前期以外は目にする機会が少ない。幼鳥は巣立ち後も長期間にわたり営巣林の周辺に留まることが多く、親鳥も自分のテリトリーから積極的にこの若鳥を追い出す行動はとらないようである。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 2 例が確認された。</p>
	<p>確認時期 R3 早春季、R3 夏季</p>
	<p>確認位置 [営巣地] 直接変更区域：— 事業実施区域周辺（直接変更区域外）：— 営巣地から直接変更区域までの距離：営巣地なし</p>
生息環境の分布状況	<p>調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。</p>
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(23) 重要な鳥類の予測結果（フクロウ）

項目	内容	
生態	<p>全長は雄が 48cm、雌が 58.5cm。頭部から上面は褐色で、後頸から背にかけて暗褐色の縦斑があり肩羽と雨覆の先端に白斑がある。下面は淡褐色で胸に褐色の縦斑があり、顔盤は暗褐の斑で縁どられる。羽角はなく、虹彩は暗色、尾は長めで濃褐色の太い横縞がある。</p> <p>古い社寺林の周囲に農地や竹林などが広がる里山を好むが、繁殖している環境は多様である。繁殖の早いものは 3 月上旬に産卵を始め、4 月下旬には巣立ちするが、標高や気象等の条件により巣立ちが 5 月中旬以降の場合も少なくない。小型哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類などを捕食し、雄はホウホウ、ゴロスケホウホウ、雌はワンワンワンなどと鳴く。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 50 箇所 58 個体が確認された。
	確認時期	<p>【一般鳥類調査】 R2 秋、R2 冬、R3 春、R4 春、R4 初夏、R6 早春、R6 春、R7 春</p> <p>【猛禽類調査】 —</p>
	確認位置	<p>【一般鳥類調査】 直接変更区域：— 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：50 箇所 58 個体</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。 ・本種の繁殖地及び繁殖に適した巨木のある環境は直接変更区域及びその近傍では確認されなかったことから、繁殖地への工事中の照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の繁殖地及び繁殖に適した巨木のある環境は直接変更区域及びその近傍では確認されておらず、道路照明の設置にあたっては、事業実施段階において、照明光の道路外への漏洩の抑制等の環境配慮を実施することから、繁殖地への道路照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(24) 重要な鳥類の予測結果（ハヤブサ）

項目	内容	
生態	<p>全長オス 38～44cm、メス 46～51cm。北海道、本州、四国、九州に周年生息し繁殖する。県内では主に冬鳥として全域で観察される。海岸や河川などの開放的な環境に生息し、高速で巧みな飛翔や急降下による狩りで鳥類を捕食する。県内でも繁殖が確認されたが、繁殖地では高い崖の岩棚や穴を使用して営巣する¹⁾。</p> <p>愛知県内の繁殖期は概ね 4 月から 6 月と思われるが、ほぼ周年ペアでいる例もある。通常飛びながら空中で鳥類を捕獲しており、繁殖期の獲物は小型の鳥類であることが大半であるが、非繁殖期にはカモやキジなど大型の鳥類も捕食する。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 25 例が確認された。
	確認時期	<p>【一般鳥類調査】 R2 冬、R6 冬</p> <p>【猛禽類調査】 R2 冬季、R3 早春季、R3 夏季、R4 早春季、R4 春季、R4 夏季、R5 初夏、R6 春季、R6 冬季、R7 早春季、R7 春季</p>
	確認位置	<p>【一般鳥類調査】 直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 箇所 2 個体</p>
生息環境の分布状況	調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境を利用していると考えられる。	
建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化はほとんど生じない。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-29(25) 重要な鳥類の予測結果（サンショウクイ）

項目	内容	
生態	<p>全長オス 30cm、メス 33cm。翼開長 69～74cm。ハヤブサ類の中では尾が最も長く見え、尾の先はあまり尖っていない。オスは頭上から顔が青灰色。</p> <p>平地や山地の大きな落葉樹のある樹林にすむ。樹上で昆虫などを探し、高い枯枝や梢に直立した姿勢でとまり、低い枝や地上にはほとんどとまらない。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 9 箇所 21 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：9 箇所 21 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「環境省レッドデータブック2014 2鳥類」（環境省、平成26年9月）

表 11-11-29(26) 重要な鳥類の予測結果（サンコウチョウ）

項目	内容	
生態	<p>オスは全長約45cm、メスは約18cm。オスは頭、胸が黒紫色で背は褐色。腹は白い。中央の尾羽は黒色で著しく長く、成熟したものは30cmを超える。雌は頭と胸は黒色から暗灰色、背と尾は褐色で尾は特に長くない。</p> <p>平地から低山帯のスギ・ヒノキの植林、落葉広葉樹林、針広混交林に生息する。中でも沢が流れている環境を特に好む。雄雌共にさえずる。「ツキ(月)・ヒ(日)・ホシ(星)・ホイホイホイ」と聞こえたことが三光鳥の名の由来となっている。餌は主にハエ類、アブ類、トンボ類など飛ぶ昆虫である。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において1箇所1個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所1個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(27) 重要な鳥類の予測結果（コシアカツバメ）

項目	内容	
生態	<p>全長約 19cm。体上面は藍黒色で、眼の上から後頸部の一部と腰及び下尾筒は橙褐色。頬、喉、腹部は白褐色で黒褐色の細い縦斑がある。雌雄同色。尾羽は一番外側が他より長い燕尾形。ツバメより大きく、ツバメ類の中では腰が橙褐色で胸から腹に細い縦斑点があるので識別は容易である。ツバメより遅い 4 月中～下旬頃に渡来し、10 月中～下旬頃に渡去する。</p> <p>市街地、村落、池、河川、河口付近に生息する。飛翔する小型昆虫類を飛びながら捕食するので、これらの昆虫類の多い地域に生息し、コンクリートやモルタルなどの建造物に、泥と糞に唾液を混ぜ合わせて徳利を縦に割って天井に張り付けた形の巣を作る。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境、樹林環境において 4 箇所 8 個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 8 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(28) 重要な鳥類の予測結果（ノビタキ）

項目	内容	
生態	<p>全長約 13cm。オスは頭部からの上面が黒く、翼と腰から上尾筒に大きな白斑がある。胸はオレンジ色。頸側と腹以下の下面は白い。嘴、脚は黒い。メスは頭部からの上面は褐色で、黒褐色の縦斑がある。翼に白斑がある。淡褐色の不明瞭な眉斑がある。喉からの下面は淡褐色で、胸にオレンジ味がある。</p> <p>平地から山地の灌木の点在する草地、牧草地、湿地、河川など開けた環境に生息する。渡り時には草地や河川敷だけでなく農耕地でも見られる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1箇所 1個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所 1個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-29(29) 重要な鳥類の予測結果（ビンズイ）

項目	内容	
生態	<p>全長 15cm。上面は緑褐色で不明瞭な黒褐色の斑がある。眉斑と顎線および喉から下面全体は白および白っぽいパフ色に黒褐色の斑があり、脇は黄褐色味を帯びる。冬羽では下面を含め全体に黄褐色味を帯びる。</p> <p>県内の繁殖地は、標高 1,000m 以上の高原にある牧場などで、周辺に疎林のある環境。越冬地の環境は、作物の生えていない農地。面積の広い社寺や公園で、裸地や草が疎らに生える環境を好む。渡りの季節は昼間だけでなく、曇天の夜間でも上空を移動する。上空を 1 羽から数羽で移動するが、「ズィーッ」と鳴きながら通過するので、声の識別ができれば確認は容易である。尾を上下に振り、歩きながら地面で採餌する。松の生えた環境を好み、太い松の横枝の上を歩くのが特徴である。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 箇所 6 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 6 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-29(30) 重要な鳥類の予測結果（ホオアカ）

項目	内容	
生態	<p>全長 16cm。夏羽は、頭部が青灰色で黒色の縦斑があり耳羽は赤褐色で、背は褐色で黒褐色の太い縦斑があり、下面は白色で胸に黒色と茶褐色の 2 本の横帯があり脇に明瞭な縦斑がある。冬羽は、頭部と下面に褐色味を帯びる。</p> <p>夏期に山地の牧草地など、開けた草地に生息して繁殖する。繁殖期は昆虫類も食べるが、植物の種子を主食とする。冬期は平野部の耕地や河川の土手などに、単独から数羽の小群で生息する。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 箇所 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

(c) 両生類

予測地域に生息すると考えられる重要な両生類の予測結果は、表 11-11-30 (1)～(6)に示すとおりです。

表 11-11-30(1) 重要な両生類の予測結果（アズマヒキガエル）

項目	内容	
生態	<p>体長 14cm に達する大形種で背中に多くのいぼをもち、眼の後ろには大きな耳腺をもつ。鼓膜の長径は眼からの距離より大きいことで近縁種・亜種と区別される。背面はオスで黄褐色、メスで濃い褐色、腹面は薄い黄白色で、黒褐色の雲状斑紋をもつことが多い。海岸近くから高山まで広く分布。3～5月に、溝、池、湿原などの止水に長い紐状卵塊を産む。</p> <p>繁殖期に止水域に出現するが、水田環境はほとんど利用しない。非繁殖期は、ほぼ完全に陸生であるが猛暑季には溪流近くにも出現する。山地では森林域に、低地では公園の草地などに生息するが、変態直後の餌となる微小な土壤昆虫、ダニなどが生息することが重要である。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において1箇所1個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境であり、繁殖場として水辺環境を利用すると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中でも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-30(2) 重要な両生類の予測結果（ニホンアカガエル）

項目	内容	
生態	<p>体長はオスが 4~5cm、メスは 5~7cm。体色は黒褐~赤褐色。背面に黒い斑紋が出ることもあるが腹面には模様がない。目から体側に伸びる背側線はほぼ直線的でヤマアカガエルと区別ができる。繁殖期は 12 月から 3 月中旬の冬季から早春にかけて行われる。湿地や水田などの水の残った止水に 500~3,000 個の卵を塊として産む。</p> <p>平地や丘陵地の水田や湿地、池などを繁殖場所に使い、周辺の草地、森林地帯を生活場所として利用している。繁殖時期に水辺があることが生息条件として必要である。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 10 箇所 456 個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：10 箇所 456 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境であり、繁殖場として水辺環境を利用すると考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-30 (3) 重要な両生類の予測結果（ネバタゴガエル）

項目	内容	
生態	体長は 4～5cm 前後。主に山地の溪流に沿って生息する。変態して上陸した後は、溪流付近の林床で生活する。溪流の源流部や湧水地などの伏流水環境で産卵し、そこで幼生期を過ごす。変態した後は溪流付近の林床で生活する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 6 箇所 6 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R6 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 箇所 6 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境であり、繁殖場として水辺環境（伏流水環境）を利用すると考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境（伏流水環境）は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種が産卵場所として利用する渓流域の水辺環境（伏流水環境）では、一部においてトンネル工事による流量減少が懸念されるが、トンネル部は工事中において移動性が確保されるため、影響は小さい。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、水辺環境（伏流水環境）は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種が産卵場所として利用する渓流域の水辺環境（伏流水環境）では、一部において道路の存在（供用後）においても流量減少が懸念されるが、トンネル部は供用後も移動性が確保されるため、影響は小さい。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-30 (4) 重要な両生類の予測結果 (トノサマガエル)

項目	内容	
生態	体長はオスが 4.8～7.6cm、メスは 6.4～9.3cm。水田や湿地にある池などに産卵する。大きな河川では高水敷にある湿地や水たまりでも見られる。クモや昆虫を食べ、冬眠は水田の畔や近くの畑などで行う。静岡県の繁殖期は 4 月下旬から 5 月中旬で田植えの時期によく見られる。2,000～4,000 個の卵を圧平した球形の塊として産む。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 24 箇所 66 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R3 秋季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：23 箇所 65 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境であり、繁殖場として水辺環境を利用すると考えられる。	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じない。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-30 (5) 重要な両生類の予測結果 (ナゴヤダルマガエル)

項目	内容	
生態	<p>体長は雄で 35～60mm、雌で 40～70mm 程度。近縁種の特ノサマガエルに比べ、本種は水辺から離れない傾向が強く、一生を通じて低湿地で生活する。繁殖地は主に水田で、浅い池、沼など浅い止水で産卵する。繁殖期は比較的長く、5 月から 7 月に及ぶ。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 14 箇所 38 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R3 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：14 箇所 38 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境であり、繁殖場として水辺環境を利用すると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-30 (6) 重要な両生類の予測結果 (ツチガエル)

項目	内容	
生態	<p>体長は 4~5cm。背中の体色は暗灰~灰褐色であり、背中線を持つ個体もいる。背面は多数のイボに覆われており、腹面も顆粒に覆われる。繁殖期は 5~9 月で、水田、池、沼、溝、用水路、湿原、湿地の水たまり、広い河川の河原にある水溜まりなどの浅い止水や緩い流れに、小さな卵塊を数回に分けて産む。オスはのど元の鳴のうを膨らませて、「ギュウ、ギュウ、……」と鳴く。幼生で越冬するため、周年を通して水環境が必要となる。翌年の 5~8 月に変態する。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境であり、繁殖場・生育場として水辺環境を周年利用すると考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

(d) 爬虫類

予測地域に生息すると考えられる重要な爬虫類の予測結果は、表 11-11-31(1)～(7)に示すとおりです。

表 11-11-31(1) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンイシガメ）

項目	内容	
生態	<p>甲長 13～20cm¹⁾。本種は河川の上流から中流域、山間や山際の湖沼や低湿地を主な生息場所とするが、低地の湖沼や灌漑水田で見られることも多い³⁾。川底が礫質で、日光浴に適した土手や石がある環境を好む¹⁾。礫の隙間にいる水生昆虫やサワガニなどを食べる。産卵期は6～7月ごろで、1シーズンに2回産卵する個体が多い。1回に6～7個前後の卵を産む²⁾。</p> <p>冬季は水中の横穴や淵などに堆積した泥や落ち葉の下で越冬する。本種の移動距離は時には数百mにもなり、低い山の尾根を越えることさえある。また、冬眠場所である同じ山の池や小流と水田のあいだを毎年往復していたという報告もある³⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において11箇所13個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 初夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11箇所13個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は分断が生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

- 1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）
- 2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）
- 3) 「日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（株式会社平凡社、平成8年12月）

表 11-11-31(2) 重要な爬虫類の予測結果（クサガメ）

項目	内容
生態	<p>甲長 20~24cm。オスは小さく、メスの甲長の 2/3 くらいである。甲羅は俵型で、椎甲板と肋甲板に隆起があり、甲羅後縁は滑らかである。背甲は黒色または褐色で、腹甲は黒色で甲板の継ぎ目は黄白色である。頭部は大きく、黒色や暗褐色で、側頭部には黄白色の縦条や不規則な斑紋がある。成体のオスは、虹彩を含めた体全体が黒化する。危険を感じると、体側の臭腺から臭いのある液を分泌する。</p> <p>低地の河川や池沼などに生息し、流れが緩やかで濁りのある底質が泥の環境を好む。水田と周辺の水路にも生息し、特に公園の池や住宅地周辺の水辺では数多く確認されている。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 16 箇所 17 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 初夏、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：15 箇所 16 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は分断が生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-31 (3) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンスッポン）

項目	内容	
生態	<p>甲長は普通 130～180mm だが、まれに250mm近くに達する個体も見られる。体の背面は灰褐色。背甲は扁平で鱗板を持たず、柔らかな皮膚に覆われる。鼻孔の先端が強く突出し、肉質の口唇を持つ。指趾間に水かきがよく発達する。日本産の個体の多くは、中国や台湾産の個体に比べ、幅の広い甲を持つ傾向があり、そのため日本産個体群を固有種や固有亜種とする見解もあるが、この特徴だけで日本産個体群を明確に識別するのは困難。</p> <p>完全な淡水性。中・下流域の底が砂泥質の河川、池、沼等に生息する。貝類、甲殻類、水生昆虫、魚類などを捕食する。6～8月に8個～50個の卵を産卵する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において6箇所6個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R6 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6箇所6個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は分断が生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-31(4) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンヤモリ）

項目	内容	
生態	<p>全長 10~14cm。体は扁平で、細かい粒状鱗に覆われ大型の粒状鱗が散在する。前後肢とも第 1 指の爪を欠く。指下板は 2 つに分かれず下面全域を覆い、その先端の細かな鉤状の突起を引っ掛けることで垂直なガラスを登ることができる。尾の基部には 2~4 対の大型鱗があり、オスは前肛孔を 6~9 個もつ。</p> <p>主に民家の周辺に生息し、壁や木材の隙間に住む。夜行性で明かりに集まる虫を捕食するため、電灯や民家の窓に度々出現する。越冬や産卵に適した隙間を必要とし、木造の住宅や薪などの木材が置かれた環境を好む。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 7 箇所 18 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 初夏、R3 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：7 箇所 18 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、対象道路の土工部はカルバート等が設置されることから、道路供用後にも移動経路は確保される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-31(5) 重要な爬虫類の予測結果（ヒガシニホントカゲ）

項目	内容	
生態	<p>頭胴長 5.5~7.0cm。胴中央部の体鱗数は普通 26 列(24~28 列)である。小さな後鼻板が上唇板に接する。後鼻板がない個体も少数いる。幼体と若いメスは尾が青く、黒い背面に 5 本の明るい縦条が走り、正中の縦条は頭頂部で二叉する。成体オスや老熟メスでは体側の黒褐色の縦筋を残して褐色となる。繁殖期は 4~5 月で、繁殖期のオスは頭部とのがオレンジ色になる。巣穴で産卵したメスは孵化まで卵の世話をする。</p> <p>海岸付近の低地から高山にまで分布しており、人家周辺にも生息している。春先には日光浴によって体温を上げるので、日光浴に適した開けた場所があり、さらに採餌のための草むらがある場所で、よく見られる。石垣や積まれたがれきなどを隠れ場所としている。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 5 箇所 6 個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5 箇所 6 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、対象道路の土工部はカルバート等が設置されることから、道路供用後にも移動経路は確保される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-31 (6) 重要な爬虫類の予測結果 (シロマダラ)

項目	内容	
生態	<p>全長 30～70cm。夜行性で山地から平地にまで生息している。昼間は石や倒木の下などに隠れる。6～8 月に 1～9 個の卵を産む¹⁾。</p> <p>樹林地で見られることが多いが、河川敷や公園等にも見られることがあり、生息環境の幅は比較的広いと考えられる。夜行性でトカゲや小型のヘビなどの爬虫類を食べると言われているが、詳しい生態は不明である。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境、水辺環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は樹林環境と考えられ、現地調査ではこれに隣接する水辺環境でも記録された。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-31 (7) 重要な爬虫類の予測結果 (ヤマカガシ)

項目	内容	
生態	<p>全長 60～120cm。国内では本州、四国、九州、とその周辺の一部の島嶼に分布。餌動物としてカエル類や魚類を捕食することから、水辺に近い湿潤な環境を好む。産卵期は 6～8 月で 2～40 個ほどの卵を産卵する。顎の後ろには毒腺を持ち、上あごの後ろにある大きな歯で咬まれた場合には毒液が注入されることがある。また、この毒とは別に、捕食したヒキガエルから得られた毒を頸部の皮膚の下にある 2 列の毒腺に蓄積しており、頸部を咬まれた際には皮膚が破れて毒が出てくる仕組みになっている。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において 6 箇所 6 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 初夏、R3 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5 箇所 5 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、対象道路の土工部はカルバート等が設置されることから、道路供用後にも移動経路は確保される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

(e) 魚類

予測地域に生息すると考えられる重要な魚類の予測結果は、表 11-11-32(1)～(13)に示すとおりです。

表 11-11-32(1) 重要な魚類の予測結果（ニホンウナギ）

項目	内容
生態	<p>体長約 100cm。体形は、仔魚期は葉形。シラスウナギに変態すると成魚と同様の細長い円筒形となる。体表面に鱗はなく、皮膚下に微細な鱗を持つ。背鰭、尾鰭、臀鰭は繋がっており、一体となっている。通常の体色は、背側は暗色、腹面は白色。産卵に向かう下りウナギの体色は、背側と胸鰭が黒く、腹側は銀白色となる。仔魚からシラスウナギはほぼ無色透明。</p> <p>グアム島西方の西マリアナ海嶺南部で産卵するとされ（Tsukamoto et al., 2011）、孵化した仔魚は葉形幼生（レプトセファルス）として黒潮に乗り日本近海へ来遊する。シラスウナギへ変態後、汽水域の砂泥底の砂中ならびに堆積物の陰で生活する。成長すると河川の源流域から沿岸域の砂礫～礫底の場所に生息する。夜行性で、昼間は流木や石の下、ヨシの根塊や抽水植物の陰などに潜み、肉食で甲殻類や小型の魚類を捕食する。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 19 箇所 64 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：19 箇所 64 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-32(2) 重要な魚類の予測結果（カワムツ）

項目	内容
生態	<p>全長約 20cm。背部は褐色で腹部は白色、体側中央部に暗藍色の太い縦条がある。胸鰭と腹鰭の前縁は黄色で赤くならない、側線鱗数は 43～51 枚、臀鰭の分枝軟条数は 9 本などの特徴によって同属のヌママツと区別できる。河川上流域下部から中流域下部までの淵や平瀬、下流域や水田排水路などの緩流域や池沼沿岸に生息する。川岸にツルヨシやヤナギ類が繁茂する場所で多くみられる。生息場所はアマゴ、アユなどの共存魚種によっても変わるほか、タカハヤやアブラハヤなどの生息場所にも影響を与える。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 4 箇所 40 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 40 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(3) 重要な魚類の予測結果（タモロコ）

項目	内容	
生態	全長約 10cm。日本固有種で、太平洋側では静岡県以西、日本海側では新潟県以西の本州及び四国が自然分布域とされる。河川中流域から下流域や池沼まで広く生息し、川や農業水路などの緩流で多くみられる。動物質に偏った雑食で、繁殖は春に行われる。卵は水中にある植物の茎、根や葉に産み付ける。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 6 箇所 13 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 箇所 13 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(4) 重要な魚類の予測結果（ドジョウ）

項目	内容	
生態	<p>体長約 15cm。雌の方が大きくなり、20cm に達する個体もある。体形は細長い円筒形。口には上顎に 3 対、下顎に 2 対の計 5 対 10 本のひげがある。体色は灰褐色で、背面に不明瞭な斑紋を持つ。腹面は淡色で斑紋がない。尾鰭と背鰭に褐色の小斑が散在し、尾鰭基部上角に小さな黒色斑がある。¹⁾</p> <p>北海道から琉球列島まで広く分布する。県内では高山地域を除くほぼ全域で広く確認されている。底泥に付着する微小藻類や底に溜まった有機物の半分解物などを摂食する。繁殖期は春から初夏にかけてで、水中の植物などに卵を付着させ、あるいは泥底の上にはばらまく。水田では、水入れ直後に進入し、産卵する様子がみられる。主に緩流や止水の泥底に生息する。水田や周囲の用水路に多く、それに続く河川や池沼でもみられる²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 16 箇所 49 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：16 箇所 49 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「まもりたい静岡県の野生生物2019-静岡県レッドデータブック<動物編>-」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-32(5) 重要な魚類の予測結果（ミナミメダカ）

項目	内容						
生態	<p>全長約 4cm のメダカ科魚類。背中線に沿って黒条がある。背鰭は後方につく。オスでは背鰭の後端には大きい切れ込みがあり、霽鰭は幅広い。繁殖期は春から秋にわたる。受精卵はしばらくメスの肛門付近に塊状についているが、やがて水草などに産み付けられる。¹⁾</p> <p>平野部から丘陵地の河川緩流域や水田、水路、ワンド、池沼、湿地に生息し、水面付近を群れて泳ぐ。塩分に対する順応性があり、海水の影響のある水域でも生息ができる。雑食性で、動物プランクトンなどを捕食する。産卵期は 5～9 月で、産卵時に雄が背鰭と臀鰭で雌を抱く。卵は水草などに付着させるが、しばらく雌の腹部に付着させたまま泳ぐことも多い。²⁾</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="467 707 619 745">確認状況</td> <td data-bbox="619 707 1410 745">水辺環境において 8 箇所 45 個体が確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 745 619 784">確認時期</td> <td data-bbox="619 745 1410 784">R2 秋季、R3 春季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 784 619 853">確認位置</td> <td data-bbox="619 784 1410 853">直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 箇所 45 個体</td> </tr> </table>	確認状況	水辺環境において 8 箇所 45 個体が確認された。	確認時期	R2 秋季、R3 春季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 箇所 45 個体
	確認状況	水辺環境において 8 箇所 45 個体が確認された。					
	確認時期	R2 秋季、R3 春季					
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 箇所 45 個体						
<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>							
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-32(6) 重要な魚類の予測結果（ウツセミカジカ（淡水性両側回遊型））

項目	内容	
生態	<p>全長 15cm 程度。体表に鱗がなく、胸鰭が大きい。体色は淡褐色から暗褐色まで様々で、体側に暗色斑紋が 4～5 個ある。本種は両側回遊魚であり、3～5 月に繁殖し、孵化後仔魚は海に降りる。一腹卵数は 600～1,500 個程度とされる。主に礫底で産卵し、雄は孵化まで卵を守る。動物食性で、水生昆虫や甲殻類などの底生動物を餌として利用する。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 2 箇所 12 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 12 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-32(7) 重要な魚類の予測結果（イドミミズハゼ）

項目	内容	
生態	<p>体長 4～5cm 程度で体色は黄褐色から赤褐色を呈し、鱗がなく、頬には髭がない、特鮮起部は肛門の直ぐ後にあり、腹を持つ、胸鮮に遊離糸をき、体長に対する頭長の比が 1/5 前後、頭長に対する頭幅が約 50～60%、脊椎骨数 35～37、腹椎骨数 19 などの特徴から他のミミズハゼ属魚類と談別される。静岡県から新潟県以南の西南日本から記録され、沖縄県の沿岸域からもイドミミズハゼに類似した仔魚が記録されている。近年、韓国済州島からも記録された。地下水や伏流水の湧く河川下流域や海岸の礫の間隙や礫の下に生息する。河口近くの井戸から記録されることもある。¹⁾</p> <p>産卵は秋から早春にかけて行われる。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 11 箇所 26 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 秋季、R5 秋季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11 箇所 26 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「環境省レッドデータブック2014 4汽水・淡水魚類」（環境省、平成26年9月）

2) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック＜動物編＞」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(8) 重要な魚類の予測結果（イドミミズハゼ種群）

項目	内容						
生態	<p>【イドミミズハゼ種群（DNA 解析を行っておらず未同定のため、イドミミズハゼ種群として記載。イドミミズハゼの場合、環境省レッドリスト選定種）。以下、イドミミズハゼについて生態を記載】</p> <p>体長 4～5cm 程度で体色は黄褐色から赤褐色を呈し、鱗がなく、頬には髭がない、特鮮起部は肛門の直ぐ後にあり、腹を持つ、胸鮮に遊離糸をき、体長に対する頭長の比が 1/5 前後、頭長に対する頭幅が約 50～60%、脊椎骨数 35～37、腹椎骨数 19 などの特徴から他のミミズハゼ属魚類と談別される。静岡県から新潟県以南の西南日本から記録され、沖縄県の沿岸域からもイドミミズハゼに類似した仔魚が記録されている。近年、韓国済州島からも記録された。地下水や伏流水の湧く河川下流域や海岸の礫の間隙や礫の下に生息する。河口近くの井戸から記録されることもある。¹⁾</p> <p>産卵は秋から早春にかけて行われる。²⁾</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="467 770 619 808">確認状況</td> <td data-bbox="619 770 1410 808">水辺環境において 2 箇所 3 個体が確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 808 619 846">確認時期</td> <td data-bbox="619 808 1410 846">R3 春季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 846 619 913">確認位置</td> <td data-bbox="619 846 1410 913">直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 箇所 3 個体</td> </tr> </table>	確認状況	水辺環境において 2 箇所 3 個体が確認された。	確認時期	R3 春季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 箇所 3 個体
	確認状況	水辺環境において 2 箇所 3 個体が確認された。					
	確認時期	R3 春季					
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 箇所 3 個体						
<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>							
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「環境省レッドデータブック 2014 4汽水・淡水魚類」（環境省、平成26年9月）

2) 「まもりたい静岡県の野生生物 2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(9) 重要な魚類の予測結果（トビハゼ）

項目	内容
生態	<p>体長約 8cm。頭と体は円筒形で、後方はやや側扁する。眼は上方に突出し、両眼の間隔は狭い。第 1 背鰭は丸い。腹鰭は吸盤状で、後縁はくぼむ。胸鰭基部の筋肉は発達し、これを腕のように使って泥干潟上を這い回る。体側に小さな黒色点が散在する。</p> <p>内湾の湾奥や河川の河口域の泥底が発達した干潟に生息する。日中の干出時に泥干潟上で活動し、索餌や求愛行動を行う。陸上では主に皮膚を用いて空気呼吸を行う。尾部を使って泥面や水面を飛び跳ねて移動する。潮が満ちてくると水から逃げるように岸際の石や杭、湿生植物などに這い上がって休息し、干潮を待つ。産卵期は 6～8 月で、雄は泥中に産卵巣をつくり、求愛ジャンプで雌を呼ぶ。11～3 月の休止期には終日、泥底に掘った巣穴で過ごし、餌も食べない。愛知県内でも泥質の河口干潟で採集されている。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 4 箇所 30 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 30 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-32(10) 重要な魚類の予測結果（マサゴハゼ）

項目	内容
生態	<p>体長約 2.5cm。体は細長く、体高は低い。吻端は丸く突出し、上唇をわずかに被う。尾鰭後縁は丸い。尾鰭基部にくさび形の黒色斑がある。</p> <p>河口干潟や塩水湿地の軟泥底や砂泥底に生息する。愛知県内でも泥質の河口干潟、それに連なる前浜干潟を流れる水路や浅い水たまりで採集されている。産卵期は九州西岸では 5～6 月、岐阜県揖斐川では 6～8 月と考えられている。産卵はアナジャコなどの小型甲殻類の生息孔内で行うことが示唆されている。7～9 月には成魚が生息する河口汽水域で着底した稚魚がみられる。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 15 箇所 380 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：1 箇所 4 個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：14 箇所 376 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小する。 ・直接改変区域内1箇所では本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・事業実施区域周辺で確認された14箇所については、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・直接改変区域内 1 箇所では本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-32(11) 重要な魚類の予測結果（カワヨシノボリ）

項目	内容	
生態	<p>全長約 6cm。主に河川上中流域に生息するが、西部の浜名湖流入河川では下流域上部（Bb・Bc 域）にも生息する。淵の周辺から平瀬にかけての緩流部で多くみられる。繁殖期は 5～8 月上旬で、平瀬のはまり石の下面に他の両側回遊型ヨシノボリ属よりも大型の卵を産卵する。孵化直後から底生生活を開始して一生を河川で過ごす。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 4 箇所 22 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4 箇所 22 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑地の多い住宅地環境の隣接した水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑地の多い住宅地環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・生息が確認された河川上流域の水辺環境では、工事中に一部の生息地において流量減少が懸念されるが、流量減少が懸念されるトンネル部の河川は工事中においても移動性が確保されるため、影響は小さい。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑地の多い住宅地環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・生息が確認された河川上流域の水辺環境では、道路の存在（供用後）に一部の生息地において流量減少が懸念されるが、流量減少が懸念されるトンネル部の河川は供用後においても移動性が確保されるため、影響は小さい。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(12) 重要な魚類の予測結果（ビリンゴ）

項目	内容
生態	<p>全長約 7cm。河口汽水域や汽水湖でみられ、岸際の流れが緩い泥底や砂泥底の場所を好む。繁殖期は福岡県では 1 月下旬から 4 月下旬。繁殖場所は河口汽水域の砂泥底干潟で、アナジャコなどの生息孔のほか、ゴカイ類の巣穴を拡張して利用する。稚魚は初春から初夏にかけて浅海域に出現し、河口や内湾の汽水域に移動する。泥底や砂泥底の中層を群がりで浮遊する。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 8 箇所 11 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接変更区域：1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：7 箇所 10 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接変更により一部が消失・縮小する。 ・直接変更区域内1箇所では本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・事業実施区域周辺で確認された7箇所については、工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・直接変更区域内1箇所では本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-32(13) 重要な魚類の予測結果（エドハゼ）

項目	内容
生態	<p>体長約 5cm。頭は縦扁、体後部は側扁する。上顎後端は眼の後縁を大きく越え、上顎より下顎がやや突出する。生時の頭と体は褐色で、腹部は白色。体側には下部を除き、数本の不明瞭な暗色斑がある。背鰭と尾鰭上部の鰭条に斑点があるが、臀鰭と胸鰭、腹鰭に目立った斑点はない。産卵期が近づくと雌の第 1 背鰭後端に 1 暗色斑が出現し、臀鰭、腹鰭の縁辺部が黒くなる。河口干潟や前浜干潟、塩水湿地に生息する。砂泥底に掘られたニホンスナモグリやアナジャコなどの小型甲殻類の生息孔内に生息する。愛知県内でもアナジャコのものと思われる生息孔がみられる砂泥底で採集されている。産卵も小型甲殻類の生息孔内で行うと考えられており、産卵期は宮城県では 3 月下旬～5 月下旬、千葉県では 3～4 月と推定されている。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 1 箇所 4 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R3 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 4 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

(f) 底生動物

予測地域に生息すると考えられる重要な底生動物の予測結果は、表 11-11-33(1)～(32)に示すとおりです。

表 11-11-33(1) 重要な底生動物類の予測結果（マルタニシ）

項目	内容	
生態	<p>成貝では殻長60mmに達するが、通常30-40mm程度。各螺層は丸く膨れ、縫合は深くくびれる。殻は薄く壊れやすい。蓋は革質で赤褐色。</p> <p>かつては水田に多産したので、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田を含めた低湿地には現在も比較的多くの個体が生息する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において1地点1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1地点1個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(2) 重要な底生動物類の予測結果（ウミニナ）

項目	内容	
生態	<p>内湾の泥干潟の表面に生息している。干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。</p> <p>殻長約 35mm の塔型で殻は厚く、よく成長した個体の殻口は肥厚し、内唇の滑層は肥厚する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 19 地点 769 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：19 地点 769 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（生育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(3) 重要な底生動物類の予測結果（イボウミニナ）

項目	内容
生態	<p>内湾の砂泥干潟の表面に生息している。干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。また本種はウミニナと比べても著しく生息地が少なく、近年個体数が減少している。</p> <p>殻長約 40mm の高い塔型で殻は厚く、螺層にやや強い肋を持つ。殻口外唇が湾入する点で他の 2 種と区別できる。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 1 地点 1 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R6 秋季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(4) 重要な底生動物類の予測結果（タケノコカワニナ）

項目	内容	
生態	<p>本種は河口部上部の汽水域泥底に生息し、特に本種の分布北限に近い東海地方では、護岸工事の影響が少なく、比較的緩やかな流れ、もしくは止水のワンド的な環境に生息する。西南日本各地に生息記録があるが、現存する産地は著しく減少した。</p> <p>殻長約 60mm の塔型で殻はやや厚く、大型。成長にともなって殻頂部は欠落する。殻表はほとんど平滑で黒色。蓋は卵形で革質。</p> <p>1997 年以降の 20 回以上に及ぶ調査では生息が確認できず、絶滅と評価された。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1 地点 1 個体が確認された。
	確認時期	R6 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(5) 重要な底生動物類の予測結果（フトヘナタリガイ）

項目	内容
生態	<p>本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺に生息し、特にヨシ原群落内に高密度で生息する。殻長約40mmの円筒形で、殻頂部分は成長にともなって欠落する。殻表は粗い布目状で殻口は反転して肥厚する。幼貝では殻頂が保存され、殻口は肥厚せず、殻の外見から受ける印象は大きく異なる。蓋は円形で革質。殻の大きさは、県内でも生息地によって変異がある。</p> <p>夏に底質上に泥で固めた紐状の卵囊を産む。¹⁾</p> <p>本種は水面から離れたヨシなどが生育する場所に多く分布する。²⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において12地点1270個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：1地点6個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11地点1264個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小する。 ・直接改変区域内1地点で本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・事業実施区域周辺で確認された11地点については、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・直接改変区域内1地点で本種の生息が確認されたが、本生息箇所を橋梁構造で通過することから影響は軽微であると想定される。 ・生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「Venus (The Japanese Journal of Malacology) 61(1-2) ウミニナ科 1種とフトヘナタリ科 3種の分布と底質選好性：特にカワアイを中心にして (Venus (The Japanese Journal of Malacology))」(日本貝類学会、平成14年)

表 11-11-33(6) 重要な底生動物類の予測結果（ヘナタリガイ）

項目	内容	
生態	<p>内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺や、それより下部の泥干潟の表面に生息する。県内ではヨシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。</p> <p>殻長約 30mm の塔型で、よく成長した個体の殻口は肥厚し、外唇は下部が水管部へのびる。¹⁾</p> <p>本種は干潟の泥底に多く分布する。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 21 地点 3716 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：21 地点 3716 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「Venus (The Japanese Journal of Malacology) 61(1-2) ウミナナ科 1種とフトヘナタリ科 3種の分布と底質選好性：特にカワアイを中心にして (Venus (The Japanese Journal of Malacology))」(日本貝類学会、平成14年)

表 11-11-33(7) 重要な底生動物類の予測結果（カワグチツボ）

項目	内容	
生態	<p>本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺や、それより下部の泥干潟の表面に生息する。県内ではヨシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。</p> <p>殻は殻長約5mmと小形で、長卵形。臍孔は狭いが開く、蓋は革質で薄い。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において11地点241個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11地点241個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(8) 重要な底生動物類の予測結果（クリイロカワザンショウガイ）

項目	内容
生態	<p>殻長約 5mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く形態的にも近似しているが、本種は螺塔が高く、殻の濃い栗色が特徴である。¹⁾ 内湾奥部河口汽水域のヨシ原内や、その周辺の泥底・砂泥底表層や転石・漂着物の下等、干潮時の汀線から比較的遠く乾燥した場所を好み、フトヘナタリと同所的に見られることが多い。かつて本種は各地に普通に見られたが、近年は生息環境の悪化や縮小に伴って全国的に減少傾向にある。²⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 11 地点 215 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11 地点 215 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」(日本ベントス学会(編)、平成24年7月)

表 11-11-33(9) 重要な底生動物類の予測結果（ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ）

項目	内容	
生態	<p>内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺に分布する。</p> <p>殻長約 5mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く、形態的にも近似していて同定は難しい。本種は 螺塔がやや高く、貝殻の色彩が赤く、縫合付近に黄色い帯が入るので区別できる。臍孔はない。</p> <p>ヨシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはヨシに登る。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 16 地点 155 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：16 地点 155 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工所用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(10) 重要な底生動物類の予測結果（ヨシダカワザンショウガイ）

項目	内容	
生態	<p>河川の下流域から河口付近の草地に生息する小型の貝。殻高 3.5 mm、殻径 3mm。殻は褐色で光沢がある。色帯はない。縫合は浅く窪み、その直下に微細な 1 本の溝がある。臍孔が狭く開くことで、県内の河口域に生息する他のカワザンショウ類と区別される。</p> <p>日本固有種で、東京湾から九州にかけて分布する。</p> <p>河口部のヨシ帯から水面からかなり離れた草地まで生息する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 3 地点 8 個体が確認された。
	確認時期	R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：3 地点 8 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-33(11) 重要な底生動物類の予測結果（エドガワミズゴマツボ）

項目	内容	
生態	<p>内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺や、それより下部の泥干潟の表面に生息する。</p> <p>殻は殻長約 2mm と微小であるが、殻質はやや厚く堅固。殻は体層に向かって下ぶくれの卵形。十分に成長した個体では殻口は狭まり円形。蓋は石灰質で厚い。臍孔はない。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 16 地点 2005 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：16 地点 2005 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事中道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(12) 重要な底生動物類の予測結果（ヒガタヨコイトカケギリガイ）

項目	内容	
生態	殻長約7mm、細長い円錐形で、螺塔は著しく高い。殻は白色で殻質はやや厚く、螺層に強い3本の螺肋をめぐらす。内湾奥の泥質干潟の表面に生息している。本種の属するトウガタガイ科貝類には多毛類か貝類に取り付いて体液を吸う種が多いが、本種については不明。生態的な特性についてはほとんど知られていない。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において9地点18個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：9地点18個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(13) 重要な底生動物類の予測結果（シゲヤサイトカケギリガイ）

項目	内容	
生態	<p>殻長 7mm の高い円錐形で細長く、殻は白色。カゴメイトカケクチキレと非常に近似しているが、一番下の螺層部での縦肋の数が多く、カゴメイトカケクチキレでは殻口内唇側のひだ状の張り出しが顕著なのに比べて、本種では目立たない。また、本種の軟体部の地色は灰白色である特徴から区別できる。淡水の影響の強い干潟周辺の泥底に生息する。ゴカイ類に寄生していると思われるが、詳細な生態は不明である。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 13 地点 98 個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：13 地点 98 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟ベントスフィールド図鑑」（日本国際湿地保全連合、平成25年5月）

表 11-11-33(14) 重要な底生動物類の予測結果（ヌカルミクチキレガイ）

項目	内容	
生態	<p>本種は、和名だけが提唱された未記載種である。内湾奥の泥干潟にヨコイトカケギリ（トウガタガイ科）やカワグチツボ、エドガワミズゴマツボと共に生息する。</p> <p>生息環境は比較的調査が行われているが、本種の生息地は少なく生息面積も小さく、個体数も少ない。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 5 地点 17 個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5 地点 17 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(15) 重要な底生動物類の予測結果（オカミミガイ）

項目	内容	
生態	<p>内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内に分布する。県内ではヨシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。</p> <p>殻長約 35mm で日本産オカミミガイ科としては最大種。殻は卵形で、殻表は褐色の殻皮で覆われる。県内でも場所により殻の大きさに差異がある。ヨシ原湿地内の、朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。国内では東京湾（絶滅）、三浦半島（絶滅）、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、玄界灘、伊万里湾、有明海、八代海に分布する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<p>水辺環境において 2 地点 9 個体が確認された。（底生動物調査）</p> <p>水辺環境において 7 地点 94 個体が確認された。（陸産貝類調査）</p>
	確認時期	<p>R7 春季（底生動物調査）、</p> <p>R3 春季、R3 初夏、R6 夏季（陸産貝類調査）</p>
	確認位置	<p>（底生動物調査）</p> <p>直接変更区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接変更区域外)：2 地点 9 個体（陸産貝類調査）</p> <p>直接変更区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接変更区域外)：7 地点 94 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境（底生動物調査）、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境（陸産貝類調査）と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(16) 重要な底生動物類の予測結果（キヌカツギハマシイノミガイ）

項目	内容	
生態	<p>内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内に分布する。県内ではヨシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。</p> <p>殻長約 10mm、殻は卵形で殻表は褐色の殻皮で覆われる。殻には褐色から黒色の色帯があり、その幅や本数は個体によって変異する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<p>水辺環境において 6 地点 14 個体が確認された。（底生動物調査）</p> <p>水辺環境において 6 地点 94 個体が確認された。（陸産貝類調査）</p>
	確認時期	<p>R6 冬季、R7 春季（底生動物調査）、</p> <p>R3 春季、R3 初夏、R6 夏季（陸産貝類調査）</p>
	確認位置	<p>（底生動物調査）</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 地点 14 個体</p> <p>（陸産貝類調査）</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 地点 94 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境（底生動物調査）、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境（陸産貝類調査）と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(17) 重要な底生動物類の予測結果（ヒラマキミズマイマイ）

項目	内容	
生態	<p>県下のヒラマキガイ科貝類は、カワネジガイ <i>Camptoceras hirasei</i> Walker・メリケンコザラ（移入種）<i>Ferrissia californica</i> (Rowell)・カワコザラ <i>Ferrissia nipponica</i> (S. Hirase & Kuroda in S. Uchida)・ミズコハクガイ <i>Gyraulus soritai</i> Habe・ヒラマキミズマイマイ・ヒメヒラマキミズマイマイ <i>Gyraulus</i> sp.・レンズヒラマキ（クルマヒラマキ）<i>Helicorbis</i> cf. <i>cantori</i> (Benson)・ヒラマキガイモドキ <i>Polypylis hemisphaerula</i> (Benson in Cantor)・ヒロマキミズマイマイ（移入種）<i>Menetus dilatatus</i> (Gould) が記録されている。しかし、これらの県下全域における生息状況は、生息環境が限定的で、個体数が少ない種が多く、さらに分類学的な検討も十分でないため明らかにはなっていない。また未同定の移入個体群もしくは移入種の存在も無視できず、県下での絶滅危惧種としての評価も容易ではない（絶滅と評価されているカワネジガイを除く）。現在生息が確認されているヒラマキガイ科の代表種として、本種は全県下での分布状況が比較的明らかになっている。本種は丘陵地や丘陵地に近い平野の休耕田や湿地など自然度が高い生息環境には多くの個体が現在も生息している。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において4地点151個体が確認された。
	確認時期	R3 初夏、R3 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4地点151個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事中用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(18) 重要な底生動物類の予測結果（ヒラマキガイモドキ）

項目	内容	
生態	<p>殻径 5mm、殻高 1.5mm 前後。池沼などに生息する小型の円繫状の淡水貝。殻は褐色半透明で光沢がある。生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。¹⁾</p> <p>多くの場合は、水田内やその周囲の小水路の泥の上や藻類上を這う個体が確認される。他の多くの淡水棲有肺類（水棲上目の種）と同様に、夏季に産卵を繰り返して個体数を急増させる傾向が見られる。冬季は個体数が減少し、殆ど水のない側溝や水溜りなどにおいて、落葉の溜まった堆積下の湿り気のある部分などで冬眠状態の個体を目にすることもある。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 地点 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(19) 重要な底生動物類の予測結果（ヌマガイ）

項目	内容	
生態	シベリア、中国、朝鮮、インドシナに分布。国内では北海道から九州の河川下流域、湖沼に分布する。河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥底で比較的水質の良い場所を生息場所とするほか、平野部のため池などに生息している。日本産イシガイ科貝類としては大型で、河川に生息する個体は殻長 10cm 程度であるが、湖沼産の個体は大型になり殻長 20cm を越える個体も稀ではない。生息場所によって殻の大きさや形態も大きく変異する。 ¹⁾ 殻表は緑褐色で、殻頂付近には同心円状の皺がある。幼生は垂三角形で、棘状突起がある。やや大型で、殻高は殻長より大きい。 ²⁾ 止水域を好み、バラタナゴのような止水域を好むタナゴ類の産卵母貝となる。軟泥底に多い。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 地点 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事中道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

2) 日本産イシガイ目貝類図譜（日本貝類学会、平成20年9月）

表 11-11-33(20) 重要な底生動物類の予測結果（カラスガイ族(ドブガイ類)）

項目	内容	
生態	<p>ドブガイ類については分類学的な混乱が続いており、Lopes-Lima et al. (2020) による分子系統解析に基づく新しい分類体系では、従来のドブガイ、ヌマガイ、タガイを含む“ドブガイ類”はいずれもカラスガイ族 Cristariini に整理された。</p> <p>ヤハズヌマガイ <i>Buldowskia shadini</i> は、2020 年に愛知県の矢管池で確認され、2021 年に和名がつけられた貝類である。ヤハズヌマガイの分布域はロシア、中国東北部、モンゴル、韓国とされ、国内で確認されたヤハズヌマガイが外来種なのか、在来種なのかは現時点では不明だと考えられている。これまでヤハズヌマガイに形態が酷似した種としてフネドブガイ <i>Anemina arcaiformis</i> が国内各地で報告されてきたが、これらの記録がヤハズヌマガイの誤認が含まれている可能性が指摘されている。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において 8 地点 33 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 地点 33 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「なごやの生物多様性 10巻 名古屋市に棲息する Cristariini カラスガイ族（ドブガイ類）の種多様性」（名古屋環境局 なごや生物多様性センター、2023年3月）

2) 「水生動物 第2024巻 ヤハズヌマガイ *Buldowskia shadini*（イシガイ科）の東北地方における初確認」（アクオス研究所、2024年）

表 11-11-33 (21) 重要な底生動物類の予測結果（ウネナシトマヤガイ）

項目	内容	
生態	<p>殻長 3.5cm の長い楕円形で、殻の膨らみは弱く、殻質は厚い。表面には荒い横すじがあり、後縁は裁断されたように直線的。腹縁は中央でやや内側に凹む。³⁾ 殻頂から後背端にかけて稜角が走るが、老成個体では摩耗して不明瞭になる。¹⁾</p> <p>淡水の影響の強い干潟周辺の転石やマガキの塊の下面に足糸で付着する。³⁾ 河口域、内湾域の石の下面などで確認される。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 9 地点 55 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：9 地点 55 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「改訂レッドリスト付属説明資料」（環境省、平成22年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

3) 「干潟ベントスフィールド図鑑」（日本国際湿地保全連合、平成25年5月）

表 11-11-33(22) 重要な底生動物類の予測結果（ヤマトシジミ）

項目	内容
生態	<p>汽水域に生息する二枚貝。一般に食用に供されるシジミのほとんどは本種である。殻長は 30mm 程度のもが多いが、地域によって変異が大きく 50mm 程度になるものもある。殻表面は幼時には黄褐色だがやがて黒くなる。内側は白色か淡青色、淡黄色などで、近似種のマシジミは少なくとも周辺部が紺色を呈す。また、本種は卵生。</p> <p>国内では北海道から四国、九州に分布する。河口の汽水域の泥底や砂礫底に生息する。¹⁾</p>
現地調査における確認状況	<p>確認状況 水辺環境において 8 地点 20 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R2 早春季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 地点 20 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-33(23) 重要な底生動物類の予測結果（ハマグリ）

項目	内容	
生態	<p>殻長 10cm に達する大型種。殻は丸みを帯びた三角形で、殻はよく膨れるが殻質は薄い。殻の色彩は濃い褐色から灰褐色まで個体変異が多く、模様も変異する。チョウセンハマグリは殻が厚く、腹縁は直線的で、本種とは別種である。県内では渥美半島外洋側の浅海砂地に生息している。また市場で見られるシナハマグリ（中国、韓国からの輸入ハマグリ類）は殻全体に丸みが強く、殻の模様は褐色の稲妻模様のある個体が大部分で、色彩の変異も少ない。¹⁾</p> <p>内湾・河口域の中・低潮帯～水深 5m の砂底・砂泥底に生息する。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 4 地点 8 個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 8 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

2) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」（日本ベントス学会（編）、平成24年7月）

表 11-11-33(24) 重要な底生動物類の予測結果（ユウシオガイ）

項目	内容	
生態	殻長約 15mm。殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、後端は裁断状となる。殻の色彩は白色、黄色、橙色の 3 型がある。内湾の最も奥部の砂泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 5 地点 56 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5 地点 56 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33 (25) 重要な底生動物類の予測結果（クチバガイ）

項目	内容	
生態	<p>殻長 20mm、殻高 14mm、殻幅 8mm 程度の楕円形、やや厚質。殻頂は中央にあって、殻縁からわずかに突出する。殻表は成長肋により粗面を呈する。黄褐色の殻皮を持つが、殻頂部では剥離していることが多い。殻色は白色。殻頂下に小さな弾帯受と歯がある。内湾の潮間帯の砂礫底に生息する。¹⁾</p> <p>県内では河口の汽水域、干潟の潮上帯付近に生息する。生息地点数、個体数共に多い。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 4 地点 5 個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 5 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「千葉県の上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編 2011年改訂版」(千葉県環境生活部自然保護課、平成23年3月)

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-33(26) 重要な底生動物類の予測結果（ソトオリガイ）

項目	内容	
生態	<p>内湾の河口域や奥部の泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。</p> <p>殻長約 45mm で、殻は長楕円形で膨らみは強い。殻は非常に薄く、白色で半透明。後端は開く。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 4 地点 8 個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 8 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33 (27) 重要な底生動物類の予測結果（オヤイツオキナガイ）

項目	内容	
生態	<p>殻長約 20mm、殻は白色で非常に薄く脆い。日本国内でも分布域は非常に狭く、各生息地は分断されている。中潮線付近に垂直分布の中心があり、近似種の中では最も陸寄りにある。そのため、護岸工事などで生息地が破壊されやすい。1990 年代に汐川干潟の汐川河口付近で発見され、長らく豊川河口域から汐川河口域までの三河湾東部の狭い範囲でのみ生息が確認されていた（木村, 2012）。その後、四国・瀬戸内海・九州西岸で生息が確認されている。三河湾西部や伊勢湾では詳細な調査を行っているにもかかわらず、本種の生息地は見つかっていない。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 17 地点 512 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：17 地点 512 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-11-33(28) 重要な底生動物類の予測結果（イトメ）

項目	内容	
生態	北海道から沖縄まで分布する。河川汽水域の高潮帯の砂泥底に穴居する。汽水域に隣接する淡水域に出現することもあり、かつては沿岸部の稲作に被害をおよぼすほど多産した。主に 10～11 月の大潮の日没後満潮直後に生殖変態した体前部が水中に泳ぎ出し、放卵放精を行う。初期発生のためには高塩分環境を必要とする。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 11 地点 50 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：11 地点 50 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」（日本ベントス学会（編）、平成 24 年 7 月）

表 11-11-33 (29) 重要な底生動物類の予測結果（ウモレベンケイガニ）

項目	内容	
生態	甲幅 24mm に達する。頭甲胸は幅広く、甲幅は甲長の 1.2～1.3 倍、背面には大小の隆起がある。頭甲胸、鉗脚、歩脚には短毛の束があり、短毛に泥が絡み、身体全体を覆っている。 ²⁾ 東京湾以南沖縄県まで分布する。塩性湿地の高レベルにある打ち上げ物の下に埋在する。繁殖期は夏期。塩性湿地内に見られる他のベンケイガニ類とは違って動きは緩慢。オカミミガイと同じように、高いレベルの塩性湿地が維持されている地域にのみ分布する。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 3 地点 5 個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：3 地点 5 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」(日本ベントス学会 (編)、平成 24年7月)

2) 「日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑」(緑書房、令和1年11月)

表 11-11-33(30) 重要な底生動物類の予測結果（クシテガニ）

項目	内容	
生態	<p>千葉県以南九州まで分布する。発達した塩性湿地を持つ大型河川の河口域に特徴的に出現する。肉食性、雑食性で、アシハラガニなどの他のカニ類も捕食する。ヨシ原のやや上部付近を主な生息地としている。¹⁾</p> <p>甲幅約 28mm に達する。頭甲胸は四角形で、後方に向かってやや狭くなる。眼窩外歯の後方には前側縁歯がなく、最大甲幅は眼窩外歯の直後となる。可動指上面には雄で 8～9 個、雌で 6～7 個の楕円形の結節状顆粒が並ぶ。同属種とは、歩脚の長節が幅広く、指節は細長いことなどで見分けられる。鉗脚の色彩も特徴的である。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 13 地点 85 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R6 冬季、R7 春季
	確認位置	直接変更区域：— 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：13 地点 85 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」(日本ベントス学会(編)、平成24年7月)

2) 「日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑」(緑書房、令和1年11月)

表 11-11-33(31) 重要な底生動物類の予測結果（ベンケイガニ）

項目	内容	
生態	<p>房総半島、男鹿半島以南に分布する。河口のヨシ原、土手、石垣、林、草原などに生息。昼間は巣穴やヨシ原内の木材、ゴミの下に隠れ、夜になると活動する。水辺の暗く湿った物陰を好む。冬季は土手などに掘った巣穴で冬眠する。雑食性。¹⁾</p> <p>甲幅約 35mm に達する。頭甲胸は四角形で、表面は滑らかである。眼窩外歯の後方には1つの明瞭な前側縁歯がある。同属のタイワンベンケイガニとは、体色や頭甲胸の形や表面の滑らかさなどで見分けられる。²⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において4地点5個体が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 夏季、R6 夏季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4地点5個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ペントスのレッドデータブック」（日本ペントス学会（編）、平成24年7月）

2) 「日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑」（緑書房、令和1年11月）

表 11-11-33(32) 重要な底生動物類の予測結果（ハマガニ）

項目	内容	
生態	<p>宮城県～沖縄諸島に分布する。潮上帯の小高いところやヨシ原内に大きな巣穴を掘って生息する。ヨシ原を主な生息場所とするため、高潮帯～潮上帯にかけての自然環境が悪化してきているところでは個体数は少ない。夜行性で植物食である。¹⁾</p> <p>甲幅約 50mm に達する。頭甲胸はやや幅広い丸みのある四角形で、背面は小顆粒と短毛の束で覆われる。前側縁は板状に縁取られる。眼窩外歯の後方には 2 つの鈍い前側縁歯がある。河口や内湾の泥地やヨシ原などの草地に巣穴を掘って生息する。汽水域の上部にあたる所に多く、水田の用水路の土手などにも巣穴をつくり、穴の深さは 40～50cm に達する。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 3 地点 11 個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接変更区域：— 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：3 地点 11 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック」(日本ベントス学会 (編)、平成 24 年 7 月)

2) 「日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑」(緑書房、令和 1 年 11 月)

(g) 昆虫類

予測地域に生息すると考えられる重要な昆虫類の予測結果は、表 11-11-34(1)～(14)に示すとおりです。

表 11-11-34(1) 重要な昆虫類の予測結果（マイコアカネ）

項目	内容	
生態	<p>体長オスメスともに 28～40mm 程度。胸部側面に小黒点があり黒条が発達して縞模様のように見える。成熟したオスの顔面が青白いことが特徴で、アカトンボ類の仲間としては小型である。成虫は 6～11 月にかけて出現し、9～10 月に観察されることが多い。成熟したオスはヨシなどの抽水植物が密生した湿原の植物などに静止してなわばり行動を行う。メスが飛来すると交尾態となって近くに静止し、交尾終了後は連結態となって連続的に打水産卵をする。</p> <p>平地から丘陵地にあるヨシ、マコモ、ヒメガマなどが密生した池沼や湿原に生息し、開放的なため池にはあまり生息しない。海岸や河口付近に成立した砂丘後背湿地や、降水量の多い時期だけにできる一時的な水辺に生息する例が多い。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、本種の生息環境である水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-34(2) 重要な昆虫類の予測結果（オオゴキブリ）

項目	内容	
生態	<p>体長は37～41mm。体は太く、光沢のある漆黒色。前胸背は前部と中央に小突起を有する。枯朽木内など狭い空間に住んでいるため成虫の翅は擦り切れていることが多い。県内では主として海岸線に近い照葉樹林に生息しているが、環境適応性の幅も広く、落葉広葉樹林や針葉樹林にも生息している。生態については朽木内で坑道を掘って家族生活をしている以外ほとんど何も判っていない。副次的ながら、本種は他の南方系種類、特に枯朽木内など類似の環境で生活する外国産クワガタムシやカブトムシ類の「越冬可能地」推定のための「指標種」にもなり得るかと思われる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において5箇所10個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5箇所10個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-34(3) 重要な昆虫類の予測結果（オオアメンボ）

項目	内容	
生態	<p>体長は19～27mm。丘陵地から山間部にかけて、周辺を樹林に囲まれた池沼などに生息する。砂防堰堤によってせき止められた湛水域でもよく見られる。樹木の葉などによって日陰となった水面を好む。丘陵地から山間部にかけて広く分布しており、水深の深い止水域に生息している場合が多い。河川上流域の緩流部でも見つかる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において1箇所2個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1箇所2個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境に隣接した水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境に隣接した水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-34 (4) 重要な昆虫類の予測結果 (エサキアメンボ)

項目	内容	
生態	<p>体長は 8～10mm。体色は暗赤褐色～褐色で、体側に銀白色の毛による縦帯をもつ細身の種である。触角は第 4 節が最も長い。平地から丘陵地にかけて、ヨシやガマなど抽水植物が繁茂するやや暗い溜め池やワンドなどに生息する。越冬は、ヨシなどの抽水植物の枯れ株やリターなどで行う事が知られる。春季や秋季を除くと通常開けた水面上には見られず、密集した抽水植物帯の中で生活するため、発見するのは容易でない。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1 地点 1 個体が確認された。(底生動物調査)
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	(底生動物調査) 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件(流量・水温など)の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件(流量・水温など)の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-34 (5) 重要な昆虫類の予測結果 (コオイムシ)

項目	内容	
生態	<p>体長は17～20mm。水草の多い溜め池、水田地帯の素堀の水路、休耕田や湿地の浅い水溜まり、河川のワンドなどに生息する。県内では前述した様々な環境で見られ、比較的産地・個体数は多い。¹⁾</p> <p>成虫・幼虫とも水中で他の小昆虫や淡水産貝類などの水生生物を捕えて体液を吸汁する。メスはオスの背面に卵を産み付け、オスは卵が孵化するまで保護することで有名。²⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<p>耕作地及び緑の多い住宅地環境において1箇所1個体が確認された。(昆虫調査)</p> <p>水辺環境において1地点4個体が確認された。(底生動物調査)</p>
	確認時期	R3 春季 (昆虫調査)、R3 夏季 (底生動物調査)
	確認位置	<p>(昆虫調査)</p> <p>直接変更区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接変更区域外)：1箇所1個体 (底生動物調査)</p> <p>直接変更区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接変更区域外)：1地点4個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境 (昆虫調査)、水辺環境 (底生動物調査) と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接変更により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されており、道路照明の設置にあたっては、事業実施段階において、照明光の道路外への漏洩の抑制等の環境配慮を実施することから、主要な生息地への道路照明の影響はほとんど生じない。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「まもりたい静岡県の野生生物2019-静岡県レッドデータブック<動物編>-」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-34 (6) 重要な昆虫類の予測結果（ヒメタイコウチ）

項目	内容	
生態	<p>体長は 18～22mm。体型は長卵形で光沢のない暗褐色を呈し、尾端の呼吸管は非常に短い。前脚は捕獲脚になっている。前胸背は幅広く、小楯板は正三角形を呈す。湿地、水田や用水路、溜め池の水辺などで常に水の流入が認められる環境に生息する。小石や植物の堆積物の下などに潜み、クモ類やゴミムシ類など徘徊性の小動物を捕食する。飛翔しないため移動性が乏しい。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	<p>耕作地及び緑の多い住宅地環境において 7 箇所 11 個体が確認された。(昆虫調査) 水辺環境において 1 地点 1 個体が確認された。(底生動物調査)</p>
	確認時期	<p>R2 秋季、R3 春季、R3 夏季</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境（昆虫調査）、水辺環境（底生動物調査）と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息基盤である休耕田等や湿地性の水辺環境は、一部の生息地においてトンネル工事の影響による湿潤状態の低下が懸念される。本種は当該地域の複数地点で確認されており、一部は地下水位の低下による生息環境の消失が懸念されるが、7割以上の生息地点は工事による影響は小さく生息環境は残存する。そのため、当該地域全体における本種への影響は小さいものと考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息基盤である休耕田等や湿地性の水辺環境は、一部の生息地において道路の存在の影響による湿潤状態の低下が懸念される。本種は当該地域の複数地点で確認されており、一部は地下水位の低下による生息環境の消失が懸念されるが、7割以上の生息地点は道路の存在による影響は小さく生息環境は残存する。そのため、当該地域全体における本種への影響は小さいものと考えられる。 ・本種の主な生息基盤である休耕田等や湿地性の水辺環境は、トンネル区間であり対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-34 (7) 重要な昆虫類の予測結果（ヒメジャノメ）

項目	内容	
生態	<p>開張およそ 40～45mm。翅の表裏とも薄い灰褐色で、表前翅には大小 2 個の眼状紋がある。裏面は前翅と後翅を貫く白黄色の線があり、その外側に複数の眼状紋がある。幼虫の食餌植物は各種のイネ科植物。幼虫で越冬。成虫は 5 月中旬から 10 月まで年 3～4 回発生する。成虫は花で吸蜜することはほとんどなく、果汁や樹液などを吸汁する。</p> <p>水田の周りの草地や堤防、森林の周辺や明るい林内などに生息し、時に住宅の庭でも見ることがある。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 15 箇所 17 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：15 箇所 17 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-34(8) 重要な昆虫類の予測結果（サトキマダラヒカゲ）

項目	内容	
生態	開張およそ 60～65mm。主として標高の低い平地や里山のメダケやモウソウチクなどの竹林、ネザサの群落に生息し、時に標高の高いスズタケなどの群落でも採集されることがある。成虫は樹液を吸汁するのでコナラ、クヌギ、ヤナギなどの林が重要となる。幼虫の食餌植物はネザサやモウソウチクなど。蛹で越冬。成虫は 5～6 月と 7 月下旬～8 月に 2 回発生する。クヌギなどの樹液や動物の糞などに集まり吸汁する。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において 4 箇所 4 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 箇所 4 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境であり、隣接した水辺環境でも確認されたと考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019ー静岡県レッドデータブック<動物編>ー」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-34 (9) 重要な昆虫類の予測結果 (オオマルケシゲンゴロウ)

項目	内容	
生態	<p>本州 (東海地方以西)、四国、九州、南西諸島に分布する。背面は赤色味のある暗褐色。頭部と前胸背の後縁に暗色模様がある。上翅は暗色になり模様はない。体表面に強い光沢がある。日本産本属の中では大型で、独特の黒光りした丸い体と相まって区別は容易。植物が豊富な止水域に生息し、特に遷移がやや進み、抽水植物が繁茂する富栄養な環境を好む。分布域は広いが産地は少なく、個体数も少ない。幼虫は福岡県では 6 月下旬に得られている。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において 1 地点 23 個体が確認された。(底生動物調査)
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	(底生動物調査) 直接改変区域：— 事業実施区域周辺 (直接改変区域外)：1 地点 23 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されており、道路照明の設置にあたっては、事業実施段階において、照明光の道路外への漏洩の抑制等の環境配慮を実施することから、主要な生息地への道路照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) ネイチャーガイド 日本の水生昆虫 (文一総合出版、令和2年1月)

表 11-11-34(10) 重要な昆虫類の予測結果（コガムシ）

項目	内容	
生態	<p>体長 15～18mm。成虫は草食性で水草を食べるが、繁殖期には動物質も食べる。幼虫は肉食性でヒメモノアラガイなどをよく食べる。メス成虫は水面近くに水草を絡めた卵嚢を作りその中に産卵する。成虫は夜間、よく灯火に飛来する。</p> <p>水田や河川敷、海岸後背湿地の水溜まりなど、不安定な浅い止水域で繁殖し、ため池など安定した水域では繁殖しないとされる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	<p>耕作地及び緑の多い住宅地環境において 2 箇所 3 個体が確認された。(昆虫調査)</p> <p>水辺環境において 1 地点 1 個体が確認された。(底生動物調査)</p>
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	<p>(昆虫調査)</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 3 個体</p> <p>(底生動物調査)</p> <p>直接改変区域：—</p> <p>事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境（昆虫調査）、水辺環境（底生動物調査）と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工所用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されていることから、主要な生息地への工事中の照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されており、道路照明の設置にあたっては、事業実施段階において、照明光の道路外への漏洩の抑制等の環境配慮を実施することから、主要な生息地への道路照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-34(11) 重要な昆虫類の予測結果（ヘイケボタル）

項目	内容	
生態	<p>体長 7～10mm。幼虫は水田や流れの緩やかな小川・用水路などに生息し、場所によってはゲンジボタルと混生している。成虫は 6～9 月頃まで見られ、7・8 月頃に多く、夜間、ゲンジボタルより弱い光を放ちながら飛翔する。幼虫は主に止水域に生息し、モノアラガイ類などの淡水産貝類を餌としている¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	<p>樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 17 箇所 208 個体が確認された。</p>
	確認時期	<p>R3 初夏季</p>
	確認位置	<p>直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：17 箇所 208 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接する水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されていることから、主要な生息地への工事中の照明の影響はほとんど生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・そのため、本種の生息環境である水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じない。 ・本種の主要な生息地と対象道路は十分な距離が確保されており、道路照明の設置にあたっては、事業実施段階において、照明光の道路外への漏洩の抑制等の環境配慮を実施することから、主要な生息地への道路照明の影響はほとんど生じない。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-11-34(12) 重要な昆虫類の予測結果（トゲアリ）

項目	内容	
生態	働きアリの体長は 7～8mm。胸部は赤くかぎ状に曲がった大きな 1 対の棘を持つ。女王は胸部も黒色。クロオオアリやムネアカオオアリなどの巣に一時的寄生をするが、女王を殺して巣の乗っ取りに成功する確率は非常に低いとされる。しばしばクヌギやコナラの樹皮のすきまや樹液痕周辺にコロニーを作っているのが観察される。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 箇所 5 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 5 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) レッドデータブック愛媛2014 (愛媛県民環境部環境局自然保護課、2014)

表 11-11-34(13) 重要な昆虫類の予測結果（ヤマトアシナガバチ）

項目	内容	
生態	<p>体長 16～22mm。¹⁾20 頭ほどの小さな集団を作る。林縁などに多く見られ県内での生息数が多い。²⁾国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、外では朝鮮半島、中国北東部に分布する。草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒先下、壁にも営巣する。平地、低山地に生息するが、栃木県、埼玉県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県各県など全国的に減少。類似の同属種が数種ある中で、この種のみが減少した理由は不明。³⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 8 箇所 8 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8 箇所 8 個体
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「新訂 原色昆虫大圖鑑第Ⅲ巻」(株式会社北隆館 平成20年1月)

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

3) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」(環境省、平成27年2月)

表 11-11-34(14) 重要な昆虫類の予測結果（モンスズメバチ）

項目	内容	
生態	成虫の体長 30mm ほどの黄色地に黒縞模様のハチ。主にセミやトンボなどの昆虫類を餌にし、木の洞や屋根裏などに 5 月中旬頃から巣を作る。 ¹⁾ アシナガバチを襲うなど人家周辺に多く、駆除の対象となることも多いが、まだ県内の生息数は多い。 ²⁾ 北海道、本州、佐渡ヶ島、四国、九州まで広く分布する日本固有亜種。樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。他種と違い夜間にも活動する習性がある。長野県、三重県、高知県の各県をはじめ、全国的に減少傾向にあるが、原因は不明。 ³⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

3) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」（環境省、平成27年2月）

(h) 陸産貝類

予測地域に生息すると考えられる重要な陸産貝類の予測結果は、表 11-11-35 (1)～(8)に示すとおりです。

表 11-11-35 (1) 重要な陸産貝類の予測結果 (ナガオカモノアラガイ)

項目	内容	
生態	湿地の草の上に住む陸貝。殻高 12mm、殻径 6mm。殻はきわめて薄く半透明で黄褐色を呈す。体層は著しく膨大する。淡水産のモノアラガイ類と形態が似ているが、系統的に全く異なる。 日本固有種で、北海道南部から九州北部にかけて分布する。 池沼や大小河川の水際付近や湿地に生息する。産地では各種湿生植物の上で生活する。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 4 地点 12 個体が確認された。(底生動物調査) 耕作地及び緑の多い住宅地環境において 4 地点 35 個体が確認された。(陸産貝類調査)
	確認時期	R3 夏季 (底生動物調査)、 R3 春季、R3 初夏季、R6 夏季 (陸産貝類調査)
	確認位置	(底生動物調査) 直接変更区域：— 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：4 地点 12 個体 (陸産貝類調査) 直接変更区域：— 事業実施区域周辺(直接変更区域外)：4 地点 35 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境 (底生動物調査)、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境 (陸産貝類調査) と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じない。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 ・そのため、生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じない。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保される。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、渡河部が橋梁であることにより、対象道路による分断は生じず、道路供用後にも移動経路は確保される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物 2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成 31 年 3 月)

表 11-11-35 (2) 重要な陸産貝類の予測結果（ヒラドマルナタネガイ）

項目	内容	
生態	<p>成貝は、殻長 1.7mm、殻径 1.5mm 程度の丸みを帯びたきわめて薄い殻を有する微小種である。臍孔は狭いが深く明瞭に開口する。殻表は、茶褐色の殻皮で覆われる。類似するマルナタネは、臍孔が塞がれ開口しない特徴により容易に識別が可能である。</p> <p>愛知県内での本種の生貝が確認された環境は、主に風通しが良く明るい神社境内の落葉樹（エノキ・オニグルミ）の古木の樹幹で、樹幹には蘚類や地衣類が付着しているとされる。また、同じ木の樹幹に類似種のマルナタネが生息している場合も少なくない。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 2 地点 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 地点 2 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-35 (3) 重要な陸産貝類の予測結果（ミカワギセル）

項目	内容	
生態	殻高 15～23mm 程度で産地によって変異が大きい。殻は細長く、螺層数 7～9 層。成長脈が強い縦肋に発達する。主襞と 3～4 の腔襞がある。山地から平野部まで点々と分布するが、寺社林や谷沿いの自然林内の落葉、朽木や礫の下に生息している場合が多い。産地による貝殻の変異が大きく、愛知県内でも数タイプに分けることができる。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 28 地点 208 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R3 秋季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：28 地点 208 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-35 (4) 重要な陸産貝類の予測結果 (イボイボナメクジ)

項目	内容	
生態	<p>他の陸産貝類が多数生息する良好な森林環境に生息する。本種は陸産貝類のみを捕食する肉食性種である。</p> <p>生時の伸長時体長は 14.5～17.5mm 程度であるが、個体差が大きい。背面の体表には顆粒状の微小突起が多数見られ、特に休止時には明瞭である。色彩は淡黄褐色で、明瞭な細い黒褐色の輪状の模様が背面周囲を囲む。背面の正中には、ぼやけた縦帯が見られる。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において 5 地点 5 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：5 地点 5 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-35 (5) 重要な陸産貝類の予測結果（ウメムラシタラガイ）

項目	内容	
生態	殻長 1.2mm、殻径 1.8mm 程度。主に低山地や山麓の環境に生息する種である。他県では島嶼の森林で確認される場合もある。林床の落葉下に生息する。微小である上に稀な種でもあり、生態に関しては何も知見がない。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 6 地点 20 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏、R3 秋季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 地点 20 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-35 (6) 重要な陸産貝類の予測結果 (オオウエキビ)

項目	内容
生態	<p>殻長・殻径とも約 2mm, 5~6 層, 団栗形で, 老成すると螺塔は高まる。周縁角は鋭い龍骨となり殻口外唇まで連続する。軸唇後方には小隆起が認められ, これは本種独特の形態で, 幼貝にも明瞭に現れる。臍孔は狭く開く。軟体部の頭部-腹足の地色は透明感ある灰色で, 背面は微細な黒斑を散在し, 足の後端の小さな尾角も黒っぽい。頭触角は体サイズの割に太くて長く, やはり黒斑に覆われる。頭触角の後方には紅色の口球が鮮明に透過して見える。足は細くて長い。歯舌の中歯及び側歯の歯尖数はともに 3。里山から山間部にかけて, 広葉樹林から杉植林地まで幅広い森林環境において, 林床の落葉堆積下に棲息する。分布域は比較的広いものの, どの産地でも密度は低く, 個体数は少ない。産地は不連続的で, 個体群は相互に隔絶している。特に里山の産地は森林伐採の進行や管理放棄によって荒れ, 本種が棲息できなくなりつつあり, 全体的に減少傾向にあると考えられる。¹⁾</p>
現地調査における 確認状況	<p>確認状況 樹林環境において 4 地点 8 個体が確認された。</p>
	<p>確認時期 R3 春季、R3 初夏、R3 秋季</p>
	<p>確認位置 直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 8 個体</p>
生息環境の 分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。</p>
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>

1) 「岡山県版レッドデータブック2020-動物編-」(岡山県環境文化部、令和2年3月)

表 11-11-35 (7) 重要な陸産貝類の予測結果 (ウラウズタカキビ)

項目	内容						
生態	<p>成員の最大個体が殻長 2.5mm、殻径 2.1mm 程度の丸みを帯びた円錐形 (塔形) の微小種である。殻はきわめて薄く、各螺層にはごく弱い成長脈がみられる程度で、ほぼ平滑で光沢が強い。幼時には殻の周縁にごく弱い角を有するが、タカキビの様にキール状とはならない。成員の体層周縁はやや角張るものの円みが強い。殻表は、きわめて薄い殻皮により半透明な黄白色を呈する。臍孔はきわめて狭く小さい。軟体は淡黄白色で、眼触角と口触角および腹足背面は淡黒色となり、口球の薄紅色が頭部に透過され視認できる。殻を透過して、外套膜には、黒色の雲状斑が確認できる。¹⁾</p> <p>低山地などの山深くない里山的環境で確認される。小河川や沢に面したスギ植林などの明るい林の、アオキ類などの常緑低木やアジサイ類の葉裏などに付着している個体を確認されることが多い。殻が若干小形である 5 月頃には既に性成熟している。本種の発見機会の多い 5～7 月にかけては繁殖期で、殻の大きさが最大になる 7 月頃には産卵を終え死滅する、1 年生の種と推測されている。主に低木や草本の葉裏に付いて一生の大半を生活していると考えられる樹上性種である。食性については植物食で、草本の若葉や常緑樹の葉裏に着生するカビ類などを食べて生活していると推測される。¹⁾</p>						
現地調査における確認状況	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="475 891 619 925">確認状況</td> <td data-bbox="619 891 1410 925">樹林環境において 4 地点 21 個体を確認された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 925 619 958">確認時期</td> <td data-bbox="619 925 1410 958">R3 初夏、R3 秋季</td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 958 619 1021">確認位置</td> <td data-bbox="619 958 1410 1021">直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 21 個体</td> </tr> </table>	確認状況	樹林環境において 4 地点 21 個体を確認された。	確認時期	R3 初夏、R3 秋季	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 21 個体
確認状況	樹林環境において 4 地点 21 個体を確認された。						
確認時期	R3 初夏、R3 秋季						
確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：4 地点 21 個体						
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。</p>						
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>						

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-35 (8) 重要な陸産貝類の予測結果（ヒメカサキビ）

項目	内容	
生態	<p>殻径 2.8mm 程度の微小種である。殻はそろばん玉型で、周縁には強いキールを有する。螺塔部には規則的かつ明瞭な成長肋が密に現れる。殻底は平滑で、規則的に並ぶ複数の細く弱い螺溝が認められる。</p> <p>海岸林や低山地、山麓などの環境に生息する種である。スギ植林、広葉樹林などの林床の落葉堆積下に生息する。常緑樹林の若干乾き気味の林床の落葉堆積下にも見られる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 6 地点 8 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 初夏
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6 地点 8 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

(i) クモ類

予測地域に生息すると考えられる重要なクモ類の予測結果は、表 11-11-36(1)～(6)に示すとおりです。

表 11-11-36(1) 重要なクモ類の予測結果（キノボリトタゲモ）

項目	内容	
生態	樹皮上、石垣、崖地などの表面に袋状の住居を作る。住居の長さは約 3cm で出入口に円形の扉を付ける。扉の近くにきた多足類や昆虫類などの獲物を捕らえて、住居内に引きずり込む。住居の表面にはコケ・樹皮・土などを付着させるので見つけにくい。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 4 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 4 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・確認地点は、直接改変区域外であるため、生息確認地点が残る。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-36(2) 重要なクモ類の予測結果（オニグモ）

項目	内容	
生態	<p>体長メス 20～30mm、オス 15～20mm である。背甲は明褐色からほぼ黒色まで色々である。腹部上面も明褐色からほぼ黒色まで差があり、緑色や白色を帯びる個体も見られるなど色彩変異が多い。腹部後半には状斑があり前方には肩突起がある。同属のヤエンオニグモ、ヤマオニグモと似るが、外雌器の交尾口の向き、オス触肢の亜端部突片の先端の形状で区別できる。夜間に大型の垂直円網を張り網の中心にいるが、昼間は物陰に潜むという特徴的な生態をもつ。</p> <p>人家、神社、寺院などの建物の周囲に生息する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である樹林環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-11-36(3) 重要なクモ類の予測結果（コガネグモ）

項目	内容	
生態	体長雌 20～25mm、雄 5～6mm。腹部の黒と黄色の横縞が特徴である。草木類の間に垂直円網を張り、X 字状の糸（かくれ帯）を付け、その中央に止まる。一般に、日当たりのよいところに多い。網の近くに不規則に糸を引き、淡緑色の卵のうを吊す。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-36(4) 重要なクモ類の予測結果（シロオビトリノフンダマシ）

項目	内容	
生態	<p>体長雌 6～8mm、雄 1.5mm。頭胸部は赤褐色、腹部背面の地色は茶褐色で、横に黄白色～白色の帯がある。後方は淡黄色となるが、色彩は個体によって変異がある。</p> <p>都市公園から山地にいたるまで、広く分布する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において 1 箇所 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<p>・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。</p> <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-36 (5) 重要なクモ類の予測結果 (ツシマトリノフンダマシ)

項目	内容	
生態	<p>体長雌 6～7mm、雄 2～3mm。腹部は赤色で中央に 4 個、周辺部に 8 個の黒色円紋がある。一見、ナナホシテントウに似る。名前のツシマは最初の発見地の対馬による。</p> <p>おもに市街地の公園から低山に生息する。夜行性で、枝葉間に同心円水平円網を張る。日中は広葉樹や笹など葉の表や裏に静止する。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林環境において 2 箇所 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2 箇所 2 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 <p>以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・確認地点は、直接改変区域外であるため、生息確認地点が残る。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。</p>	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-11-36(6) 重要なクモ類の予測結果（カコウコモリグモ）

項目	内容	
生態	体長雌雄 5～7mm。雄の背甲は一様に黒色。雌は黒褐色で中窩は茶褐色。雌雄とも腹部背面は茶褐色で、黒褐色と白色斑が複数ある。歩脚は褐色で各節に長い刺を有する（Tanaka, 1998）。海岸や河口付近の塩性ヨシ原に限って棲む。同じヨシ原でも海岸以外には生息していない。成体は 5～8 月にかけて見られ、ヨシ原内を素早く動き回る。6～8 月頃には、雌は卵のうを糸器に着けた個体や、子グモを背負う個体が観察される。同じ環境にはクロベンケイガニやベンケイガニなどカニ類も多数生息している。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1 箇所 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 箇所 1 個体
生息環境の 分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤード 及び工事用道路等 の設置による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さい。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じない。 以上より、工事中にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・確認地点は、直接改変区域外であるため、生息確認地点が残る。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分で、周辺には同様の環境が残る。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測される。	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

(3) 環境保全措置の検討

1) 環境保全措置の検討の状況

予測の結果、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る動物の影響は極めて小さいと予測されることから、環境保全措置の検討は行わないこととしました。

(4) 評価

1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る動物の影響が、事業者により実行可能な範囲内で行える限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象路線の検討にあたっては、集落・市街地、重要な地形及び地質、動物や植物の重要な種、景観の保全上重要な箇所等への影響をできる限り回避する計画としています。

対象道路は、土工部にはカルバート等が設置される計画としており、生息環境を広く移動する種の移動経路は確保されます。

一部の範囲においては、トンネル工事の実施に伴う湧水量や河川流量の減少が懸念されますが、地下水に依存する特殊な種は確認されていないこと、一部の河川等が影響を受けても同様の水辺の生息環境は広く残存することから影響は小さいと予測されました。

また、以下の事項に配慮することとしており、重要な哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物、昆虫類、陸産貝類及びクモ類への影響は極めて小さいと予測されました。

[環境配慮事項]

- ・ 工事に用いる建設機械は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」（ただし、法の適用除外の機種については「排出ガス対策型建設機械指定制度」の二次基準以降）に適合した建設機械、低騒音・低振動型建設機械を基本とし、環境負荷が小さい建設機械や工法を積極的に導入することで、排出ガスの発生や騒音・振動等の低減に努めます。
- ・ 工事従事者への講習・指導として、工事区域外への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による動植物への影響の低減に努めます。
- ・ 走光性のある重要な種及び光環境が繁殖に影響を及ぼす重要な種の生息環境となる水

田等の近傍に設置する道路照明について、照明光の道路外への漏洩の抑制する照明器具の採用、照明光の波長や配置等の配慮を行うことにより、照明光への誘因や照明光による繁殖阻害を抑え、照明光による環境影響の低減に努めます。

- ・ 建設発生土の仮置きやトンネル排水等、工事の実施に伴って発生する濁水の影響を低減するために、沈砂池等の濁水処理施設で処理した後に公共用水域に放流することにより、水質への影響の低減に努めます。
- ・ 河川内での工事を行う場合には、仮締切工法などを採用したうえで、工区内にてコンクリートを十分乾燥させ、河川下流側のpHに異常が生じないことを確認するなど、水質、動物、植物、生態系への影響の低減に努めます。

これらのことから、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る動物（重要な種及び注目すべき生息地）の影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。